

若者の性交と避妊に関する研究  
—若者への性教育のあり方の検討—

# 目次

はじめに	1
第1章 若者について	2
1. 近年の若者の傾向	
2. 恋愛・結婚面における変化	
3. 性行動における変化	
第2章 性教育について	4
1. 日本の性教育の歴史	
2. 性教育の現状	
3. 性教育の国際比較	
第3章 避妊について	7
1. 避妊行動の現状	
2. 避妊方法の種類	
3. 近年のピルの変化に関して	
第4章 妊娠について	10
1. 合計特殊出生率の変化	
2. 人工妊娠中絶について	
第5章 若者のセックス（性交）と避妊に関する質問紙調査	12
1. 問題提起	
2. 目的	
3. 用語の定義	
4. 方法	
5. 結果	
6. 考察	
第6章 総合考察	73
1. 総合考察	
2. 今後の課題と展望	
3. 結論	
おわりに	78
引用文献	79
資料	82

## はじめに

多くの人々は、学校で教えられたわけでもなくとも、大人であれば「性交（セックス）」の存在を知っている。そのイメージは、「エロいこと」「裸であんなことするなんて気持ち悪い」「気持ちいいらしい」「好きだからすること」と、多種多様である。また、その行為をすると妊娠することも当たり前のように知っている。では、その妊娠を避けるための「避妊」はどこで詳しく知るのだろうか。

筆者は高校時代、保健体育の授業で人工妊娠中絶をする人達のドキュメンタリーDVDを観て、衝撃を覚えた。避妊ができずに妊娠して、恋人を頼れず不安を抱える女性や、手術室を前にして涙を流す女性の映像が流れ、これがフィクションでないことへのショックと、あまりの重々しい空気に耐えられなかった。それと同時に、自分がもしこういう状況になったらどうしたらいいのか、そもそも避妊について自分はちゃんと分かっているのか、疑問に思った。大学では不妊治療に関する授業を受け、なかなか子供ができず心身ともに辛い思いをする人もいることを知り、あのドキュメンタリーの中絶をする女性と比較するとなんて皮肉な世の中なのだと落胆してしまった。

確実な避妊行動は、自身の人生に関わる内容であるにも関わらず、学校では具体的に教えない。教育が行き渡らないために、このように苦しむ人が大勢いることに、筆者は問題意識をもった。

したがって、本研究では、若者の望まない妊娠を防ぐためにはどのような教育をしたらいいのか検討するために、性交と避妊に関する意識と行動の実態を明らかにする質問紙調査を行う。現代の若者が避妊に対してどのように捉えており、自分の身もパートナーも守る行動ができているのかを分析し、全体像を捉えた上で、若者に向けた性教育のあり方を考えていく。

なお、筆者の卒業論文に基づいた SDGs 探求 AWARDS2023 学生部門優秀賞受賞による公開用本 PDF では、卒業論文内では記載した自由記述の一部について、研究倫理における個人情報保護の観点から非公開とした。該当箇所は、その旨を記載した。

## 第1章 若者について

### 1. 近年の若者の傾向

近年、現代の若者を表す名称として、「Z世代」という言葉が話題になっている。NHK(2021)によると、Z世代とはおおむね1990年代中盤以降に生まれた世代のことを指し、日本では「ゆとり世代」に変わる新たな若者像として関心が高まっている。例えば、「人と比べるより、自分が満足できるほうがかっこいい」という考え方はZ世代ならではの価値観である。昭和や平成の若者の「人よりも高いものをより早く手に入れたい」という考え方とは異なっており、その変化の要因として日常的なSNSの使用があると言える。Z世代が中心に使用するInstagramのような発信型SNSの世界では、行き過ぎたおしゃれではなく、ある程度親しみやすく周りに共感されやすいものに「いいね」がつき、そのために若者は消費活動をしていると言ってもいい。

しかし実際のところ、現代の日本の若者の自己満足感が高いとは言い難い。内閣府(2019)が行った平成30年の意識調査によると、自分に長所があると感じている若者の割合は、平成25年度の調査時よりも低下しているという。さらに、日本人の若者は諸外国の若者と比べて、自分自身に満足している者・自分に長所があると感じる若者の割合が最も低いことが分かり、また、他人に迷惑をかけないからといって何をしてもよいと考える割合は低かった。周りに共感されることを望む若者にとって、社会規範の逸脱は避けたい行為であると考えられる。つまり、日本の若者は、価値観は変化しても自己肯定感は世界的に低いが、集団として活動していく上で必要な社会規範の意識は高いと言える。

### 2. 恋愛・結婚面における変化

世代による価値観の変化によって、日本の若者の恋愛や結婚の面にも意識・行動の変容がみられる。

まず恋愛面では、国立社会保障・人口問題研究所(2021)によると、18～34歳の未婚男女で、異性の交際相手がいないのは全体の7割前後、特に交際を望んでいないのは3割程度であり、その割合は増加しているという。また、高坂(2013)は、大学生の男女で「恋人はいないが、欲しいとは思わない」と回答した者を恋愛不要理由によって分類すると、強く恋人を欲しいと思っていない「恋愛拒否群」、恋愛に対する自身がないことを特徴とする「自信なし群」、恋人はいずれできると思っている「楽観予期群」、過去の恋愛での失恋や嫌な経験を引きずっている「ひきずり群」、特段明確な理由があるわけではない「理由なし群」の5群になると判断した。これらの結果から、様々な理由により交際を望まない若者が増えていることが分かる。さらに、出会い方も変化しており、国立社会保障・人口問題研究所(2021)によると、恋人または婚約者のいる未婚男女の10人に1人以上が、インターネットを使ったサービスを介して異性の交際相手と知り合っており、友人、職場経由が2015年の前回調査から減少していることが明らかになった。つまり、若者の出会いの方法として、SNSやマッチングアプリの利用が当たり前になっていることが分かる。

結婚面では、国立社会保障・人口問題研究所（2021）によると、「いずれ結婚するつもり」と考える18～34歳の未婚者は、男女、年齢、生活スタイルの違いを問わず減少していることが示された。

### 3. 性行動における変化

次に、恋愛や結婚とも深く関わる、性行動における変化をみていく。1974年の第1回から6年ごとに第8回まで、青少年の性行動を調査している日本性教育協会（2019）によると、高校生、大学生のキス経験率・性交経験率は低下がみられ、性行動の不活発化が明らかになった。これらの理由の1つとして、針原（2018）は、性に対する否定的イメージ（楽しくない、きたないというイメージ）が増大しており、友人と性について会話をしなくなったことがあげられると述べている。一方、2000年代生まれの特に女子において10代前半における性行動の経験率が高まっており、一部の層における性行動の低年齢化が進行していることも分かった。

以上から、性行動においても、恋愛や結婚と同じく消極的な変容をしていると言える。

## 第2章 性教育について

### 1. 日本の性教育の歴史

日本の性教育はどのような経緯を歩んできたのかを、順を追って取り上げる。

まず、第二次世界大戦以前の性教育から取り上げる。江戸・明治時代では、現代の性教育はほとんど存在しておらず、大正時代は西洋思想の影響が徐々に表れたが、昭和時代には軍国主義色の強まりに伴って人的確保の観点から性の問題が論じられたため、性教育の概念は現代とは程遠いものであったという（林, 1986）。

第二次世界大戦後、売春婦の増加や性感染症の罹患者の急増が起これ、これらの大人の性行動が青少年を刺激したという背景のもと、「結婚まで性交渉を控える」ことを教える「純潔教育」という呼称で日本の性教育は始まった（西岡, 2018）。朝日新聞（2023a）によると、純潔教育の対象は女性のみで、性行動は恥ずかしいもの、抑制すべきものとする教育であったという。文部省純潔教育委員会が設立され、1949年には純潔教育基本要項を発表し、戦後の性教育の基本理念として1970年代まで続いたという（橋本・池谷・田代, 2018）。

その後、女性運動（ウーマンリブ運動）の高まりと並行して1972年に日本性教育協会が設立し、「純潔教育」から「性教育」へ呼称が変わった（朝日新聞, 2023a）。1980年代後半にはエイズ（後天性免疫不全症候群）などの社会問題が明らかになり、性教育ブームが起こった。1989年に学習指導要領が改訂されたことで、小学校5年生の理科で「生命の誕生」を扱うようになり、初めて小学校の保健の教科書も登場するなど大きな変化が起こった。この学習指導要領が施行された1892年は、「性教育元年」と呼ばれている。

しかし、1998年に再度学習指導要領が改訂され、中学校の保健体育で「妊娠の経過は取り扱わないものとする」などの「はじめて規定」が初めて記載される（朝日新聞, 2023a）。加えて、2002年に、性交・避妊法などを中学校で教えることを「行き過ぎた指導」「過激な内容」と国会で取り上げられるという「性教育バッシング」が起こり、以後10年ほど学校における性教育は低迷していた（西岡, 2018）。2003年7月に東京都立七尾養護学校での性教育実践が都議会で問題になり攻撃されたことは有名である（橋本ら, 2018）。近年では、2018年に東京都足立区立中学校での総合学習の性教育の授業が「学習指導要領を逸脱しており不適切」だと都議会で批判された。

「純潔教育」から始まった日本の性教育は、社会的な問題から必要性が明らかになるにしたがって「性教育」という名称に変化した。しかし、文部科学省は行き過ぎた性教育を防ぐための「はじめて規定」を設けており、学校側はその条件下でどう教えるべきか模索している状況である。

### 2. 性教育の現状

次に、日本の性教育の現状と、それを取り巻く環境について取り上げていく。

日本の教育は、学習指導要領に基づいて行われており、かつ授業で使用する教科書にも文部科学省の意向が強く反映されている（橋本ら, 2018）。

まず小学校において、「受精に至る過程」は学習指導要領で取り扱わないとされており、性感染症であるエイズ学習は資料扱いとなっているという（橋本ら,2018）。小学校ではほとんど性教育に関して扱わないと言っていいだろう。

次に中学校において、学習指導要領で「受精・妊娠」は取り扱うが、「妊娠の過程」は取り扱わない範囲とされている（文部科学省,2017）。また、「性交」ではなく「性的接触」という表記で指導をし、性的接触が何を意味するのか、避妊については明記されていない。そのため、性感染症の予防として、性的接触をしないこと・コンドームを使うことなどが有効であると教科書には記されているが、その性的接触・コンドームが何なのかは中学校では分からないということになる。

次に高校において、学習指導要領には「生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする」と記されている（文部科学省,2018）。橋本ら（2018）は、高等学校は性教育のメインであるとしており、小学校・中学校と比較すれば、教えられる範囲は広まっている。しかし、明確に性教育で何を教えるのかを示していないことから、生徒が十分に知識を得られるとは言い切れない。

一方、性教育の一部の分野では意識の高まりがみられる。朝日新聞（2023b）によると、2023年春から使われる小学校教科書の検定結果が公表され、保健の教科では、性自認についてのコーナーや、同性愛を念頭に「異性や好きな人と話したい」と表現するといった、LGBTQなどの「性の多様性」を意識する社が目立ったという。そのため、性教育において全てが停滞しているわけではないが、特に性交に関わる内容ははっきりと教えるのが難しい状態にあると言える。

加えて、性教育は恥ずかしいというイメージが、教える上での大きな足かせになっている。反橋（2018）が行った私立学校保健体育教員へのインタビュー調査によると、性教育授業での生徒の反応が鈍く女子生徒が顕著であり、これは男子生徒から快楽や支配の対象とされることを危惧しているためであると指摘している。

しかし、このような中で性教育に力を入れる学校も存在する。例として、吉祥女子中学・高等学校では、避妊がテーマの授業でコンドームを正しくつける「実習」を行い、ピルや女性用コンドームについても教えるなどの、先駆的な性教育を行っていたという（朝日新聞,2001）。吉祥女子中学・高等学校（2018）によると、2018年時点ではあるが、この学校では50年以上前に性教育委員会が組織され、教育実践は社会の変化に対応するために絶えず新しい試みを加えながら受け継がれているという。

また、性交（セックス）についての知識や情報を得ている場所に関して、日本性教育協会（2019）の調査では、中学生・高校生ともに「友人や先輩」と回答した割合が全体で最も高く、「学校（先生、授業や教科書）」と回答した割合が「インターネットやアプリ、SNSなど」と回答した割合とほぼ同等であると示されている。学校での教育以外にも、間違った情報が蔓延るネットやそれを信じた友人や先輩から知識や情報を得るのが主流になっていると言えるだろう。

さらに家庭での場合、森本・前原・佐藤（2019）は、親が家庭で性教育を行うための要素を身につける教育プログラムなどの内容が不足していることは明白だと指摘している。

このように、学校やそれ以外で青少年が性の知識を身につける機会があっても、それが十分に機能しているとは言い難い現状である。

### 3. 性教育の国際比較

次に、国際的には性教育にどのような動きがあるのか取り上げる。

まず、性教育を行う上で世界の国々に大きな影響を与えているのが、ユネスコが中心となって開発した、年代ごとの学習目標を示す「国際セクシュアリティ教育ガイダンス（以下、ガイダンス）」であり、関係性、価値・権利・文化、ジェンダーの理解など広い範囲の内容を教える「包括的性教育」を行うことが記されている（NHK, 2018）。プラン・ユースグループ（2021）によると、包括的教育を知っているか日本の15～19歳の男女に調査したところ、知らないと答えた人は全体の7割を超えたと示されている。まだ日本ではあまり行われていない教育ではあるが、このガイダンスを参考にしながら、性教育に積極的に取り組んでいる国は多くある。

例えば、中国の性教育に関して、橋本ら（2018）は以下のように述べている。中国にはユネスコのガイダンスを基盤とした教科書があり、国の文化に沿った形でガイダンスを具体化した教材として注目されている。具体的には、性の多様性を含むジェンダー平等、同性愛の肯定、処女膜の誤解、自慰行為が正常な行為であること、コンドームの使い方の解説など、包括的性教育として評価できる点が多くある。

また、避妊に関する性教育が進んでいる国として日本と同じ先進国のフランスが挙げられ、橋本ら（2018）は以下のように述べている。フランスでは、生物・地学の教科書で人間の性や生殖に関する内容を取り上げている。特徴的なのは、中学校の教科書で多様な避妊法について詳しい記述があることである。従来からの避妊法に加え、女性用コンドームなどの新しい避妊法や、ピルを飲み忘れた場合・避妊なしで性交を行なった際の対処法などが記載されている。

さらに、日本に近い国の韓国の性教育に関して、韓国では小中学校の教科書で、性被害に遭った際の相談方法や、被害後に身体を洗い流さず病院を受診することなど、性の健康についての内容を具体的に教えているという（読売新聞, 2022）。

このような他国と比較すると、日本の学校の性教育は非常に実用性がなく、はじめて規定によって十分な教育ができていないことが分かる。

さらに、イギリス・ドイツ・オランダ・フィンランド・スウェーデンなど性教育は家庭で行うことが親としての役割遂行とする国もあり、親に対する教育プログラムが存在する国があるが、日本にはその教育プログラムは少ないという（森本ら, 2019）。

以上のことから、国際的に捉えても、日本は性教育後進国であると言える。さらに他国のように実用的な知識を教わる機会がないため、具体的な性の知識を身につけるには周りの仲間やネットなどから情報を得るしかなく、非常に危機的な実情であると言える。



## 第3章 避妊について

### 1. 避妊行動の現状

まず、現状把握として、若者の避妊行動はどのように行われているのかを取り上げていく。

日本性教育協会（2019）の2017年の調査によると、大学の男女の性交の際の避妊実施に関して、「いつもしている」が男子で74.1%、女子で74.7%、「場合による」が男子で23.7%、女子で23.5%、「いつもしていない」が男子で2.0%、女子で1.0%であることが示されている。学生のうちで妊娠して子どもを育てられる環境は整っていないことがほとんどであると想定したとき、避妊行動が十分に行われているとは言い難い。

また、少し前の年代の避妊の現状も示していく。今野（2003）は、大学生を対象に避妊に関する意識・行動調査（選択回答式）を実施し、彼らは人間関係を大切にしながら避妊行動を選択する意識がみられるが、相手任せ・場当たりの避妊行動をとる者も少なくないことを示した。また、山口・小笠原・堀田（2007）は以下のように指摘している。大学生で、避妊が必要だと理解していても、実際に避妊行動がとれる者ととれない者がいる。また避妊行動がとれない者は、相手もしくは自分が避妊していないときにも、自分の問題として無関心・他人事と捉えられていないといい、彼らは自我関与が弱いとうかがえた。以上から、2000年代の若者は、避妊行動をとる者もとらない者もあり、意識面とのズレがあることが明らかになった。

さらに、「避妊は男性・女性のどちらが主体的に取り組むのか」の考えに関する国際比較では、スウェーデンやアメリカ・フランスは「女性が主体的にすべき」が優勢であるのに対し、日本は特に「男性が主体的にすべき」が優勢であると示されている（内閣府,2005）。つまり日本では、実際に妊娠のリスクがある女性が男性の避妊行動に頼っている部分があると推測される。

### 2. 避妊方法の種類

次に、主な避妊方法の種類について取り上げる。

避妊法とは、男女の身体の仕組みから工夫された妊娠を避ける科学的な方法であり、男性側で行う方法と、女性側で行う方法がある（上田,2008）。日本性教育協会（2019）は、「青少年の性行動全国調査」における避妊方法を尋ねる質問では、「コンドーム」・「ピル（経口避妊薬）」・「月経からの日数を数える（オギノ式）」・「基礎体温をはかる」・「膣外射精法（精液を外に出す）」が回答の主な選択肢としてあった。以下は、この5点の避妊法について詳しく述べていく。

第1に、「コンドーム」とは主に男性側が行う方法であり、日本で最もポピュラーな避妊法である。長所としては、副作用が全くないこと、手軽に購入できること、使用が簡単であることなどが挙げられる（関口,2021）。また、日本WHO協会（2020）は、妊娠とHIVを含む性感染症の両方を予防できるのは、コンドームのみであるとしている。しかし、感覚が鈍くなるという理由からつけたがらない男性が多いことや、射精直前まで装着しない、破損す

ることを考慮した場合の一般的な使用法での避妊成功率は 85%と、十分な避妊法とは言い切れない（上田, 2008）。また、理想的な使用をしても、避妊成功率は 97%で完全ではない（関口, 2021）。

第 2 に、「ピル（経口避妊薬）」、別名 Oral Contraceptives (OC) とは、女性側が行う方法であり、排卵を止めることで避妊をする方法である。長所としては、毎日正しく服用することで避妊にほぼ 100%の効果があること、副作用が少ないこと、男性の意志に左右されないことが挙げられる（上田, 2008）。しかし、医師の処方が必要であるため入手が簡単ではないこと、高価であること、「遊んでいる女性」というピルへの誤解と偏見があることが、ピルがあまり日本で普及しない理由として挙げられる。また、緊急避妊薬という、性交後 72 時間以内であれば効果がある避妊薬がある（関口, 2021）。婦人科や産婦人科で入手することができ、価格が約 15,000 円と高価なことが特徴と言える。

第 3 の「月経からの日数を数える（オギノ式）」、第 4 の「基礎体温をはかる」についてまとめて述べていく。この 2 点は、排卵期を知ってその時期の性交を避ける方法であり、成功率は 70%とかなり低い（上田, 2008）。さらに、妊娠しやすい日はあってもいわゆる「安全日」はなく、いつ排卵があってもおかしくないため、この 2 点は誤解の多い避妊法である（関口, 2021）。

第 5 に、「膣外射精法（精液を外に出す）」を取り上げる。こちらも、「月経からの日数を数える（オギノ式）」「基礎体温をはかる」と同じように誤解の多い避妊方法であり、一般的な方法では、避妊成功率は 81%である（関口, 2021）。なぜなら、射精の前にも性器からはカウパー腺液（いわゆる我慢汁）が分泌されており、そこには精子も含まれているためである。この事実を誤解している人が多く、確実性のない避妊に繋がっていると考えられる。

このように、よく知られている避妊法でも、避妊のしやすさにおいて欠点はある。今野（2003）は、大学生は「入手しやすい」「費用が安い」「使用が簡単」「確実性が高い」避妊法を望んでいるが、実際にこのような避妊法が存在しないため、不確実な避妊法であっても用いているという実態があると述べている。つまり、若者が本当の意味で確実な避妊行動をすることはハードルが高いと言えるだろう。

### 3. 近年のピルの変化に関して

次に、ピルの近年における目覚ましい変化について取り上げる。

まず、以前のピルの状況について述べていく。日本性教育協会（2019）によると、実際のピルの使用率は大学の男子で 3.4%、女子で 7.6%と、1 割にも満たなかった。また、今野（2003）によると、1999 年 9 月に低用量ピルが日本で認可されたが、若い世代には避妊の選択肢として普及していなかったようだ。日本性教育協会（2019）は、ピルが普及しない理由として、医療機関への受診（医師の処方箋）が必要であること、避妊目的の購入では保険適用外であるため費用が高額であることを挙げている。

しかしそのような中、医療機関への受診の負担がピルのイメージから払拭するのではないかと思われる変化が起こっている。メダリ株式会社（2022）は、2022 年 1 月からスマホから簡単に受診できるオンラインピル診療サービス「メダリピル」を提供しており、低用量

ピル以外にアフターピル（緊急避妊薬）も取り扱っている。このほかにも、「ルナルナ」「スマルナ」など様々なオンラインピル診療サービスがあり、CM や SNS の広告などで認知度を高め、需要を拡大していると言える。

さらに、緊急避妊薬に関しても変化が起こっている。毎日新聞（2023）によると、厚生労働省の検討会議は、全国の一定要件を満たした薬局で緊急避妊薬を試験的に販売する厚労省案を了承し、早期の市販化に向けて動き出したという。2017 年にも市販化は議論されて見送られており、厚労省が実施した意見公募では約 98% が賛成意見を占めている。

ピルの入手の手軽になったり、誤解と偏見が薄れたりすることで、今後はピルの使用率にも変化が出てくるのではないだろうか。

## 第4章 妊娠について

### 1. 合計特殊出生率の変化

第3章のような避妊をしなかった場合に、起こりえることは妊娠である。

近年、日本では人口減少とともに出生数が激減しているが、同時に合計特殊出生率も減少している。NHK（2022）は、以下のように指摘している。2021年の時点で合計特殊出生率は1.30となり、6年連続で前年を下回っていたという。さらに、その低下の理由として、厚生労働省は「10代後半から40代の女性の人口が減少していることに加え、晩婚化で、出産する年齢が高くなっていることも影響しているとみられる。また、新型コロナウイルスによる先行きへの不安から、妊娠を控えた女性もいたのではないかとしている。以上のことから、日本において女性が妊娠することは当たり前ではなく、むしろその割合は今後も減少傾向がみられると考えられる。

### 2. 人工妊娠中絶について

避妊に失敗するなどして、望まない妊娠をしてしまった場合、考えられる選択肢として人工妊娠中絶（以下、中絶）がある。

厚生労働省（2021）は、中絶について以下のように述べている。

母体保護法第二条において、人工妊娠中絶とは、胎児が、母体外において、生命を保続することのできない時期に、人工的に、胎児及びその付属物を母体外に排出することと定義している。同法第十四条において、人工妊娠中絶は身体的、経済的、暴行脅迫の理由により実施される。

望まない妊娠についての考え方には外国と差があり、内閣府（2005）によると、「中絶は女性の権利として認められるべき」と回答した人が、フランスやアメリカでは半数以上を占めていたが、日本では16.1%で、「母体に害なら中絶が認められるべき」「経済的に母体に害なら認められる」が多数派であったため、外国とは異なる傾向がみられたという。つまり、日本では中絶を女性の権利として考える人は少なく、あくまで出産することで害があるかで中絶を捉えている人が多い。

また、日本の中絶件数の現状をみていく。我が国の年間累計中絶件数は、2020年では145,340件であり、年々減少している（厚生労働省,2021）。さらに朝日新聞デジタル（2020）は、日本の中絶件数は1955年で117万件を越えていたといい、比較すると大幅に減少している原因として、日本人女性の社会的な地位の向上や、避妊のためのコンドームの普及、セックスに対する消極性などがあると考えられている。HealthDay（2007）は、世界的にも先進国は中絶件数が減少傾向にあり、それは、中流階級層の増加とともに、より効果的な避妊法がとられるようになったからであると指摘している。

そのような現状ではあるが、中絶の件数は無くなってはいない。加えて、仮に望まない妊娠をして中絶することを選択した場合、女性には身体的・経済的、特に精神的に大きな負担がかかる。安田・荒川・高田・木戸・サトウ（2008）によると、中絶を経験した女性は、パ

ートナー話すことへの配慮や、実際に話したときの対応の悪さ、「中絶＝良くないこと」という社会の否定的態度などで精神的に辛い思いをしたことがみてとれる。また日本家族計画協会（2017）は、女性が「最初の人工中絶を受ける時の気持ち」として、「胎児に対して申し訳ない気持ち」と「自分を責める気持ち」が大半であった。野崎（2012）は、従来、中絶の是非は胎児の生まれる権利を軸にした中絶禁止論と、女性の身体処分に關する自己決定の権利を軸とした中絶肯定論があると指摘している。したがって、中絶に対して罪悪感・責任を感じている女性たちは、中絶禁止論の意義を偏重しているために、そのような辛さを感じるのではないかと考えられる。そもそも中絶は多くの人にとって苦しい出来事となってしまうが、人生において大切な選択だと感じることも大事であると言える。また、このような思いをする人を少しでも減らすために、確実性のある避妊を促すことは非常に意味がある。

## 第5章 若者のセックス（性交）と避妊に関する質問紙調査

### 1. 問題提起

現代の日本の若者では交際や結婚をしたくない人が増え、それに伴い性行動も消極的な変容がみられた。子どもを産む女性も年々減少している。しかしこのような背景でも、望まない妊娠をし、中絶をせざるを得なくなっている女性もいる。さらに、日本の性教育ははじめ規定が設けられたことで、学校では実用的な性に関する知識を教わる機会が無い。また、それを身につけるために周りの仲間やネットなどから情報を得ており、本当に正しい知識が行き渡らない可能性があることが分かった。実際、大学生で避妊を時々・いつもしていない人は全体の約4分の1であり、十分な教育が得られなかった結果が出ていると言える（日本性教育協会, 2019）。そもそも性交などの性行為に現実味を感じない若者が増えていること、実際に行為をするとなっても正しい知識があるか分からないというこの現状は、非常に危険であると考えられる。

以上のことから、本研究では以下の5点について検証していく。

第1に、先行研究である日本性教育協会（2019）が2017年に実施した「第8回 青少年の性行動全国調査報告」との差異について検討する。2023年に行った本研究は、先行研究から6年が経過しているため、恋愛・性行動に関する考え方や行動が変化しているのではないかと考えた。本研究は、この先行研究と同様の質問項目を多くし、それで比較することができる。

第2に、若者が性交をしたいと思う理由・したいと思わない理由、性交のイメージ・避妊の捉え方などについての自由記述回答を検討する。若者の中で恋愛が当たり前ではなくなったため、性交等について身近に感じる若者が少なくなっている。それを考慮した内容も含めて、自由記述で考え方を書いてもらった。そのため、それぞれの多様な回答がみられるのではないかと考えた。

第3に、今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人の行動・考え方や、今は知識程度だが性交する意思がある人の仮の話での考え方や行動の検討をする。両者を比較することで、いわゆる、「現実と理想」のギャップをみていく。

第4に、恋人以外の相手と性交したい人や避妊頻度が低い人といった、一見不誠実だと思われるような人の特徴について検討する。上記の人々に関する先行研究は、見当たらなかったりかなり前の年代の研究であったりする。本研究を行うことで、実際に恋人以外の相手と性交したいと思わない人・避妊をいつもしている人と比較して、彼らがなぜそのような行動を起こそうとするのかを探っていく。

第5に、性交や避妊についての不安や性の悩みを検討する。その内容や不安の解消方法の回答を求め、これらも踏まえて今後の性教育のあり方を考える。したがって、「若者を対象にした性教育」の検討にも大きく前進する。

## 2. 目的

本研究では、以下の仮説を検証することを目的とする。

仮説 1 性交状況について

仮説 1-1 女性は男性よりも、恋人と性交をしたくない人が多い。

仮説 1-2 男性は女性よりも、恋人以外で性交相手がいる人が多い。

仮説 1-3 男性は女性よりも、恋人でない人と性交をしたい人が多い。

仮説 2 今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人は、今は知識程度だが性交する意思がある人よりも避妊頻度が低い。

仮説 3 性交相手とのコミュニケーションについて

仮説 3-1 社会人は学生よりも、性交をしたくないときに性交相手に伝えられる。

仮説 3-2 女性は男性よりも、性交をしたくないときに性交相手に伝えられない。

仮説 3-3 避妊をいつもしている人は、避妊頻度が低い人よりも、性交をしたくないときに性交相手に伝えられる。

仮説 4 性に関する知識について

仮説 4-1 避妊頻度が低い人は、避妊をいつもしている人よりも、膣外射精に関する知識が間違っている・分からない人が多い。

仮説 4-2 社会人は学生よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 4-3 男性は女性よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 4-4 性交経験がある人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 4-5 恋人がいる人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 4-6 恋人以外の性交相手がいる人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 4-7 避妊の知識を学校（先生、授業や教科書）で得ている人は得ていない人よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 4-8 今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人は、今は知識程度だが性交する意思がある人と今は性交をする意思がない人よりも、性知識問題の合計得点が高い。

仮説 5 性交経験がない人はある人よりも、避妊の知識が必要だと思っていない。

仮説 6 性交と避妊への不安について

仮説 6-1 避妊頻度が低い人は避妊をいつもしている人よりも、性交と避妊への不安がある人が多い。

仮説 6-2 今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人は、今は知識程度だが性交する意思がある人と今は性交をする意思がない人よりも、不安解消法が多い。

仮説 6-3 不安を解消するのは、誰かに相談するよりも 1人で解消する方が多い。

仮説 7 性交のイメージには、プラス面からの意見より、「話しにくい」などのマイナス面からの意見が多い。

仮説 8 避妊の捉え方について

仮説 8-1 避妊の捉え方は、性交の経験がない人にとって未知である。

仮説 8-2 恋人でなくても性交をしたい人はしたくない人よりも、避妊に関して軽く捉えている。

### 3. 用語の定義

本研究で使用する用語について以下のように定義する。

適切な避妊行動：適切な避妊の条件には、①確実性の高い方法を用いて、②避妊を徹底して行うことが挙げられる（日本性教育協会，2019）

セックス：本研究では、性交を意味する。調査対象者には明確にセックス（性交）の定義は伝えておらず、かつ同性カップルなど様々な性の形があるため、生殖行為の挿入に限らない。

性別：本研究では、調査対象者本人が申告した身体の性別を、一般的な性別として捉える。性自認に関しては、考えないものとする。

所属：本研究では、主に学生と社会人（学生ではない人）に分けて捉える。

### 4. 方法

#### 4-1 質問紙の構成

質問紙は、①性知識に関する質問、②あなた自身についての質問、③性交と避妊の現状と意思に関する質問、④性に関しての捉え方に関する質問によって構成された（資料）。

##### ①性知識に関する質問

はじめに、日本性教育協会（2019）が作成した避妊・生理・性感染症に関する性知識に関する「正誤問題」を7問用いた。選択肢は、「正しい」「間違っている」「分からない」「文章の意味が分からない」の4択とした。

その後、「避妊の知識源」として、日本性教育協会（2019）が作成した選択肢を一部変更し、回答を求めた。

##### ②あなた自身についての質問

まず、性別関係として「身体の性別」、「性自認」を「男性」「女性」「その他」から尋ねた後、「恋愛対象」を「男性」「女性」「男性・女性どちらでも」「その他」、「性交経験」は「ある」「ない」「答えたくない」から回答を求めた。「恋人の有無」では「いる」「いないので、恋人と付き合いたい」「いないし、恋人と付き合いたくない」の3択とし、恋人がいる人に



は「同棲の有無」を「同棲している」「同棲していない」で回答を求めた。

さらに、恋人がいる人には、「恋人と性交をするか」から「している」「していない」、性交をしていなかったら「恋人と性交をしたいか」を「したいと思う」「したいと思わない」から回答を求めた。恋人がいないので付き合いたいという人にも、「仮にいたとして、恋人と性交したいか」を「したいと思う」「したいと思わない」から回答を求めた。

また、全員に「恋人以外の性交相手の有無」について「いる」「いない」を選択してもらい、いないと回答した人に「恋人以外の相手と性交したいか」について「したいと思う」「したいと思わない」で回答を求めた。

恋人との性交、恋人以外の相手と性交をしたいと思うか思わないかの理由に関しては、自由記述で回答してもらった。

### ③性交と避妊の現状と意思に関する質問

まず、それまでの回答で、性交相手がいる（今まさに避妊に注意しなければならない状況にある）人に質問をした。まず、「避妊の頻度」、避妊をしている人には「避妊方法」、避妊をしないことがある人には「避妊をしない理由」、「セックスをしたくないとき相手に伝えられるか」、「避妊について相手と話したことはあるか」に関して、日本性教育協会（2019）が作成した選択肢を一部改変して回答を求めた。セックスをしたくないとき相手に伝えられるかに対する理由と、避妊について相手と話したことがあるかに対するその内容に関しては、自由記述で回答してもらった。

次に、性交を希望している（今は知識程度だが性交をする意思がある）人に質問をした。主には、性交相手がいる人に対しての質問（「避妊について相手と話したことがあるか」以外）を、現状ではなく、もし性交相手がいたらどうかという想定のもとで回答を求めた。

また、性交したいと思わない（今は性交をする意思がない）人に「自分に避妊の知識が必要だと思うか」を「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思わない」「必要だと思わない」の4件法で尋ね、その理由は自由記述で回答してもらった。

### ④性に関しての捉え方

まず、「性交や避妊に関して不安に思ったことはあるか」を「ある」「ない」で回答を求めた。次に、ある人には、自由回答でその内容（任意回答）と、不安解消法を筆者が提示した選択肢から回答を求めた。

最後に、「セックス（性交）に対するイメージ」、「避妊に対しての捉え方」を自由記述で、「性に関する悩み」を任意回答で答えてもらった。

フェイスシート項目では、年齢、居住地（都道府県名）、所属、学生の場合は学校の種類・学年を回答してもらった。加えて、意見や感想を書く自由記述欄を用意した。

## 4-2 調査対象者

2023年度時点で、高校生と既婚者を除く18～29歳の若者341名を対象に調査を実施した。高校生と既婚者を対象外にした理由として、高校生では性教育の履修度に差があること、既婚者は避妊の必要性がほかの若者と異なることが挙げられる。便宜上、性別は「身体の性

別」で分け、男性 117 名(34.31%)、女性 224 名(65.69%)であった。

まず、学生の所属のうち、大学 280 名(82.11%)、短期大学 1 名(0.29%)、専門学校 3 名(0.88%)、大学院 6 名(1.76%)であった。大学所属のうち、大正大学の在籍者は 194 名(56.89%)、国公立大学の在籍者は 38 名(11.14%)、大正大学以外の私立大学の在籍者は 48 名(14.08%)であった。学年の内訳は、大学 1 年生 94 名(27.57%)、大学 2 年生 56 名(16.42%)、大学 3 年生 57 名(16.72%)、大学 4 年生 73 名(21.41%)、短期大学 2 年生 1 名(0.29%)、専門学校 1 年生 1 名(0.29%)、専門学校 2 年生 2 名(0.59%)、大学院修士課程 1 年生 4 名(1.17%)、大学院修士課程 2 年生 2 名(0.59%)であった。また、社会人の所属のうち、会社員（正社員）40 人(11.73%)、会社員（派遣・契約社員）3 名(0.88%)、公務員 2 名(0.59%)、パート・アルバイト 4 名(1.17%)、水商売 1 名(0.29%)、無職 1 名(0.29%)であった。

調査対象者の平均年齢は 20.48 歳( $SD = 2.15$ )であった。調査対象者の男女別年齢分布を、学生は図 1、社会人は図 2 に示した。

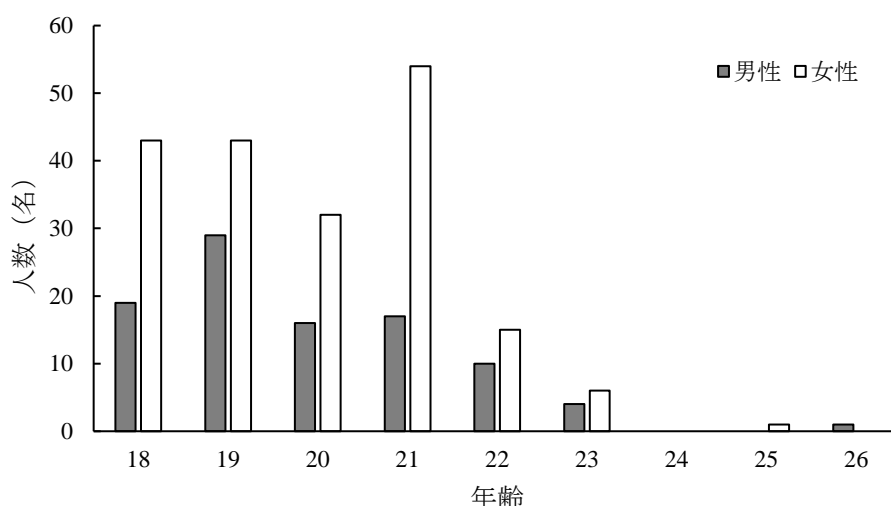


図 1 学生の男女別年齢

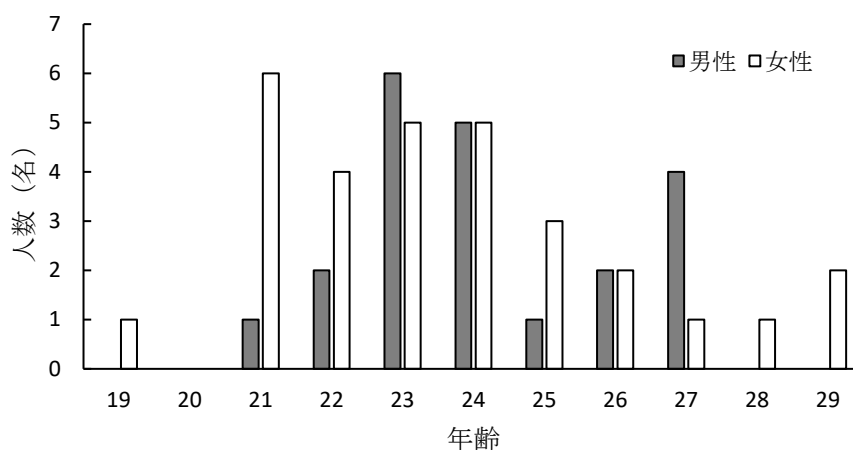


図 2 社会人の男女別年齢

調査対象者の居住地（都道府県名）を表1に示した。

表1 現在の居住地

都道府県	<i>n</i>	%
東京都	144	42.23
埼玉県	97	28.45
千葉県	44	12.90
神奈川県	28	8.21
茨城県	11	3.23
群馬県	6	1.76
沖縄県	3	0.88
北海道	2	0.59
鳥取県	2	0.59
栃木県	1	0.29
新潟県	1	0.29
長野県	1	0.29
兵庫県	1	0.29
合計	341	100.00

#### 4-3 手続き・調査期間

調査は、Microsoft Forms によるオンライン調査を行った。回答の収集方法は、2023年7月の大正大学の1つの授業でのアナウンスと調査依頼書の配布、筆者の個人的な依頼に基づいた収集であった。質問紙のURL・QRコードを配布し、無記名で回答後、送信された。非常にプライベートな質問が多いため、答えたくない場合は回答をやめてよいこと、匿名性は保たれることを伝えた。調査期間は2023年7～9月であった。

送信された回答は355部であった。そのうち、14名が調査対象外者であったため、有効回収率は96.06%であった。

また、分析にはIBM SPSS Statistics28を使用した。

## 5. 結果

### 5-1 調査対象者の属性について

#### 5-1-1 身体の性別と性自認について

調査対象者の身体の性別と性自認に関する度数を算出した。

身体の性を男性と回答した117名中、性自認が男性であるのは114名(97.44%)、女性であ

るのは0名(0.00%)、その他であるのは3名(2.56%)であった。その他の回答には、「クエスチョニング」「とくになし」などがあつた。

また、身体性を女性と回答した224名中、性自認が男性であるのは0名(0.00%)、女性であるのは213名(95.09%)、その他であるのは11名(4.91%)であつた。その他の回答には、「ノンバイナリー」「どちらでもない」「日によって変わる」などがあつた。

## 5-1-2 恋愛対象について

調査対象者の恋愛対象に関する性別と所属ごとの度数分布を算出した(表2)。

全体で、異性が262名(76.83%)、同性が15人(4.40%)、男性・女性どちらもが45名(13.20%)、その他が19名(5.57%)であつた。さらに、同性を選択した人は、学生男性で4名(4.17%)、学生女性で10名(5.15%)、社会人男性で1名(4.76%)と、少なくない人数であつた。特に、学生女性で男性・女性どちらもが40名であり、学生女性のうち20.62%と非常に多かつた。

その他の中には、「分からない」と自由記述で回答した人が10名(2.93%)と最も高く、「恋愛対象がない」「性別関係ない」などの回答もあつた。

表2 恋愛対象に関する度数分布

恋愛対象	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
異性	262	76.83	88	91.67	129	66.49	19	90.48	26	86.67
同性	15	4.40	4	4.17	10	5.15	1	4.76	0	0.00
男性・女性どちらも	45	13.20	4	4.17	40	20.62	0	0.00	1	3.33
その他	19	5.57	0	0.00	15	7.73	1	4.76	3	10.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100.00	30	100.00

## 5-2 性交状況について

### 5-2-1 性交経験について

性交経験の有無に関する性別と所属ごとの度数分布を算出した(表3)。

全体で、性交経験がある人が136名(39.88%)、性交経験がない人が193名(56.60%)、答えたくない人が12名(3.52%)であつた。学生では男女ともに性交経験がある人よりもいない人のほうが多く、社会人男性は性交経験がある人とない人は同じ度数であり、社会人女性は性交経験がない人よりもある人のほうが多かつた。

表3 性交経験の有無の度数分布

性交経験	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
ある	136	39.88	41	42.71	63	32.47	10	47.62	22	73.33
ない	193	56.60	51	53.13	124	63.92	10	47.62	8	26.67
答えたくない	12	3.52	4	4.17	7	3.61	1	4.76	0	0.00
<b>合計</b>	<b>341</b>	<b>100.00</b>	<b>96</b>	<b>100.00</b>	<b>194</b>	<b>100.00</b>	<b>21</b>	<b>100.00</b>	<b>30</b>	<b>100.00</b>

## 5-2-2 現在の恋人との性交に関する検討

現在付き合っている恋人の有無と性交希望に関する性別と所属ごとの度数分布を算出した(表4)。

全体で度数が最も高かったのは、現在恋人がいないため恋人と付き合いたい・性交をしたい人で114名(33.43%)であった。次に度数が高かったのは、現在恋人がいる・性交をしている人で76名(22.29%)、現在恋人がおらず、付き合いたくない人が75名(21.99%)と続いた。加えて、学生男性と社会人男女ともに、度数が高い上位2群が全体の分布の上位2群と同じであったのに対し、学生女性だけは、現在恋人がおらず、付き合いたくない人が53名(27.32%)、次に現在恋人がいないため恋人と付き合いたい・性交をしたい人で52名(26.80%)と続いた。

表4 恋人との性交に関する度数分布

現在恋人	性交	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
		n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
				n	%	n	%	n	%	n	%
いる	あり	76	22.29	17	17.71	40	20.62	6	28.57	13	43.33
	希望あり	17	4.99	6	6.25	8	4.12	2	9.52	1	3.33
	希望なし	12	3.52	2	2.08	7	3.61	1	4.76	2	6.67
	<b>小計</b>	<b>105</b>	<b>30.79</b>	<b>25</b>	<b>26.04</b>	<b>55</b>	<b>28.35</b>	<b>9</b>	<b>42.86</b>	<b>16</b>	<b>53.33</b>
いないので、 恋人と付き合いたい	希望あり	114	33.43	45	46.88	52	26.80	10	47.62	7	23.33
	希望なし	47	13.78	11	11.46	34	17.53	1	4.76	1	3.33
	<b>小計</b>	<b>161</b>	<b>47.21</b>	<b>56</b>	<b>58.33</b>	<b>86</b>	<b>44.33</b>	<b>11</b>	<b>52.38</b>	<b>8</b>	<b>26.67</b>
いないし、 恋人と付き合いたくない	(希望なし)	75	21.99	15	15.63	53	27.32	1	4.76	6	20.00
<b>合計</b>		<b>341</b>	<b>100.00</b>	<b>96</b>	<b>100.00</b>	<b>194</b>	<b>100.00</b>	<b>21</b>	<b>100</b>	<b>30</b>	<b>100.00</b>

現在恋人がいる人のうち、性交をしている人・性交をしていないが希望している人と性交をしておらず希望もしない人の性別ごとの分布は次のとおりである(表5)。恋人への性交状況と性別の独立性を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意差がみられなかった( $\chi^2 = 0.34, n.s.$ )

表5 恋人との性交状況の性別ごとの度数分布

恋人性交状況	男性		女性		全体		$\chi^2$
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	
性交あり・希望あり	31	91.18	62	87.32	93	88.57	0.34
希望なし	3	8.82	9	12.68	12	11.43	
計	34	100.00	71	100.00	105	100.00	

その後、現在恋人がいて性交をしていない人のうち、性交希望の有無の性別ごとの分布は次のとおりである(表6)。恋人への性交希望の有無と性別の独立性を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意差がみられなかった( $\chi^2 = 1.45, n.s.$ )。

表6 恋人との性交希望(性交有を含まない)の性別ごとの度数分布

恋人性交希望	男性		女性		全体		$\chi^2$
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	
あり	8	72.73	9	50.00	17	58.62	1.45
なし	3	27.27	9	50.00	12	41.38	
計	11	100.00	18	100.00	29	100.00	

また、現在恋人がおらず、付き合いたい人のうち、仮に恋人がいる場合の性交希望の有無の性別ごとの分布は次のとおりである(表7)。仮恋人との性交希望の有無と性別の独立性を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意差がみられた( $\chi^2 = 7.07, p < .01$ )。したがって、仮恋人との性交希望には性別で分布の偏りに違いがあることが示され、女性は男性より仮恋人との性交を希望しない人が相対的に多かった。

表7 仮に恋人がいる場合の性交希望の性別ごとの度数分布

仮恋人性交希望	男性		女性		全体		$\chi^2$
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	
あり	55	82.09	59	62.77	114	70.81	7.07 **
なし	12	17.91	35	37.23	47	29.19	
計	67	100.00	94	100.00	161	100.00	

\*\* $p < .01$

次に、恋人と性交している人・または性交したい人(仮恋人も含む)に「なぜ恋人と性交したいのか・するのか」、恋人と性交したいと思わない人(仮恋人も含む)に「なぜ恋人と性交したいと思わないのか」を自由記述で回答してもらい、性別と所属ごとの度数分布を算出した(表8-1,2)。

恋人と性交したい、または性交する理由には、「好きな人になりたいから」などの相手への愛情に関する意見が151個(86.29%)と非常に多かった。恋人と性交したいと思わない理由には、「自分からしたいと思わないから」などの性交に対しての消極的な意見が19個(42.22%)と多くみられた。

表 8-1 恋人と性交したい・する理由に関する度数分布（複数回答）

恋人性交希望あり理由	有効回答 (n = 175)		学生 (n = 139)				社会人 (n = 36)			
	n	%	男性 (n = 55)		女性 (n = 84)		男性 (n = 18)		女性 (n = 18)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>愛情系</b>										
好きな人になりたいから	62	35.43	18	32.73	29	34.52	7	38.89	8	44.44
愛情表現の1つだから	28	16.00	4	7.27	14	16.67	2	11.11	8	44.44
コミュニケーションの一環だから	20	11.43	5	9.09	9	10.71	1	5.56	5	27.78
相手を知れるから										
安心するから・満たされるから	12	6.86	7	12.73	3	3.57	1	5.56	1	5.56
繋がりを感ずるから										
スキンシップだから	12	6.86	1	1.82	8	9.52	2	11.11	1	5.56
恋人とするものだから	10	5.71	2	3.64	6	7.14	0	0.00	2	11.11
より親密になるため	5	2.86	1	1.82	3	3.57	1	5.56	0	0.00
必要だから	2	1.14	1	1.82	1	1.19	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>151</b>	<b>86.29</b>	<b>39</b>	<b>70.91</b>	<b>73</b>	<b>86.90</b>	<b>14</b>	<b>77.78</b>	<b>25</b>	<b>138.89</b>
<b>性欲系</b>										
性欲があるから	13	7.43	3	5.45	9	10.71	1	5.56	0	0.00
気持ちいいから	11	6.29	5	9.09	5	5.95	0	0.00	1	5.56
性交が好きだから	4	2.29	1	1.82	2	2.38	0	0.00	1	5.56
かわいいから・そそるから	2	1.14	2	3.64	0	0.00	0	0.00	0	0.00
性器が好きだから	1	0.57	0	0.00	1	1.19	0	0.00	0	0.00
娯楽もしくは雰囲気	1	0.57	1	1.82	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>32</b>	<b>18.29</b>	<b>12</b>	<b>21.82</b>	<b>17</b>	<b>20.24</b>	<b>1</b>	<b>5.56</b>	<b>2</b>	<b>11.11</b>
<b>興味系</b>										
興味があるから	10	5.71	5	9.09	3	3.57	2	11.11	0	0.00
経験しておきたいから	9	5.14	1	1.82	6	7.14	1	5.56	1	5.56
<b>小計</b>	<b>19</b>	<b>10.86</b>	<b>6</b>	<b>10.91</b>	<b>9</b>	<b>10.71</b>	<b>3</b>	<b>16.67</b>	<b>1</b>	<b>5.56</b>
<b>相手のため</b>										
相手が求めるから	10	5.71	0	0.00	8	9.52	0	0.00	2	11.11
不安にさせないため・喜ばせたいから	5	2.86	2	3.64	2	2.38	1	5.56	0	0.00
<b>小計</b>	<b>15</b>	<b>8.57</b>	<b>2</b>	<b>3.64</b>	<b>10</b>	<b>11.90</b>	<b>1</b>	<b>5.56</b>	<b>2</b>	<b>11.11</b>
<b>子作り</b>										
子どもが欲しいから・将来のため	4	2.29	1	1.82	2	2.38	1	5.56	0	0.00
<b>無効回答</b>										
不明・理由になっていない	3		1		2		0		0	
わからない・理由はない	4		2		1		0		1	
答えたくない	25		10		13		0		2	
<b>(n = 207)</b>										

表 8-2 恋人と性交したいと思わない理由に関する度数分布（複数回答）

恋人性交希望なし理由	有効回答 (n = 45)		学生 (n = 42)				社会人 (n = 3)			
	n	%	男性 (n = 9)		女性 (n = 33)		男性 (n = 1)		女性 (n = 2)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>リスク系</b>										
妊娠の可能性があるから	8	17.78	1	11.11	6	18.18	0	0.00	1	50.00
感染症の恐れがあるため	2	4.44	0	0.00	2	6.06	0	0.00	0	0.00
責任が取れないから	2	4.44	2	22.22	0	0.00	0	0.00	0	0.00
自分に知識がない	2	4.44	0	0.00	2	6.06	0	0.00	0	0.00
相手に知識がない	1	2.22	0	0.00	1	3.03	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>15</b>	<b>33.33</b>	<b>3</b>	<b>33.33</b>	<b>11</b>	<b>33.33</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>1</b>	<b>50.00</b>
<b>嫌悪系</b>										
怖いから	8	17.78	0	0.00	8	24.24	0	0.00	0	0.00
性交が好きではないから	3	6.67	1	11.11	2	6.06	0	0.00	0	0.00
性的欲求を向けられたくないから	2	4.44	0	0.00	2	6.06	0	0.00	0	0.00
面倒そうだから	1	2.22	0	0.00	1	3.03	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>14</b>	<b>31.11</b>	<b>1</b>	<b>11.11</b>	<b>13</b>	<b>39.39</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>消極的系</b>										
自分からしたいと思わないから	12	26.67	5	55.56	6	18.18	0	0.00	1	50.00
する必要がないから	5	11.11	1	11.11	4	12.12	0	0.00	0	0.00
体に自信がない	1	2.22	0	0.00	1	3.03	0	0.00	0	0.00
恥ずかしく感じてしまうため	1	2.22	0	0.00	1	3.03	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>19</b>	<b>42.22</b>	<b>6</b>	<b>66.67</b>	<b>12</b>	<b>36.36</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>1</b>	<b>50.00</b>
<b>考え中系</b>										
相手による	3	6.67	2	22.22	1	3.03	0	0.00	0	0.00
もう少し仲を深めてからすべき	1	2.22	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>4</b>	<b>8.89</b>	<b>2</b>	<b>22.22</b>	<b>1</b>	<b>3.03</b>	<b>1</b>	<b>100.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>無効回答</b>										
不明	1		1		0		0		0	
わからない	4		0		3		0		1	
答えたくない	9		3		5		1		0	
<b>(n = 59)</b>										

また、恋人がいる人に現在その恋人と同棲しているか回答を求めた結果、105 名中 8 名 (7.62%) が同棲していると回答した。内訳は、学生男性が 3 名、学生女性が 4 名、社会人女性が 1 名であった。

### 5-2-3 恋人以外の相手との性交に関する検討

付き合っている恋人以外で性交する相手の有無と性交希望状況に関する性別と所属ごとの度数分布を算出した (表 9)。

全体で度数が最も高かったのは、恋人以外で性交相手がおらず性交をしたいと思わない人で 269 名 (78.89%) であった。次に度数が高かったのは、恋人以外で性交相手はいないが性交をしたいという人で 55 名 (16.13%)、次が恋人以外で性交相手がいる人で 17 名 (4.99%) であった。この傾向は、学生男女、社会人男女ともに同様であった。



表9 恋人以外の相手との性交に関する度数分布

恋人以外で 性交相手	性交希望	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
		n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
				n	%	n	%	n	%	n	%
いる	(性交あり)	17	4.99	7	7.29	9	4.64	0	0.00	1	3.33
いない	性交希望あり	55	16.13	23	23.96	21	10.82	7	33.33	4	13.33
	性交希望なし	269	78.89	66	68.75	164	84.54	14	66.67	25	83.33
合計		341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100.00	30	100.00

恋人以外で性交する相手の有無の性別ごとの分布は次のとおりである（表10）。恋人以外での性交相手の有無と性別の独立性を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意差がみられなかった( $\chi^2=0.37, n.s.$ )。

表10 恋人以外の性交相手有無の度数分布

恋人以外での 性交相手	男性		女性		全体		$\chi^2$
	n	%	n	%	n	%	
あり	7	5.98	10	4.46	17	4.99	0.37
なし	110	94.02	214	95.54	324	95.01	
計	117	100.00	224	100.00	341	100.00	

また、恋人以外で性交相手がいる人を希望有として含める場合と含めない場合における、恋人でない人との性交希望有無の性別ごとの分布は次のとおりである（表11, 12）。恋人以外の相手との性交希望の有無と性別の独立性を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、どちらの場合も有意差がみられた(性交相手有を含む  $\chi^2=11.81, p<.001$ ；性交相手有を含まない  $\chi^2=12.53, p<.001$ )。したがって、恋人以外との性交希望には性別で分布の偏りに違いがあることが示され、女性は男性より恋人以外の相手との性交を希望しない人が相対的に多かった。

表11 恋人以外の相手との性交状況の度数分布

恋人以外での 性交状況	男性		女性		全体		$\chi^2$
	n	%	n	%	n	%	
相手あり・希望あり	37	31.62	35	15.63	72	21.11	11.81 ***
希望なし	80	68.38	189	84.38	269	78.89	
計	117	100.00	224	100.00	341	100.00	

\*\*\* $p < .001$

表 12 仮恋人以外の相手との性交状況の度数分布

仮恋人以外と 性交希望	男性		女性		全体		$\chi^2$
	n	%	n	%	n	%	
あり	30	27.27	25	11.68	55	16.98	12.53 ***
なし	80	72.73	189	88.32	269	83.02	
計	110	100.00	214	100.00	324	100.00	

\*\*\* $p < .001$

次に、恋人以外の性交相手がいる人・または性交したい人に「なぜ恋人以外の相手と性交したいのか」、恋人以外の相手と性交したいと思わない人に「なぜ恋人以外の相手と性交したいと思わないのか」を自由記述で回答してもらい、度数分布を算出した（表 13-1, 2）。

恋人以外の相手と性交したい、または性交している理由には、「性欲を満たすため」などの性欲に関する意見が 24 個(42.86%)、興味があるという意見が 20 個(35.71%)と多かった。恋人以外の相手と性交したいと思わない理由には、嫌悪感があるなどの意見が 109 個(46.78%)、リスクがあるという意見が 72 個(30.90%)と多くみられた。

表 13-1 恋人以外の相手と性交したい理由に関する度数分布（複数回答）

恋人以外性交希望あり理由	有効回答 (n = 56)		学生 (n = 46)				社会人 (n = 9)			
	n	%	男性 (n = 20)		女性 (n = 26)		男性 (n = 6)		女性 (n = 3)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>性欲系</b>										
性欲を満たすため	13	23.21	6	30.00	6	23.08	1	16.67	0	0.00
気持ちいいから	10	17.86	6	30.00	2	7.69	2	33.33	0	0.00
性交が好きだから	1	1.79	0	0.00	1	3.85	0	0.00	0	0.00
小計	<b>24</b>	<b>42.86</b>	<b>12</b>	<b>60.00</b>	<b>9</b>	<b>34.62</b>	<b>3</b>	<b>50.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>興味系</b>										
色んな経験をしたい・試したい	12	21.43	2	10.00	7	26.92	1	16.67	2	66.67
恋人でなくてもいいから	7	12.50	2	10.00	4	15.38	1	16.67	0	0.00
最低限の経験は必要だと思うから	1	1.79	1	5.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
小計	<b>20</b>	<b>35.71</b>	<b>5</b>	<b>25.00</b>	<b>11</b>	<b>42.31</b>	<b>2</b>	<b>33.33</b>	<b>2</b>	<b>66.67</b>
<b>精神的</b>										
承認欲求・幸福感が満たされる	5	8.93	2	10.00	3	11.54	0	0.00	0	0.00
好きだから（顔を含む）	3	5.36	0	0.00	2	7.69	0	0.00	1	33.33
ストレス発散	2	3.57	0	0.00	2	7.69	0	0.00	0	0.00
趣味・息抜き	2	3.57	1	5.00	1	3.85	0	0.00	0	0.00
フレンドシップとして	1	1.79	0	0.00	0	0.00	1	16.67	0	0.00
小計	<b>13</b>	<b>23.21</b>	<b>3</b>	<b>15.00</b>	<b>8</b>	<b>30.77</b>	<b>1</b>	<b>16.67</b>	<b>1</b>	<b>33.33</b>
<b>ノリ系</b>										
ノリや雰囲気流されたから	2	3.57	0	0.00	2	7.69	0	0.00	0	0.00
気軽にできるから	1	1.79	0	0.00	1	3.85	0	0.00	0	0.00
小計	<b>3</b>	<b>5.36</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>3</b>	<b>11.54</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>身体的</b>										
運動・健康的	3	5.36	1	5.00	2	7.69	0	0.00	0	0.00
<b>条件付き</b>										
恋人がいないならしいい	3	5.36	1	5.00	2	7.69	0	0.00	0	0.00
恋愛に発展する可能性があるから	1	1.79	0	0.00	1	3.85	0	0.00	0	0.00
小計	<b>4</b>	<b>7.14</b>	<b>1</b>	<b>5.00</b>	<b>3</b>	<b>11.54</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>無効回答</b>										
不明	4		3		1		0		0	
わからない	4		3		1		0		0	
答えたくない	9		4		2		1		2	
(n = 72)										

表 13-2 恋人以外の相手と性交したいと思わない理由に関する度数分布（複数回答）

恋人以外性交希望なし理由	有効回答 (n = 233)		学生 (n = 196)				社会人 (n = 37)			
	n	%	男性 (n = 54)		女性 (n = 142)		男性 (n = 13)		女性 (n = 24)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>嫌悪感</b>										
好きな人・恋人としかしたくない	42	18.03	16	29.63	23	16.20	2	15.38	1	4.17
性交をしたくない・怖い	25	10.73	1	1.85	20	14.08	0	0.00	4	16.67
気持ち悪いから・嫌だから	22	9.44	4	7.41	14	9.86	1	7.69	3	12.50
信頼関係がないから	14	6.01	3	5.56	8	5.63	1	7.69	2	8.33
身体を見せたくない	6	2.58	0	0.00	6	4.23	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>109</b>	<b>46.78</b>	<b>24</b>	<b>44.44</b>	<b>71</b>	<b>50.00</b>	<b>4</b>	<b>30.77</b>	<b>10</b>	<b>41.67</b>
<b>倫理系</b>										
恋人とすべき・ありえない	35	15.02	7	12.96	21	14.79	3	23.08	4	16.67
恋人を裏切らないため・悲しむから	15	6.44	4	7.41	10	7.04	0	0.00	1	4.17
遊びだから・道徳的に良くない	14	6.01	2	3.70	7	4.93	3	23.08	2	8.33
<b>小計</b>	<b>64</b>	<b>27.47</b>	<b>13</b>	<b>24.07</b>	<b>38</b>	<b>26.76</b>	<b>6</b>	<b>46.15</b>	<b>7</b>	<b>29.17</b>
<b>しても無意味</b>										
恋人以外に興味がない	20	8.58	7	12.96	10	7.04	0	0.00	3	12.50
虚しいから・楽しくない	9	3.86	3	5.56	6	4.23	0	0.00	0	0.00
愛を感じないから	4	1.72	1	1.85	2	1.41	0	0.00	1	4.17
メリットがないから	2	0.86	0	0.00	2	1.41	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>35</b>	<b>15.02</b>	<b>11</b>	<b>20.37</b>	<b>20</b>	<b>14.08</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>4</b>	<b>16.67</b>
<b>リスク系</b>										
性病のおそれがあるから	23	9.87	3	5.56	14	9.86	3	23.08	3	12.50
妊娠の可能性があるから	22	9.44	1	1.85	14	9.86	3	23.08	4	16.67
責任を負えないから	12	5.15	1	1.85	9	6.34	1	7.69	1	4.17
関係がこじれる	10	4.29	3	5.56	6	4.23	0	0.00	1	4.17
自分の価値が下がる	4	1.72	2	3.70	2	1.41	0	0.00	0	0.00
際限がなくなるから	1	0.43	0	0.00	1	0.70	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>72</b>	<b>30.90</b>	<b>10</b>	<b>18.52</b>	<b>46</b>	<b>32.39</b>	<b>7</b>	<b>53.85</b>	<b>9</b>	<b>37.50</b>
<b>不必要系</b>										
興味がないから・性欲がわかない	23	9.87	1	1.85	20	14.08	0	0.00	2	8.33
必要がないから	7	3.00	2	3.70	2	1.41	2	15.38	1	4.17
自慰で満足できるから	3	1.29	1	1.85	1	0.70	1	7.69	0	0.00
そこまでしてしたくない	2	0.86	2	3.70	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>35</b>	<b>15.02</b>	<b>6</b>	<b>11.11</b>	<b>23</b>	<b>16.20</b>	<b>3</b>	<b>23.08</b>	<b>3</b>	<b>12.50</b>
<b>無効回答</b>										
不明	1		0		1		0		0	
わからない・理由はない	8		3		5		0		0	
答えたくない	27		9		16		1		1	
(n = 269)										

#### 5-2-4 性交の希望状況について

付き合っている恋人の有無、その恋人との性交希望（仮も含む）、付き合っている恋人以外で性交する相手の有無、恋人以外の相手との性交希望の質問項目での回答から、性交希望状況を 18 個に分け、そこから 3 群にまとめた。3 群は、今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人を性交相手有群、今は知識程度だが性交をする意思がある人を性交希望群、今は性交をする意思がない人を性交不要群とした。分類分けの仕方と、細分化された 18 個の性交希望状況の度数分布を算出した（表 14）。

全体で最も度数が高かったのは、恋人がいないため付き合いたく性交を希望し、恋人以外で性交相手はおらず性交を希望しない人で 76 名(22.29%)であった。次に度数が高かったの

は、恋人がいて性交をしており、恋人以外で性交相手はおらず性交を希望しない人で 64 名 (18.77%)、その次には恋人はおらず付き合いたくなく、恋人以外で性交相手はおらず性交を希望しない人で 61 名 (17.89%) であった。上位 3 個は全て恋人以外で性交する相手はおらず性交を希望しない人の分類であった。

表 14 細分化した性交の希望状況の度数分布

現在恋人	恋人と性交 (仮も含む)	恋人以外の 性交相手	恋人以外と 性交	n	%	3群
いる	あり	いる	あり	0	0.00	A
		いない	希望あり	12	3.52	A
			希望なし	64	18.77	A
	希望あり	いる	あり	0	0.00	A
		いない	希望あり	2	0.59	B
			希望なし	15	4.40	B
	希望なし	いる	あり	1	0.29	A
		いない	希望あり	3	0.88	B
			希望なし	8	2.35	C
いない 付き合いたい	希望あり	いる	あり	13	3.81	A
		いない	希望あり	25	7.33	B
			希望なし	76	22.29	B
	希望なし	いる	あり	0	0.00	A
		いない	希望あり	2	0.59	B
			希望なし	45	13.20	C
いない 付き合いたくない	(希望なし)	いる	あり	3	0.88	A
		いない	希望あり	11	3.23	B
			希望なし	61	17.89	C
合計				341	100.00	

注：A 性交相手有群  
B 性交希望群  
C 性交不要群

また、性交の希望状況 3 群に関する性別と所属ごとの度数分布を算出した (表 15)。

全体で最も度数が高かったのは、性交希望群で 134 名 (39.30%) であった。性別と所属ごとの度数が最も高かった群は、学生男性では性交希望群で 52 名 (54.17%)、学生女性では性交不要群で 84 名 (43.30%)、社会人男性では性交希望群で 12 名 (57.14%)、社会人女性では性交相手有群で 14 名 (46.67%) であった。

表 15 性交の希望状況の度数分布

3群	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
性交相手有群	93	27.27	24	25.00	49	25.26	6	28.57	14	46.67
性交希望群	134	39.30	52	54.17	61	31.44	12	57.14	9	30.00
性交不要群	114	33.43	20	20.83	84	43.30	3	14.29	7	23.33
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100.00	30	100.00

### 5-3 避妊行動について

#### 5-3-1 避妊の頻度について

避妊の頻度に関する性別と所属ごとの度数分布を、性交相手有群と性交希望群別で算出した（表 16-1, 2）。

性交相手有群で避妊をいつもしている人は 74 名(79.57%)、性交希望群で避妊をと思う人は 123 名(91.79%)であった。

表 16-1 性交相手有群の避妊頻度に関する度数分布

避妊頻度 (性交相手有群)	全体 (n = 93)		学生 (n = 73)				社会人 (n = 20)			
	n	%	男性 (n = 24)		女性 (n = 49)		男性 (n = 6)		女性 (n = 14)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
いつもしている	74	79.57	17	70.83	41	83.67	6	100.00	10	71.43
場合による (したりしなかったりする)	18	19.35	7	29.17	8	16.33	0	0.00	3	21.43
いつもしていない	1	1.08	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	7.14
合計	93	100.00	24	100.00	49	100.00	6	100.00	14	100.00

表 16-2 性交希望群の避妊頻度に関する度数分布

避妊頻度 (性交希望群)	全体 (n = 134)		学生 (n = 113)				社会人 (n = 21)			
	n	%	男性 (n = 52)		女性 (n = 61)		男性 (n = 12)		女性 (n = 9)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
すると思う	123	91.79	47	90.38	58	95.08	10	83.33	8	88.89
場合による (したりしなかったりする) と思う	10	7.46	5	9.62	2	3.28	2	16.67	1	11.11
しないと思う	1	0.75	0	0.00	1	1.64	0	0.00	0	0.00
合計	134	100.00	52	100.00	61	100.00	12	100.00	9	100.00

いつもしている・すると思うと回答した人を「避妊頻度が高い」とし、場合による・またはしない(と思う)と回答した人を「避妊頻度が低い」とした際の、避妊頻度の高低と群ごとの分布は次のとおりである（表 17）。避妊頻度の高低と群の独立性を検討するために、 $\chi^2$  検定を行ったところ、有意差がみられた( $\chi^2 = 7.15, p < .01$ )。したがって、避妊頻度の高低には群で分布の偏りに違いがあることが示され、性交相手有群は性交希望群より避妊頻度が相対的に低い人が多かった。

表 17 避妊頻度高低の群ごとの度数分布

避妊頻度高低	性交相手有群		性交希望群		全体		$\chi^2$
	n	%	n	%	n	%	
する(と思う)	74	79.57	123	91.79	197	86.78	7.15 **
場合による・またはしない(と思う)	19	20.43	11	8.21	30	13.22	
計	93	100.00	134	100.00	227	100.00	

\*\* $p < .01$

### 5-3-2 避妊方法について

避妊はいつもしている（「すると思う」も含む）、または場合による（「場合によると思う」も含む）を選択した人を対象に、避妊方法に関する性別と所属ごとの度数分布を、性交相手有群と性交希望群別、避妊頻度別で算出した（表 18-1~5）。

全体で度数が高かったものから順に、コンドームが 221 名(98.22%)、ピル（経口避妊薬）が 74 名(32.89%)、膣外射精法（精液を外に出す）が 50 名(22.22%)と続いた。この傾向は、性交相手有群の常時避妊・性交希望群の常時避妊・性交希望群の時々避妊の 3 つの分類では同様であった。一方、性交相手有群の時々避妊では、コンドームが 17 名(96.44%)、次に膣外射精法（精液を外に出す）が 12 名(66.67%)、ピル（経口避妊薬）が 7 名(38.89%)と、ピルよりも膣外射精法が方法としてよく用いられていることが分かった。膣外射精法においては、性交相手有群の常時避妊が 6 名(8.11%)、性交希望群の常時避妊が 28 名(22.76%)、性交希望群の時々避妊が 4 名(40.00%)であり、選択する割合に差がみられた。さらに、性交相手有群の時々避妊の学生において、ピルを用いる男性が 5 名(71.43%)、女性が 1 名(12.50%)であり、男性のほうが女性よりもピルを避妊方法として用いていることが分かった。また、月経からの日数を数える（オギノ式）は全体で 29 名(12.78%)であったが、性交相手有群の常時避妊では 1 名(1.35%)であり、相対的に度数が低かった。

表 18-1 全体の避妊方法に関する度数分布（複数回答）

避妊方法 (全体)	全体 (n = 225)		性交相手有群 (n = 92)				性交希望群 (n = 133)			
	n	%	A-1群 (n = 74)		A-2群 (n = 18)		B-1群 (n = 123)		B-2群 (n = 10)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム	221	98.22	72	97.30	17	94.44	122	99.19	10	100.00
ピル（経口避妊薬）	74	32.89	23	31.08	7	38.89	38	30.89	6	60.00
月経からの日数を数える（オギノ式）	29	12.89	1	1.35	4	22.22	22	17.89	2	20.00
基礎体温を測る	5	2.22	1	1.35	1	5.56	3	2.44	0	0.00
膣外射精法（精液を外に出す）	50	22.22	6	8.11	12	66.67	28	22.76	4	40.00
分からない	2	0.89	0	0.00	0	0.00	2	1.63	0	0.00
その他	1	0.44	1	1.35	0	0.00	0	0.00	0	0.00

注：A-1群 性交相手有群のうち、避妊をいつもしている人の群(以下、常時避妊)  
A-2群 性交相手有群のうち、避妊をしなかったりする人の群(以下、時々避妊)  
B-1群 性交希望群のうち、常時避妊  
B-2群 性交希望群のうち、時々避妊

表 18-2 性交相手有群・常時避妊の避妊方法に関する度数分布（複数回答）

避妊方法 (性交相手有群・常時避妊)	全体 (n = 74)		学生 (n = 58)				社会人 (n = 16)			
			男性 (n = 17)		女性 (n = 41)		男性 (n = 6)		女性 (n = 10)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム	72	97.30	17	100.00	41	100.00	6	100.00	8	80.00
ピル（経口避妊薬）	23	31.08	3	17.65	12	29.27	2	33.33	6	60.00
月経からの日数を数える（オギノ式）	1	1.35	0	0.00	1	2.44	0	0.00	0	0.00
基礎体温を測る	1	1.35	0	0.00	1	2.44	0	0.00	0	0.00
膣外射精法（精液を外に出す）	6	8.11	1	5.88	4	9.76	1	16.67	0	0.00
分からない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他	1	1.35	1	5.88	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 18-3 性交相手有群・時々避妊の避妊方法に関する度数分布（複数回答）

避妊方法 (性交相手有群・時々避妊)	全体 (n = 18)		学生 (n = 15)				社会人 (n = 3)			
			男性 (n = 7)		女性 (n = 8)		男性 (n = 0)		女性 (n = 3)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム	17	94.44	6	85.71	8	100.00	0	0.00	3	100.00
ピル（経口避妊薬）	7	38.89	5	71.43	1	12.50	0	0.00	1	33.33
月経からの日数を数える（オギノ式）	4	22.22	2	28.57	2	25.00	0	0.00	0	0.00
基礎体温を測る	1	5.56	0	0.00	1	12.50	0	0.00	0	0.00
膣外射精法（精液を外に出す）	12	66.67	4	57.14	6	75.00	0	0.00	2	66.67
分からない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 18-4 性交希望群・常時避妊の避妊方法に関する度数分布（複数回答）

避妊方法 (性交希望群・常時避妊)	全体 (n = 123)		学生 (n = 105)				社会人 (n = 18)			
			男性 (n = 47)		女性 (n = 58)		男性 (n = 10)		女性 (n = 8)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム	122	99.19	46	97.87	58	100.00	10	100.00	8	100.00
ピル（経口避妊薬）	38	30.89	15	31.91	19	32.76	2	20.00	2	25.00
月経からの日数を数える（オギノ式）	22	17.89	7	14.89	13	22.41	2	20.00	0	0.00
基礎体温を測る	3	2.44	1	2.13	2	3.45	0	0.00	0	0.00
膣外射精法（精液を外に出す）	28	22.76	10	21.28	15	25.86	1	10.00	2	25.00
分からない	2	1.63	1	2.13	1	1.72	0	0.00	0	0.00
その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00

表 18-5 性交希望群・時々避妊の避妊方法に関する度数分布（複数回答）

避妊方法 (性交相手有群・常時避妊)	全体 (n = 74)		学生 (n = 58)				社会人 (n = 16)			
			男性 (n = 17)		女性 (n = 41)		男性 (n = 6)		女性 (n = 10)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム	72	97.30	17	100.00	41	100.00	6	100.00	8	80.00
ピル（経口避妊薬）	23	31.08	3	17.65	12	29.27	2	33.33	6	60.00
月経からの日数を数える（オギノ式）	1	1.35	0	0.00	1	2.44	0	0.00	0	0.00
基礎体温を測る	1	1.35	0	0.00	1	2.44	0	0.00	0	0.00
膣外射精法（精液を外に出す）	6	8.11	1	5.88	4	9.76	1	16.67	0	0.00
分からない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他	1	1.35	1	5.88	0	0.00	0	0.00	0	0.00

さらに、その避妊法の選択パターンの度数分布を、性交相手有群と性交希望群別、避妊頻度別で算出した（表 19）。表中では、例えば、コンドームとピル（経口避妊薬）の 2 つを選択していた場合、「コンドーム+ピル」のように表記しているが、これは必ずしも 2 つの方法を同時に併用していることを意味しない。すなわち、コンドームだけを使うときもあれば、ピルだけを使うときもあるという場合も、「コンドーム+ピル」に含まれることになる。

性交相手有群で度数が最も高かったものは、常時避妊では「コンドーム」が 44 名(59.46%)、時々避妊では「コンドーム+膣外射精法」が 6 名(33.33%)であり、分布に大きな違いがみられた。

表 19 避妊方法の選択パターンに関する度数分布

避妊方法の選択パターン	全体 (n = 225)		性交相手有群 (n = 92)				性交希望群 (n = 133)			
	n	%	A-1群 (n = 74)		A-2群 (n = 18)		B-1群 (n = 123)		B-2群 (n = 10)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム	109	48.44	44	59.46	3	16.67	60	48.78	2	20.00
コンドーム+ピル	43	19.11	20	27.03	3	16.67	18	14.63	2	20.00
コンドーム+膣外射精法	23	10.22	6	8.11	6	33.33	9	7.32	2	20.00
コンドーム+ピル+膣外射精法	16	7.11	1	1.35	2	11.11	11	8.94	2	20.00
コンドーム+オギノ式	9	4.00	0	0.00	0	0.00	9	7.32	0	0.00
コンドーム+ピル+オギノ式	6	2.67	0	0.00	0	0.00	4	3.25	2	20.00
コンドーム+ピル+オギノ式+膣外射精法	4	1.78	0	0.00	2	11.11	2	1.63	0	0.00
コンドーム+オギノ式+膣外射精法	4	1.78	0	0.00	0	0.00	4	3.25	0	0.00
ピル	2	0.89	2	2.70	0	0.00	0	0.00	0	0.00
コンドーム+ピル+オギノ式+基礎体温+膣外射精法	1	0.44	0	0.00	0	0.00	1	0.81	0	0.00
コンドーム+ピル+オギノ式+基礎体温	1	0.44	0	0.00	0	0.00	1	0.81	0	0.00
コンドーム+オギノ式+基礎体温+膣外射精法	1	0.44	0	0.00	1	5.56	0	0.00	0	0.00
コンドーム+オギノ式+基礎体温	1	0.44	1	1.35	0	0.00	0	0.00	0	0.00
コンドーム+基礎体温	1	0.44	0	0.00	0	0.00	1	0.81	0	0.00
コンドーム+膣外射精法+分からない	1	0.44	0	0.00	0	0.00	1	0.81	0	0.00
ピル+オギノ式	1	0.44	0	0.00	0	0.00	1	0.81	0	0.00
オギノ式+膣外射精法	1	0.44	0	0.00	1	5.56	0	0.00	0	0.00
分からない	1	0.44	0	0.00	0	0.00	1	0.81	0	0.00
<b>合計</b>	<b>225</b>	<b>100.00</b>	<b>74</b>	<b>100.00</b>	<b>18</b>	<b>100.00</b>	<b>123</b>	<b>100.00</b>	<b>10</b>	<b>100.00</b>

注: A-1群 性交相手有群のうち、常時避妊  
 A-2群 性交相手有群のうち、時々避妊  
 B-1群 性交希望群のうち、常時避妊  
 B-2群 性交希望群のうち、時々避妊  
 「その他」の記述回答は、筆者の判断で振り分けた

### 5-3-3 避妊をしない理由について

避妊は場合による（「場合によると思う」も含む）、またはいつもしない（「しないと思う」も含む）を選択した人を対象に、避妊をしない理由に関する性別と所属ごとの度数分布を、性交相手有群と性交希望群別で算出した（表 20-1~3）。

性交相手有群で最も度数が高かったのは、「多分妊娠しないと思うから」で 6 名(31.58%)であった。性交相手有群のその他 9 名(47.37%)には、「気持ちいいから」「気の緩み」「しなくても大丈夫だと思うから」「生理不順で毎日ピルを飲んでいるから」などがあつた。



性交希望群で最も度数が高かったのは、「妊娠したら産むつもり・産んでもらうつもりだから」で3名(27.27%)であり、うち1名は学生男性、2名は社会人男性であった。性交希望群のその他4名(36.36%)は、「中出しは気持ちいいから」「その時のムード、雰囲気触発されて勢いで行くかもしれないから」「結婚するしないで変わると思うから」「お互いに子供が欲しかったら避妊しない(原文ママ)」という意見であった。

全体において、「避妊法を知らないから」を選択した人はいなかった。また、性交希望群において「面倒くさいから」と「避妊を言い出せないから」は0名であったが、性交相手有群において、前者は4名(21.05%)、後者は2名(10.53%)となった。

表 20-1 全体の避妊をしない理由に関する度数分布(複数回答)

避妊しない理由 (全体)	全体 (n = 30)		性交相手有群 (n = 19)		性交希望群 (n = 11)	
	n	%	n	%	n	%
	面倒くさいから	4	13.33	4	21.05	0
準備していないことが多いから	3	10.00	2	10.53	1	9.09
多分妊娠しないと思うから	8	26.67	6	31.58	2	18.18
避妊を言い出せないから	2	6.67	2	10.53	0	0.00
相手に断られるから	2	6.67	1	5.26	1	9.09
避妊法を知らないから	0	0.00	0	0.00	0	0.00
妊娠したら産むつもり・産んでもらうつもりだから	7	23.33	4	21.05	3	27.27
妊娠しても中絶すればよいと思うから	1	3.33	0	0.00	1	9.09
相手が同性なので避妊の必要がないから	3	10.00	1	5.26	2	18.18
その他	13	43.33	9	47.37	4	36.36

表 20-2 性交相手有群の避妊をしない理由に関する度数分布(複数回答)

避妊しない理由 (性交相手有群)	全体 (n = 19)		学生 (n = 15)				社会人 (n = 4)			
	n	%	男性(n = 7)		女性(n = 8)		男性(n = 0)		女性(n = 4)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
面倒くさいから	4	21.05	2	28.57	1	12.50	0	0.00	1	25.00
準備していないことが多いから	2	10.53	0	0.00	1	12.50	0	0.00	1	25.00
多分妊娠しないと思うから	6	31.58	3	42.86	2	25.00	0	0.00	1	25.00
避妊を言い出せないから	2	10.53	0	0.00	2	25.00	0	0.00	0	0.00
相手に断られるから	1	5.26	0	0.00	1	12.50	0	0.00	0	0.00
避妊法を知らないから	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
妊娠したら産むつもり・産んでもらうつもりだから	4	21.05	0	0.00	2	25.00	0	0.00	2	50.00
妊娠しても中絶すればよいと思うから	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
相手が同性なので避妊の必要がないから	1	5.26	1	14.29	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他	9	47.37	4	57.14	4	50.00	0	0.00	1	25.00

表 20-3 性交希望群の避妊をしない理由に関する度数分布(複数回答)

避妊しない理由 (性交希望群)	全体 (n = 11)		学生 (n = 8)				社会人 (n = 3)			
	n	%	男性(n = 5)		女性(n = 3)		男性(n = 2)		女性(n = 1)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
面倒くさいから	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
準備していないことが多いから	1	9.09	0	0.00	1	33.33	0	0.00	0	0.00
多分妊娠しないと思うから	2	18.18	2	40.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
避妊を言い出せないから	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
相手に断られるから	1	9.09	1	20.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
避妊法を知らないから	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
妊娠したら産むつもり・産んでもらうつもりだから	3	27.27	1	20.00	0	0.00	2	100.00	0	0.00
妊娠しても中絶すればよいと思うから	1	9.09	0	0.00	1	33.33	0	0.00	0	0.00
相手が同性なので避妊の必要がないから	2	18.18	1	20.00	1	33.33	0	0.00	0	0.00
その他	4	36.36	2	40.00	1	33.33	0	0.00	1	100.00

## 5-4 性交相手とのコミュニケーションについて

### 5-4-1 避妊について話したことがあるかについて

性交相手有群を対象に、避妊について性交相手と話をした経験の有無について、性別と所属ごとの度数分布を算出した（表 21）。

全体において、話したことがある人が 70 名(75.27%)、ない人が 23 名(24.73%)であった。

表 21 避妊について性交相手と話したことあるかに関する度数分布

避妊について 相手と話	全体 (n = 93)		学生 (n = 73)				社会人 (n = 20)			
	n	%	男性 (n = 24)		女性 (n = 49)		男性 (n = 6)		女性 (n = 14)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
ある	70	75.27	15	62.50	38	77.55	6	100.00	11	78.57
ない	23	24.73	9	37.50	11	22.45	0	0.00	3	21.43
合計	93	100.00	24	100.00	49	100.00	6	100.00	14	100.00

さらに、話したことがある人を対象に、どのような内容であったかを自由記述で回答してもらい、度数分布を算出した（表 22）。内容では、コンドームに関しての話が最も多く 19 個(41.30%)であった。

表 22 避妊について性交相手と話したことの内容に関する度数分布（複数回答・任意回答）

避妊についての話内容	有効回答 (n = 46)		学生 (n = 36)				社会人 (n = 10)			
	n	%	男性 (n = 11)		女性 (n = 25)		男性 (n = 4)		女性 (n = 6)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>有効回答</b>										
コンドームをつけること・使用方法	19	41.30	5	45.45	8	32.00	2	50.00	4	66.67
確実な避妊方法について・避妊を必ずする	17	36.96	4	36.36	11	44.00	2	50.00	0	0.00
妊娠した場合のこと・妊娠を希望しないこと	7	15.22	2	18.18	5	20.00	0	0.00	0	0.00
ピルを飲むべきか相談	4	8.70	0	0.00	3	12.00	0	0.00	1	16.67
ピルを飲んでいること・ピルの副作用について	3	6.52	0	0.00	2	8.00	0	0.00	1	16.67
中出しはしない・されたときもめた	3	6.52	0	0.00	2	8.00	1	25.00	0	0.00
性病に関して	2	4.35	0	0.00	2	8.00	0	0.00	0	0.00
生理周期について	2	4.35	0	0.00	2	8.00	0	0.00	0	0.00
避妊をするかしないか	2	4.35	1	9.09	0	0.00	0	0.00	1	16.67
コンドームとピル、どちらがよいかについて	1	2.17	1	9.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00
緊急避妊薬の使用について	1	2.17	1	9.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00
婦人科医から説明された内容の共有	1	2.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	16.67
お金について	1	2.17	0	0.00	1	4.00	0	0.00	0	0.00
<b>無効回答</b>										
覚えていない	1		0		0		1		0	
質問の意味が分からない	1		0		1		0		0	
答えたくない	1		1		0		0		0	
(n = 49)										

### 5-4-2 性交をしたくないとき伝えられるかに関する検討

性交相手有群と性交希望群を対象に、性交をしたくないとき、それを相手に伝えられるかに関する性別と所属ごとの度数分布を、2 群それぞれで算出した（表 23-1, 2）。

表 23-1 性交相手有群の性交をしたくないとき伝えられるかに関する度数分布

伝えられるか (性交相手有群)	全体 (n = 93)		学生 (n = 73)				社会人 (n = 20)			
	n	%	男性 (n = 24)		女性 (n = 49)		男性 (n = 6)		女性 (n = 14)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
伝えられる	54	58.06	11	45.83	29	59.18	4	66.67	10	71.43
どちらかといえば伝えられる	25	26.88	7	29.17	14	28.57	2	33.33	3	21.43
どちらかといえば伝えられない	10	10.75	3	12.50	6	12.24	0	0.00	1	7.14
伝えられない	4	4.30	3	12.50	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	93	100.00	24	100.00	49	100.00	6	100.00	14	100.00

表 23-2 性交希望群の性交をしたくないとき伝えられるかに関する度数分布

伝えられるか (性交希望群)	全体 (n = 134)		学生 (n = 113)				社会人 (n = 21)			
	n	%	男性 (n = 52)		女性 (n = 61)		男性 (n = 12)		女性 (n = 9)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
伝えられると思う	68	50.75	29	55.77	30	49.18	6	50.00	3	33.33
どちらかといえば伝えられると思う	49	36.57	18	34.62	20	32.79	5	41.67	6	66.67
どちらかといえば伝えられないと思う	14	10.45	3	5.77	10	16.39	1	8.33	0	0.00
伝えられないと思う	3	2.24	2	3.85	1	1.64	0	0.00	0	0.00
合計	134	100.00	52	100.00	61	100.00	12	100.00	9	100.00

また、「伝えられる (と思う)」に 4、「どちらかといえば伝えられる (と思う)」に 3、「どちらかといえば伝えられない (と思う)」に 2、「伝えられない (と思う)」に 1 を代入し、基本統計量を算出した (表 24)。

表 24 性交をしたくないとき伝えられるかの基本統計量

群	Mean	SD	Min	Max
性交相手有群	3.39	0.85	1	4
性交希望群	3.36	0.79	1	4

さらに、所属や性別、避妊頻度の違いによって伝えられるかに差があるか検討するため、独立した 2 群間の  $t$  検定を行った (表 25)。その結果、性交相手有群の所属・避妊頻度においてのみ、有意な傾向がみられた(所属  $t = 1.99, p < .10$ ; 避妊頻度  $t = 2.03, p < .10$ )。したがって、性交相手群の社会人は学生よりも、避妊をいつもする人は避妊頻度が低い人よりも性交をしたくないとき相手に伝えられる傾向があることが分かった。

表 25 性交をしたくないとき伝えられるかに関する *t* 検定

群	項目	属性	<i>n</i>	Mean	SD	<i>t</i> 値
性交相手有群	所属	学生	73	3.32	0.90	1.99 †
		社会人	20	3.65	0.59	
	身体性	男性	30	3.20	0.99	1.48
		女性	63	3.48	0.76	
	避妊頻度	高群	74	3.50	0.73	2.03 †
		低群	19	2.95	1.13	
性交希望群	所属	学生	113	3.35	0.79	0.15
		社会人	21	3.38	0.59	
	身体性	男性	64	3.42	0.75	0.93
		女性	70	3.30	0.77	
	避妊頻度	高群	123	3.38	0.75	1.22
		低群	11	3.09	0.83	

†  $p < .10$

次に、伝えられる（と思う）・どちらかといえば伝えられる（と思う）人に「伝えられる理由」、伝えられない（と思う）・どちらかといえば伝えられない（と思う）人に「伝えられない理由」を自由記述で回答を求め、それぞれ度数分布を算出した（表 26-1, 2）。

伝えられる理由には、「言える関係性だから」などの相手との関係性についての意見が 58 個(34.73%)、自身の考え方が関わっているような意見が 57 個(34.13%)となっていた。さらに、「伝えられる理由」というより「伝える理由」に近い意見も多数あった。

伝えられない理由には、「傷つけないから」などの相手のことを思っの意見が 18 個(64.29%)と非常に多かった。次に多かった意見は、「流されそうだから」などの自分自身に関わる理由が 10 個(35.71%)であった。

表 26-1 性交をしたくないとき伝えられる理由に関する度数分布（複数回答）

伝えられる理由	有効回答 (n = 167)		学生 (n = 131)				社会人 (n = 36)			
	n	%	男性 (n = 47)		女性 (n = 84)		男性 (n = 16)		女性 (n = 20)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>関係性について</b>										
言える関係性だから	18	10.78	5	10.64	11	13.10	1	6.25	1	5.00
伝えられる人としかないから	17	10.18	5	10.64	8	9.52	1	6.25	3	15.00
信頼関係があるから	14	8.38	4	8.51	7	8.33	0	0.00	3	15.00
対等な関係を築けているから	6	3.59	1	2.13	3	3.57	1	6.25	1	5.00
仲がいいから	2	1.20	0	0.00	2	2.38	0	0.00	0	0.00
しなくても関係はこわれないから	1	0.60	1	2.13	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>58</b>	<b>34.73</b>	<b>16</b>	<b>34.04</b>	<b>31</b>	<b>36.90</b>	<b>3</b>	<b>18.75</b>	<b>8</b>	<b>40.00</b>
<b>考え方</b>										
お互いの気持ちを尊重したい	14	8.38	2	4.26	5	5.95	6	37.50	1	5.00
同意のもとですべきだから	14	8.38	4	8.51	7	8.33	2	12.50	1	5.00
意思疎通は大事だから	12	7.19	7	14.89	3	3.57	1	6.25	1	5.00
自分の気持ちを優先したいから	11	6.59	2	4.26	8	9.52	1	6.25	0	0.00
決まりを作っているから	2	1.20	1	2.13	0	0.00	1	6.25	0	0.00
当然の権利だから	2	1.20	0	0.00	2	2.38	0	0.00	0	0.00
メンタルが強いから	2	1.20	1	2.13	1	1.19	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>57</b>	<b>34.13</b>	<b>17</b>	<b>36.17</b>	<b>26</b>	<b>30.95</b>	<b>11</b>	<b>68.75</b>	<b>3</b>	<b>15.00</b>
<b>その状況でない理由</b>										
嫌な時は嫌だから	27	16.17	11	23.40	11	13.10	2	12.50	3	15.00
自分の身体を守るため	18	10.78	4	8.51	12	14.29	0	0.00	2	10.00
しても意味が無い	7	4.19	3	6.38	3	3.57	1	6.25	0	0.00
相手に失礼だから・傷つけないように	7	4.19	2	4.26	4	4.76	0	0.00	1	5.00
妊娠したくない、責任をとれないから	7	4.19	3	6.38	3	3.57	0	0.00	1	5.00
今後のため	5	2.99	1	2.13	2	2.38	0	0.00	2	10.00
<b>小計</b>	<b>71</b>	<b>42.51</b>	<b>24</b>	<b>51.06</b>	<b>35</b>	<b>41.67</b>	<b>3</b>	<b>18.75</b>	<b>9</b>	<b>45.00</b>
<b>例外</b>										
体調不良などで誤魔化せるから	1	0.60	0	0.00	1	1.19	0	0.00	0	0.00
<b>伝えられるが懸念点あり</b>	<b>12</b>	<b>7.19</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>8</b>	<b>9.52</b>	<b>3</b>	<b>18.75</b>	<b>1</b>	<b>5.00</b>
<b>無効回答</b>										
不明・理由になっていない	5		4		1		0		0	
わからない	7		6		1		0		0	
答えたくない	17		8		6		1		2	

(n = 196)

表 26-2 性交をしたくないとき伝えられない理由に関する度数分布（複数回答）

伝えられない理由	有効回答 (n = 28)		学生 (n = 26)				社会人 (n = 2)			
	n	%	男性 (n = 10)		女性 (n = 16)		男性 (n = 1)		女性 (n = 1)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>相手のため</b>										
傷つけないから	8	28.57	3	30.00	4	25.00	1	100.00	0	0.00
相手ががっかりするから	5	17.86	1	10.00	3	18.75	0	0.00	1	100.00
相手の気持ちを優先するから	4	14.29	3	30.00	1	6.25	0	0.00	0	0.00
その人を否定していると思われる と勘繰るから	1	3.57	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>64.29</b>	<b>7</b>	<b>70.00</b>	<b>8</b>	<b>50.00</b>	<b>2</b>	<b>200.00</b>	<b>1</b>	<b>100.00</b>
<b>自分に関して</b>										
流されそうだから	5	17.86	1	10.00	4	25.00	0	0.00	0	0.00
断るのが苦手	3	10.71	1	10.00	2	12.50	0	0.00	0	0.00
恥ずかしいから	1	3.57	0	0.00	1	6.25	0	0.00	0	0.00
勇気のいることだから	1	3.57	0	0.00	1	6.25	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>10</b>	<b>35.71</b>	<b>2</b>	<b>20.00</b>	<b>8</b>	<b>50.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>関係性</b>										
嫌われたくないから	4	14.29	2	20.00	2	12.50	0	0.00	0	0.00
気まずいから	2	7.14	1	10.00	1	6.25	0	0.00	0	0.00
関係が崩れるかもしれない	1	3.57	1	10.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>7</b>	<b>25.00</b>	<b>4</b>	<b>40.00</b>	<b>3</b>	<b>18.75</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>例外</b>										
したくない時がないから	3	10.71	2	20.00	1	6.25	0	0.00	0	0.00
<b>無効回答</b>										
不明	1		0		1		0		0	
答えたくない	2		1		1		0		0	
(n = 31)										

## 5-5 性に関する知識について

### 5-5-1 避妊の知識源について

避妊の知識をどこから得ているかについて、性別と所属ごとの度数分布を算出した（表 27）。

知識源を問う複数回答可の質問において、その他以外の 11 項目を全て選択した人が 1 名おり、「特にない」と回答した上でこの回答の仕方は不適切だと判断し、無効回答とした。そのため、有効回答数は 340 名であった。

全体で度数が高かったものから順に、インターネットやアプリ・SNSなどで 228 名(67.06%)、学校（先生、授業や教科書）で 191 名(56.18%)、友人や先輩・後輩で 88 名(25.88%)、漫画/コミックスで 77 名(22.65%)であった。その他の 12 名(3.53%)には、「産婦人科医」「病院のポスター」「性についての児童書（「セのつく話）」」などがあつた。特にないと回答した人は、13 名(3.82%)であった。基本的に性別・所属ごとにおいても傾向はほとんど変わらないが、30 人中 16 名恋人がいると答えた社会人女性は、恋人から知識を得ている人が 10 名(33.33%)と、ほかと比べると高い割合であった。また、アダルト動画（DVD やネットなど）は、学生女子で 10 名(5.18%)、社会人女性で 1 名(3.33%)であったのに対し、学生男性で 16 名(16.67%)、社会人男性で 6 名(28.57%)と、男性が非常に高い割合を示していた。

表 27 避妊の知識源に関する度数分布（複数回答）

避妊の知識源	全体 (n = 340)		学生 (n = 289)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 193)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
親	26	7.65	4	4.17	18	9.33	3	14.29	1	3.33
きょうだい	5	1.47	1	1.04	3	1.55	1	4.76	0	0.00
友人や先輩・後輩	88	25.88	33	34.38	40	20.73	5	23.81	10	33.33
恋人	39	11.47	12	12.50	15	7.77	2	9.52	10	33.33
学校（先生、授業や教科書）	191	56.18	47	48.96	121	62.69	10	47.62	13	43.33
漫画／コミックス	77	22.65	16	16.67	50	25.91	4	19.05	7	23.33
一般雑誌	23	6.76	4	4.17	12	6.22	2	9.52	5	16.67
ポルノ雑誌（H雑誌）	19	5.59	10	10.42	8	4.15	1	4.76	0	0.00
アダルト動画（DVDやネットなど）	33	9.71	16	16.67	10	5.18	6	28.57	1	3.33
インターネットやアプリ・SNSなど	228	67.06	63	65.63	129	66.84	15	71.43	21	70.00
特にない	13	3.82	5	5.21	6	3.11	1	4.76	1	3.33
その他	12	3.53	1	1.04	5	2.59	2	9.52	4	13.33

### 5-5-2 性知識の正誤問題について

性に関する知識を問う正誤問題について、本研究では日本性教育協会（2019）が作成した7問を用いた。しかし、「日本ではこの10年間、新たにHIVに感染する人とエイズ患者は減少し続けている」という正誤問題に関して、本研究においては有効ではない可能性があることが分かった。理由としては、2点が挙げられる。第1に、問題の文言では不十分であるからである。厚生労働省エイズ動向委員会（2022）の報告によると、HIV感染者とエイズ患者は減少傾向ではあるが、2016年や2020年ではわずかながら増加していた。そのため、「減少し続けている」という確定的な文言にするには不十分であったと考えられる。第2に、日本性教育協会（2019）が行った2017年の調査での「過去10年」と2023年の「過去10年」では状況が変化しているからである。ほかの6問はほぼ普遍の事実の内容であるが、この問題は変化する過去10年の傾向を問うている。日本性教育協会の2017年にこの問題を問う意図と、本研究の意図とは必ずしも一致しないと考えられる。以上の理由から、「日本ではこの10年間、新たにHIVに感染する人とエイズ患者は減少し続けている」の問題は削除した。

したがって、性に関する知識を問う正誤問題として有効であるのは、「膣外射精（外出し）は確実な避妊方法である（以下、膣外射精）」「排卵は、いつも月経中に起こる（以下、女性生理）」「精液が溜まりすぎると、身体に悪い影響がある（以下、男性生理）」「クラミジアや淋病などの性感染症を治療しないと、不妊症になる（赤ちゃんができなくなる）ことがある（以下、不妊症）」「ピル（経口避妊薬）の避妊性交率はきわめて高い（以下、ピル）」「性感染症にかかると、必ず自覚症状が出る（以下、自覚症状）」の6問となった。この6問の回答における、性別と所属ごとの度数分布を算出した（表28-1~6）。さらに、この6問において、全体の正答率が高い順に並べた表も作成した（表29）。

全体の回答の正答率が高い順に、自覚症状、膣外射精、不妊症、ピル、女性生理、男性生理となった。加えて、男性生理と女性生理などの自身の異性に関する問題での正答率が男女問わず低かった。特に、男性生理は全体の正答率が21.11%と非常に低く、男性学生で32.29%、社会人男性で47.62%と、男性でも正答率が低いことが分かった。一方、女性主体のピルに

おいての正答率は、学生女性(57.73%)よりも学生男性(67.71%)のほうが高かった。

表 28-1 膣外射精の正誤問題に関する度数分布

膣外射精	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
正しい	38	11.14	13	13.54	21	10.82	3	14.29	1	3.33
間違っている	264	77.42	72	75.00	145	74.74	18	85.71	29	96.67
分からない	30	8.80	8	8.33	22	11.34	0	0.00	0	0.00
文章の意味が分からない	9	2.64	3	3.13	6	3.09	0	0.00	0	0.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100	30	100.00

表 28-2 女性生理の正誤問題に関する度数分布

女性生理	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
正しい	53	15.54	18	18.75	26	13.40	6	28.57	3	10.00
間違っている	191	56.01	29	30.21	132	68.04	7	33.33	23	76.67
分からない	93	27.27	48	50.00	33	17.01	8	38.10	4	13.33
文章の意味が分からない	4	1.17	1	1.04	3	1.55	0	0.00	0	0.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100	30	100.00

表 28-3 男性生理の正誤問題に関する度数分布

男性生理	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
正しい	130	38.12	42	43.75	71	36.60	6	28.57	11	36.67
間違っている	72	21.11	31	32.29	26	13.40	10	47.62	5	16.67
分からない	138	40.47	23	23.96	96	49.48	5	23.81	14	46.67
文章の意味が分からない	1	0.29	0	0.00	1	0.52	0	0.00	0	0.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100	30	100.00

表 28-4 不妊症の正誤問題に関する度数分布

不妊症	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
正しい	246	72.14	59	61.46	147	75.77	17	80.95	23	76.67
間違っている	8	2.35	4	4.17	2	1.03	0	0.00	2	6.67
分からない	86	25.22	32	33.33	45	23.20	4	19.05	5	16.67
文章の意味が分からない	1	0.29	1	1.04	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100	30	100.00



表 28-5 ピルの正誤問題に関する度数分布

ピル	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
正しい	204	59.82	65	67.71	112	57.73	10	47.62	17	56.67
間違っている	73	21.41	22	22.92	34	17.53	8	38.10	9	30.00
分からない	64	18.77	9	9.38	48	24.74	3	14.29	4	13.33
文章の意味が分からない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100	30	100.00

表 28-6 自覚症状の正誤問題に関する度数分布

自覚症状	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
正しい	18	5.28	9	9.38	8	4.12	1	4.76	0	0.00
間違っている	284	83.28	72	75.00	166	85.57	19	90.48	27	90.00
分からない	39	11.44	15	15.63	20	10.31	1	4.76	3	10.00
文章の意味が分からない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100	30	100.00

表 29 性知識問題の正答率に関する度数分布

正答率	全体 (n = 341)		学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
	n	%	男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
自覚症状	284	83.28	72	75.00	166	85.57	19	90.48	27	90.00
膣外射精	264	77.42	72	75.00	145	74.74	18	85.71	29	96.67
不妊症	246	72.14	59	61.46	147	75.77	17	80.95	23	76.67
ピル	204	59.82	65	67.71	112	57.73	10	47.62	17	56.67
女性生理	191	56.01	29	30.21	132	68.04	7	33.33	23	76.67
男性生理	72	21.11	31	32.29	26	13.40	10	47.62	5	16.67
合計	341	100.00	96	100.00	194	100.00	21	100.00	30	100.00

また、避妊頻度別の膣外射精問題の正誤の度数分布も算出した (表 30)。膣外射精の回答の正誤と避妊頻度の独立性を検査するために、 $\chi^2$  検定を行ったところ、性交相手有群も性交希望群も有意差がみられなかった(性交相手有群  $\chi^2 = 0.31, p = n.s.$ ; 性交希望群  $\chi^2 = 0.22, p = n.s.$ )。

表 30 避妊頻度別の膈外射精問題の正誤に関する度数分布

膈外射精 正誤	全体 ( <i>n</i> = 227)		性交相手有群 ( <i>n</i> = 93)				$\chi^2$	性交希望群 ( <i>n</i> = 134)				$\chi^2$
	<i>n</i>	%	A-1群 ( <i>n</i> = 74)		A-2,3群 ( <i>n</i> = 19)			B-1群 ( <i>n</i> = 123)		B-2,3群 ( <i>n</i> = 11)		
			<i>n</i>	%	<i>n</i>	%		<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	
正解	191	84.14	69	93.24	17	89.47	0.31	97	78.86	8	72.73	0.22
不正解	36	15.86	5	6.76	2	10.53		26	21.14	3	27.27	
合計	227	100.00	74	100.00	19	100.00		123	100.00	11	100.00	

注: A-1群 性交相手有群のうち、常時避妊  
 A-2,3群 性交相手有群のうち、時々避妊・避妊をいつもしていない(以下、避妊なし)  
 B-1群 性交希望群のうち、常時避妊  
 B-2,3群 性交希望群のうち、時々避妊・避妊なし

### 5-5-3 性知識問題の合計得点について

6 問の性知識問題にいくつ正答したかをみるため、各問題の正答を 1 点、誤答あるいは「分からない」「文章の意味が分からない」を 0 点として、その合計得点をもとに基本統計量を算出した (表 31)。

表 31 性知識問題の合計得点の基本統計量

	<i>Mean</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>
合計得点	3.70	1.40	0	6

(*n* = 341)

所属・性別・性交状況・知識源などの違いによって合計得点に差があるか検討するため、独立した 2 群間の *t* 検定を行った (表 32)。その結果、性交経験と現在恋人において有意差がみられた(性交経験  $t = 4.04, p < .001$ ; 現在恋人  $t = 5.23, p < .001$ )。したがって、性交経験がある人はない人よりも、現在恋人がいる人はいない人よりも合計得点が高いことが分かった。また、身体性において有意な傾向がみられた( $t = 1.93, p < .10$ )。したがって、女性は男性よりも合計得点が高い傾向があることが分かった。

表 32 性知識問題の合計得点に関する *t* 検定

項目	属性	<i>n</i>	Mean	SD	<i>t</i> 値
所属	学生	290	3.67	1.43	1.02
	社会人	51	3.88	1.24	
身体性	男性	117	3.50	1.38	1.93 †
	女性	224	3.80	1.41	
性交経験	あり	136	4.06	1.20	4.04 ***
	なし	193	3.46	1.48	
現在恋人	いる	105	4.22	1.11	5.23 ***
	いない	236	3.47	1.46	
恋人以外の 性交相手	いる	17	3.76	1.25	0.20
	いない	324	3.69	1.41	
知識源	学校有	191	3.76	1.44	1.05
	学校無	149	3.60	1.35	

†  $p < .10$  \*\*\* $p < .001$

さらに、性交の希望状況 3 群によって合計得点に差があるのかを検討するため、一元配置分散分析を行った(表 33)。その結果、有意差がみられた( $F=9.41, p<.001$ )。そこで *Bonferroni* の多重比較を行ったところ、性交相手有群は性交希望群と性交不要群よりも合計得点が高かった。

表 33 性交の希望状況 3 群の性知識問題の合計得点の分散分析

	<i>n</i>	Mean	Min	Max	SD	<i>df</i>	<i>F</i> 値	<i>Bonferroni</i>
性交相手有群	93	4.18	1	6	1.18	2	9.41 ***	性交相手有群 > 性交希望群, 性交不要群
性交希望群	134	3.65	0	6	1.37			
性交不要群	114	3.36	0	6	1.51			

\*\*\* $p < .001$

#### 5-6 避妊知識の必要性について

性交不要群を対象に、自分にとっての避妊知識の必要性の認識に関する性別と所属ごとの度数分布を算出した(表 34)。

全体において、どちらかといえば必要だと思わないは 3 名(2.63%)、必要だと思わないは 1 名(0.88%)しかおらず、ほとんどの人が自分には必要だと認識していた。

表 34 避妊知識の必要性の認識に関する度数分布

避妊知識必要か	全体 ( <i>n</i> = 114)		学生 ( <i>n</i> = 104)				社会人 ( <i>n</i> = 10)			
	<i>n</i>	%	男性 ( <i>n</i> = 20)		女性 ( <i>n</i> = 84)		男性 ( <i>n</i> = 3)		女性 ( <i>n</i> = 7)	
			<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
必要だと思う	89	78.07	16	80.00	65	77.38	1	33.33	7	100.00
どちらかといえば必要だと思う	21	18.42	3	15.00	17	20.24	1	33.33	0	0.00
どちらかといえば必要だと思わない	3	2.63	1	5.00	1	1.19	1	33.33	0	0.00
必要だと思わない	1	0.88	0	0.00	1	1.19	0	0.00	0	0.00
合計	114	100.00	20	100.00	84	100.00	3	100.00	7	100.00

また、「必要だと思う」に4、「どちらかといえば必要だと思う」に3、「どちらかといえば必要だと思わない」に2、「必要だと思わない」に1を代入して基本統計量を算出した（表35）。

表 35 避妊知識の必要性の認識の基本統計量

	<i>Mean</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>
避妊知識必要か ( <i>n</i> = 114)	3.74	0.55	1	4

さらに、性交経験の違いによって避妊知識の必要性の認識に差があるか検討するため、独立した2群間の*t*検定を行った（表36）。その結果、有意差はみられなかった( $t=0.32, n.s.$ )。

表 36 避妊知識の必要性に関する *t* 検定

	<i>n</i>	<i>Mean</i>	<i>SD</i>	<i>t</i> 値
性交経験 あり	10	3.80	0.42	0.32
なし	97	3.74	0.55	

次に、必要だと思う（どちらかといえばも含む）人にその理由を自由記述で回答を求め、度数分布を算出した（表37）。

避妊の知識が必要だと思う理由として、自分自身の身体のために知っておくことは大事であるという意見が39個(38.61%)と多く、これを筆頭に、自分のために知っておくべきという意見が多数あった。

表 37 避妊の知識が必要だと思う理由に関する度数分布（複数回答）

避妊知識が必要な理由	有効回答 (n = 101)		学生 (n = 92)				社会人 (n = 9)			
	n	%	男性 (n = 16)		女性 (n = 76)		男性 (n = 2)		女性 (n = 7)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>主に自分のため</b>										
身体のため、知っておくのは大事	39	38.61	4	25.00	30	39.47	1	50.00	4	57.14
望まない妊娠を防ぐため	23	22.77	2	12.50	19	25.00	0	0.00	2	28.57
将来のためになるから	14	13.86	1	6.25	11	14.47	1	50.00	1	14.29
自分に知識がないから	9	8.91	2	12.50	7	9.21	0	0.00	0	0.00
知っておくのは常識	7	6.93	3	18.75	4	5.26	0	0.00	0	0.00
性犯罪に対処するため	5	4.95	2	12.50	3	3.95	0	0.00	0	0.00
持っていて損はない	5	4.95	1	6.25	4	5.26	0	0.00	0	0.00
性病にかからないようにするため	5	4.95	1	6.25	4	5.26	0	0.00	0	0.00
女性だから	2	1.98	0	0.00	2	2.63	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>109</b>	<b>107.92</b>	<b>16</b>	<b>100.00</b>	<b>84</b>	<b>110.53</b>	<b>2</b>	<b>100.00</b>	<b>7</b>	<b>100.00</b>
<b>自分以外のため</b>										
相手のため	7	6.93	3	18.75	2	2.63	1	50.00	1	14.29
命を粗末にしないため、子供のため	6	5.94	1	6.25	5	6.58	0	0.00	0	0.00
他人にアドバイスできる	3	2.97	1	6.25	2	2.63	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>16</b>	<b>15.84</b>	<b>5</b>	<b>31.25</b>	<b>9</b>	<b>11.84</b>	<b>1</b>	<b>50.00</b>	<b>1</b>	<b>14.29</b>
<b>無効回答</b>										
不明・理由になっていない	3		1		2		0		0	
答えたくない	6		2		4		0		0	
(n = 110)										

さらに、必要だと思わない（どちらかといえばも含む）人にその理由を自由記述で回答を求めた。4名の理由としては、性行為をする気がないからというのが主であった。

## 5-7 性交と避妊への不安について

### 5-7-1 性交の希望状況3群の不安について

性交や避妊に関することで不安に思った経験の有無について、性交希望状況3群それぞれと性別と所属ごとの度数分布を算出した（表38）。不安経験ありの人は、全体において184名(53.96%)であり、性交相手有群が70名(20.53%)と最も群内でのありの割合が高かった(75.27%)。次に高かった順として、性交希望群、性交不要群と続いた。

表 38 性交や避妊の不安に関する度数分布

不安 経験	3群	全体 (n = 341)		群内 %	学生 (n = 290)				社会人 (n = 51)			
		n	%		男性 (n = 96)		女性 (n = 194)		男性 (n = 21)		女性 (n = 30)	
				n	%	n	%	n	%	n	%	n
ある	性交相手有群	70	20.53	75.27	17	17.71	38	19.59	4	19.05	11	36.67
	性交希望群	78	22.87	58.21	32	33.33	33	17.01	6	28.57	7	23.33
	性交不要群	36	10.56	31.58	3	3.13	31	15.98	0	0.00	2	6.67
	小計	<b>184</b>	<b>53.96</b>		<b>52</b>	<b>54.17</b>	<b>102</b>	<b>52.58</b>	<b>10</b>	<b>47.62</b>	<b>20</b>	<b>66.67</b>
ない	性交相手有群	23	6.74	24.73	7	7.29	11	5.67	2	9.52	3	10.00
	性交希望群	56	16.42	41.79	20	20.83	28	14.43	6	28.57	2	6.67
	性交不要群	78	22.87	68.42	17	17.71	53	27.32	3	14.29	5	16.67
	小計	<b>157</b>	<b>46.04</b>		<b>44</b>	<b>45.83</b>	<b>92</b>	<b>47.42</b>	<b>11</b>	<b>52.38</b>	<b>10</b>	<b>33.33</b>
合計		341	100.00		96	100.00	194	100.00	21	100.00	30	100.00

群内: 同じ群内での不安経験がある・ないを、それぞれの割合で示した

さらに、性交や避妊に関して不安に思った経験の有無と避妊頻度別の度数分布も算出した(表 39)。不安経験の有無と避妊頻度の独立性を検討するために、 $\chi^2$  検定を行ったところ、性交相手有群でのみ有意差がみられた(性交相手有群  $\chi^2 = 6.57, p < .05$ ; 性交希望群  $\chi^2 = 0.80, p = n.s.$ )。したがって、性交相手有群でのみ、不安経験の有無と避妊頻度別で分布の偏りに違いがあることが示され、避妊頻度が低い人で相対的に不安経験がない人が多かった。

表 39 避妊頻度別の性交や避妊の不安に関する度数分布

不安 経験	全体 (n = 227)		性交相手有群 (n = 93)				$\chi^2$	性交希望群 (n = 134)				
	n	%	A-1群 (n = 74)		A-2,3群 (n = 19)			B-1群 (n = 123)		B-2,3群 (n = 11)		
			n	%	n	%	n	%	n	%	$\chi^2$	
ある	148	65.20	60	81.08	10	52.63	6.57 *	72	58.54	6	54.55	0.80
ない	79	34.80	14	18.92	9	47.37		51	41.46	5	45.45	
合計	227	100.00	74	100.00	19	100.00		123	100.00	11	100.00	

\* $p < .05$

注: A-1群 性交相手有群のうち、常時避妊  
 A-2,3群 性交相手有群のうち、時々避妊・避妊なし  
 B-1群 性交希望群のうち、常時避妊  
 B-2,3群 性交希望群のうち、時々避妊・避妊なし

次に、性交や避妊に関して不安に思ったことがある人に対し、その不安内容を自由記述で回答を求め、性別と所属ごと・性交の希望状況の3群・避妊頻度別でそれぞれ度数分布を算出した(表 40-1~3)。

内容として、全体では「避妊方法が確実であるか・正しい方法か」などの避妊が確実かどうか不安であるという意見が73個(57.03%)と最も多かった。また、不安を感じたタイミングとして最も多かったのは、「生理が遅れたとき」という意見の19個(14.84%)であった。性交状況の3群では、「経験がない、少ないこと」など性交の経験度に関する不安は、性交不要群で5個(26.32%)、性交希望群で11個(21.57%)と、この2群での割合が高かった。避妊頻度別では、常時避妊と時々避妊・避妊なしではほとんど不安内容の分布は変わらず、時々避妊・避妊なしの人も避妊に関しての不安がある人が多かった。

表 40-1 性交や避妊の不安内容に関する度数分布（複数回答・任意回答）

不安内容 (全体)	有効回答 (n = 128)		学生 (n = 106)				社会人 (n = 22)			
	n	%	男性 (n = 33)		女性 (n = 73)		男性 (n = 7)		女性 (n = 15)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>避妊（確実かどうか）</b>										
避妊方法が確実であるか・正しい方法か	30	23.44	11	33.33	15	20.55	3	42.86	1	6.67
妊娠してしまうのではないか	23	17.97	3	9.09	18	24.66	1	14.29	1	6.67
コンドームのつけ方・完全ではないことへの不安	20	15.63	5	15.15	10	13.70	1	14.29	4	26.67
<b>小計</b>	<b>73</b>	<b>57.03</b>	<b>19</b>	<b>57.58</b>	<b>43</b>	<b>58.90</b>	<b>5</b>	<b>71.43</b>	<b>6</b>	<b>40.00</b>
<b>避妊（実際に不安を感じたタイミング）</b>										
生理が遅れたとき	19	14.84	4	12.12	13	17.81	0	0.00	2	13.33
避妊具なしでしたとき	10	7.81	1	3.03	5	6.85	1	14.29	3	20.00
ピルの飲み忘れ、飲み遅れ	2	1.56	0	0.00	1	1.37	0	0.00	1	6.67
<b>小計</b>	<b>31</b>	<b>24.22</b>	<b>5</b>	<b>15.15</b>	<b>19</b>	<b>26.03</b>	<b>1</b>	<b>14.29</b>	<b>6</b>	<b>40.00</b>
<b>性交（経験度）</b>										
経験がない、少ないこと	7	5.47	4	12.12	3	4.11	0	0.00	0	0.00
セックス（やり方も含む）がわからない・怖い	5	3.91	1	3.03	4	5.48	0	0.00	0	0.00
うまくできるか	4	3.13	3	9.09	0	0.00	1	14.29	0	0.00
初めての時は不安だった	1	0.78	0	0.00	1	1.37	0	0.00	0	0.00
周りの人がどれくらい経験しているのか	1	0.78	0	0.00	1	1.37	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>14.06</b>	<b>8</b>	<b>24.24</b>	<b>9</b>	<b>12.33</b>	<b>1</b>	<b>14.29</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>性交（経験度以外）</b>										
同意のない性交をした時どうしたらいいか	4	3.13	0	0.00	4	5.48	0	0.00	0	0.00
行為そのものが好きではない	4	3.13	1	3.03	2	2.74	0	0.00	1	6.67
痛みについて	3	2.34	0	0.00	2	2.74	1	14.29	0	0.00
相手に寂しい思いをさせていないか	1	0.78	0	0.00	1	1.37	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>12</b>	<b>9.38</b>	<b>1</b>	<b>3.03</b>	<b>9</b>	<b>12.33</b>	<b>1</b>	<b>14.29</b>	<b>1</b>	<b>6.67</b>
<b>その他</b>										
知識があまりないこと、正しい知識か	9	7.03	3	9.09	6	8.22	0	0.00	0	0.00
性病	9	7.03	1	3.03	6	8.22	0	0.00	2	13.33
身体の相性・身体に自信がない	4	3.13	1	3.03	2	2.74	0	0.00	1	6.67
<b>小計</b>	<b>22</b>	<b>17.19</b>	<b>5</b>	<b>15.15</b>	<b>14</b>	<b>19.18</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>3</b>	<b>20.00</b>
<b>無効回答</b>										
不明・理由になっていない	10		7		3		0		0	
答えたくない	3		2		1		0		0	
<b>(n = 141)</b>										

表 40-2 性交の希望状況 3 群別の性交や避妊の不安内容に関する度数分布

(複数回答・任意回答)

不安内容 (性交状況の3群別)	有効回答 (n = 128)		性交相手有群 (n = 58)		性交希望群 (n = 51)		性交不要群 (n = 19)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
<b>避妊 (確実かどうか)</b>								
避妊方法が確実であるか・正しい方法か	30	23.44	15	25.86	12	23.53	3	15.79
妊娠してしまうのではないか	23	17.97	12	20.69	8	15.69	3	15.79
コンドームのつけ方・完全ではないことへの不安	20	15.63	15	25.86	5	9.80	0	0.00
<b>小計</b>	<b>73</b>	<b>57.03</b>	<b>42</b>	<b>72.41</b>	<b>25</b>	<b>49.02</b>	<b>6</b>	<b>31.58</b>
<b>避妊 (実際に不安を感じたタイミング)</b>								
生理が遅れたとき	19	14.84	12	20.69	5	9.80	2	10.53
避妊具なしでしたとき	10	7.81	3	5.17	7	13.73	0	0.00
ピルの飲み忘れ、飲み遅れ	2	1.56	2	3.45	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>31</b>	<b>24.22</b>	<b>17</b>	<b>29.31</b>	<b>12</b>	<b>23.53</b>	<b>2</b>	<b>10.53</b>
<b>性交 (経験度)</b>								
経験がない、少ないこと	7	5.47	0	0.00	6	11.76	1	5.26
セックス (やり方も含む) がわからない・怖い	5	3.91	0	0.00	1	1.96	4	21.05
うまくできるか	4	3.13	1	1.72	3	5.88	0	0.00
初めての時は不安だった	1	0.78	1	1.72	0	0.00	0	0.00
周りの人がどれくらい経験しているのか	1	0.78	0	0.00	1	1.96	0	0.00
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>14.06</b>	<b>2</b>	<b>3.45</b>	<b>11</b>	<b>21.57</b>	<b>5</b>	<b>26.32</b>
<b>性交 (経験度以外)</b>								
同意のない性交をした時どうしたらいいか	4	3.13	1	1.72	0	0.00	3	15.79
行為そのものが好きではない	4	3.13	1	1.72	1	1.96	2	10.53
痛みについて	3	2.34	1	1.72	1	1.96	1	5.26
相手に寂しい思いをさせていないか	1	0.78	1	1.72	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>12</b>	<b>9.38</b>	<b>4</b>	<b>6.90</b>	<b>2</b>	<b>3.92</b>	<b>6</b>	<b>31.58</b>
<b>その他</b>								
知識があまりないこと、正しい知識か	9	7.03	1	1.72	6	11.76	2	10.53
性病	9	7.03	4	6.90	3	5.88	2	10.53
身体の相性・身体に自信がない	4	3.13	1	1.72	3	5.88	0	0.00
<b>小計</b>	<b>22</b>	<b>17.19</b>	<b>6</b>	<b>10.34</b>	<b>12</b>	<b>23.53</b>	<b>4</b>	<b>21.05</b>
<b>無効回答</b>								
不明・理由になっていない	10		1		7		2	
答えたくない	3		2		1		0	

注：有効回答数 n = 141

性交相手有群 n = 61

性交希望群 n = 59

性交不要群 n = 21



表 40-3 避妊頻度別の性交や避妊の不安内容に関する度数分布（複数回答・任意回答）

不安内容 (避妊頻度別)	有効回答 (n = 109)		性交相手有群 (n = 58)				性交希望群 (n = 51)			
	n	%	A-1群 (n = 50)		A-2,3群 (n = 8)		B-1群 (n = 47)		B-2,3群 (n = 4)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>避妊（確実かどうか）</b>										
避妊方法が確実であるか・正しい方法か	27	24.77	14	28.57	0	0.00	11	23.40	2	50.00
妊娠してしまうのではないか	20	18.35	10	20.41	1	12.50	9	19.15	0	0.00
コンドームのつけ方・完全ではないことへの不安	20	18.35	12	24.49	3	37.50	5	10.64	0	0.00
<b>小計</b>	<b>67</b>	<b>61.47</b>	<b>36</b>	<b>73.47</b>	<b>4</b>	<b>50.00</b>	<b>25</b>	<b>53.19</b>	<b>2</b>	<b>50.00</b>
<b>避妊（実際に不安を感じたタイミング）</b>										
生理が遅れたとき	17	15.60	9	18.37	3	37.50	5	10.64	0	0.00
避妊具なしでしたとき	10	9.17	2	4.08	0	0.00	7	14.89	1	25.00
ピルの飲み忘れ、飲み遅れ	2	1.83	2	4.08	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>29</b>	<b>26.61</b>	<b>13</b>	<b>26.53</b>	<b>3</b>	<b>37.50</b>	<b>12</b>	<b>25.53</b>	<b>1</b>	<b>25.00</b>
<b>性交（経験度）</b>										
経験がない、少ないこと	6	5.50	0	0.00	0	0.00	5	10.64	1	25.00
セックス（やり方も含む）がわからない・怖い	1	0.92	0	0.00	0	0.00	1	2.13	0	0.00
うまくできるか	4	3.67	1	2.04	0	0.00	3	6.38	0	0.00
初めての時は不安だった	1	0.92	1	2.04	0	0.00	0	0.00	0	0.00
周りの人がどれくらい経験しているのか	1	0.92	0	0.00	0	0.00	1	2.13	0	0.00
<b>小計</b>	<b>13</b>	<b>11.93</b>	<b>2</b>	<b>4.08</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>10</b>	<b>21.28</b>	<b>1</b>	<b>25.00</b>
<b>性交（経験度以外）</b>										
同意のない性交をした時どうしたらいいか	1	0.92	1	2.04	0	0.00	0	0.00	0	0.00
行為そのものが好きではない	2	1.83	1	2.04	0	0.00	1	2.13	0	0.00
痛みについて	2	1.83	1	2.04	0	0.00	1	2.13	0	0.00
相手に寂しい思いをさせていないか	1	0.92	1	2.04	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>6</b>	<b>5.50</b>	<b>4</b>	<b>8.16</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>2</b>	<b>4.26</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>その他</b>										
知識があまりないこと、正しい知識か	7	6.42	0	0.00	1	12.50	6	12.77	0	0.00
性病	7	6.42	3	6.12	1	12.50	3	6.38	0	0.00
身体の相性・身体に自信がない	4	3.67	1	2.04	0	0.00	3	6.38	0	0.00
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>16.51</b>	<b>4</b>	<b>8.16</b>	<b>2</b>	<b>25.00</b>	<b>12</b>	<b>25.53</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>無効回答</b>										
不明・理由になっていない	8		1		0		6		1	
答えたくない	3		1		1		1		0	

注：有効回答数 n = 120

- A-1群 性交相手有群のうち、常時避妊 n = 52
- A-2,3群 性交相手有群のうち、時々避妊・避妊なし n = 9
- B-1群 性交希望群のうち、常時避妊 n = 54
- B-2,3群 性交希望群のうち、時々避妊・避妊なし n = 5

## 5-7-2 不安解消法について

不安解消法に関する性別と所属ごとの度数分布を、性交の希望状況3群別で算出した（表41-1~4）。

全体で最も度数が高かったのは、「インターネットやアプリ・SNSで調べる」で104名（57.78%）であり、どの群においても最も度数が高かった。それぞれの群で2番目に度数が高かったのは、性交相手有群では「恋人に相談する」が33名（47.14%）、性交希望群と性交不要群では「特に何もしていない」が20名（26.67%）と15名（42.86%）であった。

表 41-1 全体の不安解消法に関する度数分布（複数回答・任意回答）

不安解消法 (全体)	全体 (n = 180)		性交相手有群 (n = 70)		性交希望群 (n = 75)		性交不要群 (n = 35)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
	病院に行く	41	22.78	23	32.86	15	20.00	3
親に相談する	12	6.67	3	4.29	3	4.00	6	17.14
きょうだいに相談する	2	1.11	1	1.43	0	0.00	1	2.86
友人や先輩・後輩に相談する	36	20.00	16	22.86	15	20.00	5	14.29
恋人に相談する	50	27.78	33	47.14	14	18.67	3	8.57
学校の先生に相談する	3	1.67	1	1.43	1	1.33	1	2.86
インターネットやアプリ・SNSなどで調べる	104	57.78	41	58.57	46	61.33	17	48.57
忘れようとする	12	6.67	3	4.29	8	10.67	1	2.86
特に何もしていない	42	23.33	7	10.00	20	26.67	15	42.86
覚えていない、またはわからない	4	2.22	0	0.00	0	0.00	4	11.43
その他	13	7.22	7	10.00	4	5.33	2	5.71

表 41-2 性交相手有群の不安解消法に関する度数分布（複数回答・任意回答）

不安解消法 (性交相手有群)	全体 (n = 70)		学生 (n = 55)				社会人 (n = 15)			
	n	%	男性 (n = 16)		女性 (n = 39)		男性 (n = 4)		女性 (n = 11)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
病院に行く	23	32.86	4	25.00	14	35.90	2	50.00	3	27.27
親に相談する	3	4.29	0	0.00	2	5.13	1	25.00	0	0.00
きょうだいに相談する	1	1.43	0	0.00	1	2.56	0	0.00	0	0.00
友人や先輩・後輩に相談する	16	22.86	1	6.25	11	28.21	2	50.00	2	18.18
恋人に相談する	33	47.14	7	43.75	16	41.03	3	75.00	7	63.64
学校の先生に相談する	1	1.43	0	0.00	1	2.56	0	0.00	0	0.00
インターネットやアプリ・SNSなどで調べる	41	58.57	9	56.25	26	66.67	2	50.00	4	36.36
忘れようとする	3	4.29	0	0.00	1	2.56	1	25.00	1	9.09
特に何もしていない	7	10.00	3	18.75	2	5.13	1	25.00	1	9.09
覚えていない、またはわからない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他	7	10.00	1	6.25	5	12.82	0	0.00	1	9.09

表 41-3 性交希望群の不安解消法に関する度数分布（複数回答・任意回答）

不安解消法 (性交希望群)	全体 (n = 75)		学生 (n = 62)				社会人 (n = 13)			
	n	%	男性 (n = 30)		女性 (n = 32)		男性 (n = 6)		女性 (n = 7)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
病院に行く	15	20.00	5	16.67	9	28.13	0	0.00	1	14.29
親に相談する	3	4.00	0	0.00	2	6.25	1	16.67	0	0.00
きょうだいに相談する	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
友人や先輩・後輩に相談する	15	20.00	6	20.00	9	28.13	0	0.00	0	0.00
恋人に相談する	14	18.67	5	16.67	7	21.88	1	16.67	1	14.29
学校の先生に相談する	1	1.33	0	0.00	0	0.00	1	16.67	0	0.00
インターネットやアプリ・SNSなどで調べる	46	61.33	17	56.67	22	68.75	3	50.00	4	57.14
忘れようとする	8	10.67	5	16.67	1	3.13	0	0.00	2	28.57
特に何もしていない	20	26.67	9	30.00	7	21.88	2	33.33	2	28.57
覚えていない、またはわからない	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他	4	5.33	2	6.67	1	3.13	0	0.00	1	14.29

表 41-4 性交不要群の不安解消法に関する度数分布（複数回答・任意回答）

不安解消法 (性交不要群)	全体 (n = 35)		学生 (n = 33)				社会人 (n = 2)			
	n	%	男性 (n = 3)		女性 (n = 30)		男性 (n = 0)		女性 (n = 2)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
病院に行く	3	8.57	0	0.00	3	10.00	0	0.00	0	0.00
親に相談する	6	17.14	0	0.00	6	20.00	0	0.00	0	0.00
きょうだいに相談する	1	2.86	0	0.00	1	3.33	0	0.00	0	0.00
友人や先輩・後輩に相談する	5	14.29	1	33.33	4	13.33	0	0.00	0	0.00
恋人に相談する	3	8.57	0	0.00	3	10.00	0	0.00	0	0.00
学校の先生に相談する	1	2.86	0	0.00	1	3.33	0	0.00	0	0.00
インターネットやアプリ・SNSなどで調べる	17	48.57	1	33.33	15	50.00	0	0.00	1	50.00
忘れようとする	1	2.86	0	0.00	1	3.33	0	0.00	0	0.00
特に何もしていない	15	42.86	1	33.33	14	46.67	0	0.00	0	0.00
覚えていない、またはわからない	4	11.43	1	33.33	2	6.67	0	0.00	1	50.00
その他	2	5.71	0	0.00	2	6.67	0	0.00	0	0.00

また、不安解消法で「病院行く」「親に相談する」「きょうだいに相談する」「友人や先輩・後輩に相談する」「恋人に相談する」「学校の先生に相談する」をどれか1つでも選んだ人、またはその他において誰かに相談するような行動を1つでもとった人を「誰かに相談した人」とし、それ以外の人を「1人で不安を解消した人」とした。その分類の仕方、不安解消法で誰かに相談したかを、性交の希望状況3群別で度数分布を算出した（表 42）。性交相手群では、1人で不安を解消する人よりも誰かに相談する人が多く、性交希望群と性交不要群では、誰かに相談する人よりも1人で不安を解消する人が多かった。また、性交相手群、性交希望群、性交不要群の順で誰かに相談する人の割合が高かった。

表 42 不安解消法で誰かに相談したかに関する度数分布（任意回答）

相談したか	全体 (n = 180)		性交相手有群 (n = 70)		性交希望群 (n = 75)		性交不要群 (n = 35)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
誰かに相談した	99	55.00	50	71.43	36	48.00	13	37.14
1人で不安を解消 (特に何もしていないも含む)	79	43.89	20	28.57	39	52.00	20	57.14
覚えていない、またはわからない	2	1.11	0	0.00	0	0.00	2	5.71
合計	180	100.00	70	100.00	75	100.00	35	100.00

さらに、不安解消法の項目は複数回答であり、性交の希望状況3群によって回答選択数に差があるのかを検討するため、一元配置分散分析を行った。この際「特に何もしていない」と「覚えていない、またはわからない」の選択肢は除いた（表 43）。その結果、有意差はみられなかった( $F = 0.78, n.s.$ )。

表 43 性交の希望状況3群の不安解消法の回答選択数の分散分析（任意回答）

	n	Mean	Min	Max	SD	df	F値
性交相手有群	64	1.94	1	5	1.01	2	0.78
性交希望群	60	1.77	1	4	0.81		
性交不要群	23	1.70	1	5	1.11		

5-8 セックス（性交）のイメージについて

セックス（性交）について、自身がどのようなイメージをもっているかを自由記述で回答を求め、性別と性交経験の有無ごとに度数分布を算出した（表 44）。これは、筆者がプラス面・マイナス面・捉え方・誰とするかの4つのジャンルに分け、それぞれを分類した。

表 44 性別と性交経験有無ごとの性交のイメージに関する度数分布（複数回答）

性交イメージ	有効回答 (n = 264)		性別 (n = 264)				性交経験 (n = 256)			
	n	%	男性 (n = 94)		女性 (n = 170)		あり (n = 118)		なし (n = 141)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>プラス面</b>										
愛情表現・確認、愛がある	43	16.29	14	14.89	29	17.06	23	19.49	20	14.18
快感・快樂	22	8.33	13	13.83	9	5.29	11	9.32	11	7.80
コミュニケーション、相手を知る手段	21	7.95	6	6.38	15	8.82	13	11.02	6	4.26
気持ちいいもの	17	6.44	11	11.70	6	3.53	8	6.78	8	5.67
恋愛の一部、恋人に必要・大切	9	3.41	1	1.06	8	4.71	6	5.08	3	2.13
精神的に安心・繋がる	8	3.03	6	6.38	2	1.18	3	2.54	4	2.84
よい	6	2.27	4	4.26	2	1.18	5	4.24	1	0.71
スキンシップ	5	1.89	1	1.06	4	2.35	4	3.39	1	0.71
幸せなこと	5	1.89	3	3.19	2	1.18	5	4.24	0	0.00
楽しい	5	1.89	2	2.13	3	1.76	2	1.69	3	2.13
大切なこと	4	1.52	1	1.06	3	1.76	2	1.69	2	1.42
必要なこと	4	1.52	2	2.13	2	1.18	1	0.85	3	2.13
ストレス発散	4	1.52	2	2.13	2	1.18	4	3.39	0	0.00
特別	2	0.76	1	1.06	1	0.59	0	0.00	2	1.42
娯楽	2	0.76	0	0.00	2	1.18	0	0.00	2	1.42
きれい	2	0.76	2	2.13	0	0.00	1	0.85	0	0.00
今自分に足りない感情を補うための行為、新しい経験	2	0.76	1	1.06	1	0.59	1	0.85	1	0.71
体にいい	1	0.38	0	0.00	1	0.59	1	0.85	0	0.00
懂れ	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
<b>小計</b>	<b>163</b>	<b>61.74</b>	<b>70</b>	<b>74.47</b>	<b>93</b>	<b>54.71</b>	<b>90</b>	<b>76.27</b>	<b>68</b>	<b>48.23</b>
<b>マイナス面</b>										
人に話せない・タブー	14	5.30	4	4.26	10	5.88	4	3.39	10	7.09
悪い、良いイメージはない	12	4.55	5	5.32	7	4.12	6	5.08	6	4.26
「リスク」がある	9	3.41	1	1.06	8	4.71	4	3.39	5	3.55
いやらしいこと、エロいこと	9	3.41	5	5.32	4	2.35	3	2.54	6	4.26
気持ち悪い	8	3.03	1	1.06	7	4.12	2	1.69	6	4.26
怖い	7	2.65	0	0.00	7	4.12	1	0.85	6	4.26
したくない	6	2.27	0	0.00	6	3.53	2	1.69	4	2.84
安全ではない	5	1.89	1	1.06	4	2.35	2	1.69	3	2.13
女性にリスクがある	5	1.89	0	0.00	5	2.94	4	3.39	1	0.71
未知・想像できない	4	1.52	1	1.06	3	1.76	0	0.00	4	2.84
大変、疲れる	4	1.52	0	0.00	4	2.35	3	2.54	1	0.71
痛い	3	1.14	0	0.00	3	1.76	1	0.85	2	1.42
汚い	3	1.14	0	0.00	3	1.76	1	0.85	2	1.42
面倒くさい	3	1.14	1	1.06	2	1.18	1	0.85	2	1.42
経験の有無で個人を評価する基準になり得る、遅れをとる	2	0.76	1	1.06	1	0.59	0	0.00	2	1.42
楽しめない	2	0.76	0	0.00	2	1.18	1	0.85	1	0.71
嫌い	2	0.76	0	0.00	2	1.18	1	0.85	1	0.71
始め方がわからない	1	0.38	1	1.06	0	0.00	0	0.00	1	0.71
ハードルが高い	1	0.38	1	1.06	0	0.00	0	0.00	1	0.71
緊張感・賭けあい	1	0.38	1	1.06	0	0.00	1	0.85	0	0.00
得体の知れないもの	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
抵抗感・罪悪感	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
女遊び	1	0.38	0	0.00	1	0.59	1	0.85	0	0.00
<b>小計</b>	<b>104</b>	<b>39.39</b>	<b>23</b>	<b>24.47</b>	<b>81</b>	<b>47.65</b>	<b>38</b>	<b>32.20</b>	<b>66</b>	<b>46.81</b>

表 44 つづき

性交イメージ	有効回答 (n = 264)		性別 (n = 264)				性交経験 (n = 256)			
	n	%	男性 (n = 94)		女性 (n = 170)		あり (n = 118)		なし (n = 141)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>捉え方</b>										
子どもを作るための行為	43	16.29	13	13.83	30	17.65	13	11.02	30	21.28
性欲を満たす行為	20	7.58	7	7.45	13	7.65	11	9.32	9	6.38
人間の本能、動物的	17	6.44	6	6.38	11	6.47	5	4.24	11	7.80
同意が必要	11	4.17	3	3.19	8	4.71	5	4.24	6	4.26
関係性を考える行為	4	1.52	2	2.13	2	1.18	3	2.54	1	0.71
信頼関係が必要	4	1.52	0	0.00	4	2.35	2	1.69	2	1.42
責任を持つべきこと	3	1.14	1	1.06	2	1.18	1	0.85	2	1.42
気分による、理性がない行為	3	1.14	1	1.06	2	1.18	1	0.85	2	1.42
男女で意識に差がある	3	1.14	1	1.06	2	1.18	3	2.54	0	0.00
誰にでもありうること	3	1.14	3	3.19	0	0.00	1	0.85	2	1.42
知識が必要	2	0.76	0	0.00	2	1.18	1	0.85	1	0.71
日常的なもの	2	0.76	1	1.06	1	0.59	2	1.69	0	0.00
暑い	2	0.76	1	1.06	1	0.59	1	0.85	1	0.71
中毒性が高い	2	0.76	1	1.06	1	0.59	0	0.00	2	1.42
みんなしてるもの	2	0.76	0	0.00	2	1.18	0	0.00	2	1.42
頻繁にやるものではない	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
女体の勉強になる	1	0.38	1	1.06	0	0.00	0	0.00	1	0.71
深夜や視聴者を限ったドラマでしか登場しない	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
カクカク動いている	1	0.38	1	1.06	0	0.00	0	0.00	1	0.71
商売道具	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
しなくてもいい	1	0.38	0	0.00	1	0.59	0	0.00	1	0.71
<b>小計</b>	<b>127</b>	<b>48.11</b>	<b>42</b>	<b>44.68</b>	<b>85</b>	<b>50.00</b>	<b>49</b>	<b>41.53</b>	<b>77</b>	<b>54.61</b>
<b>誰とするか</b>										
相性がいい人としかしたくない	1	0.38	0	0.00	1	0.59	1	0.85	0	0.00
好きな人とする	10	3.79	3	3.19	7	4.12	4	3.39	6	4.26
恋人同士がする	11	4.17	2	2.13	9	5.29	6	5.08	5	3.55
大人がする	9	3.41	1	1.06	8	4.71	2	1.69	7	4.96
結婚している人がする	5	1.89	2	2.13	3	1.76	1	0.85	4	2.84
<b>小計</b>	<b>36</b>	<b>13.64</b>	<b>8</b>	<b>8.51</b>	<b>28</b>	<b>16.47</b>	<b>14</b>	<b>11.86</b>	<b>22</b>	<b>15.60</b>
<b>無効回答</b>										
分からない・特になし	23		6		17		6		17	
答えたくない	54		17		37		12		35	

注：有効回答数 n = 341

性別の男性・女性 n = 341

性交経験のあり・なし n = 329

## 5-9 避妊の捉え方について

避妊について、自身がどのように捉えているかを自由記述で回答を求め、性別と性交経験の有無、恋人以外の相手と性交希望の有無ごとに度数分布を算出した(表 45-1, 2)。これは、筆者が重要系・べき系・懸念点・役割・その他イメージの5つのジャンルに分け、それぞれを分類した。

表 45-1 性別と性交経験有無ごとの避妊の捉え方に関する度数分布（複数回答）

避妊捉え方 (性別・性交経験有無)	有効回答 (n = 297)		性別 (n = 297)				性交経験 (n = 287)			
	n	%	男性 (n = 95)		女性 (n = 202)		あり (n = 121)		なし (n = 164)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>重要系</b>										
必要なこと	57	19.19	15	15.79	42	20.79	21	17.36	34	20.73
大切なこと	41	13.80	15	15.79	26	12.87	15	12.40	25	15.24
自分・自分の身を守ること、自分のため	22	7.41	2	2.11	20	9.90	8	6.61	13	7.93
生活・人生にかかわる重要なこと	21	7.07	9	9.47	12	5.94	10	8.26	9	5.49
相手・相手の身を守ること、相手のため	15	5.05	5	5.26	10	4.95	4	3.31	10	6.10
女性の身を守ること	3	1.01	0	0.00	3	1.49	0	0.00	3	1.83
若者に必要	3	1.01	0	0.00	3	1.49	0	0.00	3	1.83
<b>小計</b>	<b>162</b>	<b>54.55</b>	<b>46</b>	<b>48.42</b>	<b>116</b>	<b>57.43</b>	<b>58</b>	<b>47.93</b>	<b>97</b>	<b>59.15</b>
<b>べき系</b>										
すべき・自分もしたい	56	18.86	22	23.16	34	16.83	32	26.45	23	14.02
無責任にならないこと・考えるべきこと	20	6.73	7	7.37	13	6.44	11	9.09	8	4.88
意識や知識が必要・広めるべき・学ぶべき	20	6.73	3	3.16	17	8.42	5	4.13	15	9.15
エチケット・マナー	11	3.70	6	6.32	5	2.48	5	4.13	6	3.66
相手と話しておくべき	8	2.69	4	4.21	4	1.98	2	1.65	6	3.66
男女ともに意識すべき	8	2.69	0	0.00	8	3.96	2	1.65	6	3.66
結婚するまではするべき	5	1.68	2	2.11	3	1.49	1	0.83	4	2.44
男女ともに避妊すべき	2	0.67	0	0.00	2	0.99	1	0.83	1	0.61
世間体のためにもすべき	1	0.34	0	0.00	1	0.50	0	0.00	1	0.61
男性が避妊すべき	1	0.34	0	0.00	1	0.50	1	0.83	0	0.00
<b>小計</b>	<b>132</b>	<b>44.44</b>	<b>44</b>	<b>46.32</b>	<b>88</b>	<b>43.56</b>	<b>60</b>	<b>49.59</b>	<b>70</b>	<b>42.68</b>
<b>懸念点</b>										
100%安全ではない	16	5.39	2	2.11	14	6.93	6	4.96	10	6.10
周りが無知・避妊していない	5	1.68	0	0.00	5	2.48	3	2.48	2	1.22
正しい知識かわからない	4	1.35	1	1.05	3	1.49	0	0.00	4	2.44
ピルに対する偏見がなくなればいい	2	0.67	0	0.00	2	0.99	1	0.83	1	0.61
気持ちよくないこと	1	0.34	0	0.00	1	0.50	1	0.83	0	0.00
何重にも保険をかけたい	1	0.34	1	1.05	0	0.00	1	0.83	0	0.00
ピルが高いからキツイ	1	0.34	0	0.00	1	0.50	1	0.83	0	0.00
難しそうだと思う	1	0.34	0	0.00	1	0.50	1	0.83	0	0.00
<b>小計</b>	<b>31</b>	<b>10.44</b>	<b>4</b>	<b>4.21</b>	<b>27</b>	<b>13.37</b>	<b>14</b>	<b>11.57</b>	<b>17</b>	<b>10.37</b>
<b>役割</b>										
避妊の説明	18	6.06	5	5.26	13	6.44	7	5.79	10	6.10
感染症を防ぐ	8	2.69	2	2.11	6	2.97	4	3.31	3	1.83
愛情表現・信頼関係	3	1.01	1	1.05	2	0.99	2	1.65	1	0.61
<b>小計</b>	<b>29</b>	<b>9.76</b>	<b>8</b>	<b>8.42</b>	<b>21</b>	<b>10.40</b>	<b>13</b>	<b>10.74</b>	<b>14</b>	<b>8.54</b>
<b>その他イメージ</b>										
安全・安心	8	2.69	4	4.21	4	1.98	5	4.13	3	1.83
良いこと	6	2.02	3	3.16	3	1.49	2	1.65	3	1.83
ほかの動物よりも倫理的	4	1.35	1	1.05	3	1.49	1	0.83	3	1.83
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>6.06</b>	<b>8</b>	<b>8.42</b>	<b>10</b>	<b>4.95</b>	<b>8</b>	<b>6.61</b>	<b>9</b>	<b>5.49</b>
<b>無効回答</b>										
不明	7		5		2		4		3	
分からない・特になし	10		4		6		2		8	
答えたくない	27		13		14		7		18	

注：有効回答数 n = 341

性別の男性・女性 n = 341

性交経験のあり・なし n = 329

表 45-2 恋人以外の相手と性交希望有無ごとの避妊の捉え方に関する度数分布(複数回答)

避妊捉え方 (恋人以外の相手と性交希望有無)	有効回答 (n = 297)		恋人以外の相手と性交希望 (n = 297)			
	n	%	あり (n = 65)		なし (n = 232)	
			n	%	n	%
<b>重要系</b>						
必要なこと	57	19.19	10	15.38	47	20.26
大切なこと	41	13.80	13	20.00	28	12.07
自分・自分の身を守ること、自分のため	22	7.41	3	4.62	19	8.19
生活・人生にかかわる重要なこと	21	7.07	5	7.69	16	6.90
相手・相手の身を守ること、相手のため	15	5.05	1	1.54	14	6.03
女性の身を守ること	3	1.01	0	0.00	3	1.29
若者に必要	3	1.01	0	0.00	3	1.29
<b>小計</b>	<b>162</b>	<b>54.55</b>	<b>32</b>	<b>49.23</b>	<b>130</b>	<b>56.03</b>
<b>べき系</b>						
するべき・自分もしたい	56	18.86	16	24.62	40	17.24
無責任にならないこと・考えるべきこと	20	6.73	4	6.15	16	6.90
意識や知識が必要・広めるべき・学ぶべき	20	6.73	2	3.08	18	7.76
エチケット・マナー	11	3.70	1	1.54	10	4.31
相手と話しておくべき	8	2.69	1	1.54	7	3.02
男女ともに意識すべき	8	2.69	0	0.00	8	3.45
結婚するまではするべき	5	1.68	0	0.00	5	2.16
男女ともに避妊すべき	2	0.67	0	0.00	2	0.86
世間体のためにもすべき	1	0.34	0	0.00	1	0.43
男性が避妊すべき	1	0.34	1	1.54	0	0.00
<b>小計</b>	<b>132</b>	<b>44.44</b>	<b>25</b>	<b>38.46</b>	<b>107</b>	<b>46.12</b>
<b>懸念点</b>						
100%安全ではない	16	5.39	3	4.62	13	5.60
周りが無知・避妊していない	5	1.68	2	3.08	3	1.29
正しい知識かわからない	4	1.35	1	1.54	3	1.29
ピルに対する偏見がなくなればいい	2	0.67	1	1.54	1	0.43
気持ちよくないこと	1	0.34	1	1.54	0	0.00
何重にも保険をかけたい	1	0.34	0	0.00	1	0.43
ピルが高いからキツイ	1	0.34	0	0.00	1	0.43
難しそうだと思う	1	0.34	0	0.00	1	0.43
<b>小計</b>	<b>31</b>	<b>10.44</b>	<b>8</b>	<b>12.31</b>	<b>23</b>	<b>9.91</b>
<b>役割</b>						
避妊の説明	18	6.06	1	1.54	17	7.33
感染症を防ぐ	8	2.69	2	3.08	6	2.59
愛情表現・信頼関係	3	1.01	1	1.54	2	0.86
<b>小計</b>	<b>29</b>	<b>9.76</b>	<b>4</b>	<b>6.15</b>	<b>25</b>	<b>10.78</b>
<b>その他イメージ</b>						
安全・安心	8	2.69	3	4.62	5	2.16
良いこと	6	2.02	4	6.15	2	0.86
ほかの動物よりも倫理的	4	1.35	0	0.00	4	1.72
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>6.06</b>	<b>7</b>	<b>10.77</b>	<b>11</b>	<b>4.74</b>
<b>無効回答</b>						
不明	7		3		4	
分からない・特にない	10		2		8	
答えたくない	27		2		25	
(n = 341)						

## 5-10 性の悩みについて

性に関することで悩んでいることの内容を自由記述で回答を求め、度数分布を算出した(表 46)。

有効回答数は 60 名であった。内容としては、性交に関する悩みが 32 個(53.33%)と最も多く、その他にも様々な悩みがみられた。

表 46 性の悩みに関する度数分布(複数回答・任意回答)

性の悩み内容	有効回答 (n = 60)		学生 (n = 54)				社会人 (n = 6)			
	n	%	男性 (n = 20)		女性 (n = 34)		男性 (n = 3)		女性 (n = 3)	
			n	%	n	%	n	%	n	%
<b>性交に関して</b>										
恋人との性交の不安	9	15.00	1	5.00	6	17.65	1	33.33	1	33.33
性経験がないこと	8	13.33	2	10.00	5	14.71	1	33.33	0	0.00
もっと性交をしたい	4	6.67	2	10.00	2	5.88	0	0.00	0	0.00
性交する相手がいないこと	4	6.67	4	20.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
性交が怖い・抵抗がある	4	6.67	1	5.00	3	8.82	0	0.00	0	0.00
恋人以外の相手と性交してもいいか	2	3.33	0	0.00	1	2.94	1	33.33	0	0.00
セカンドバージンが不安	1	1.67	0	0.00	1	2.94	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>32</b>	<b>53.33</b>	<b>10</b>	<b>50.00</b>	<b>18</b>	<b>52.94</b>	<b>3</b>	<b>100.00</b>	<b>1</b>	<b>33.33</b>
<b>リスク系</b>										
知識がない、情報が得られない	6	10.00	2	10.00	4	11.76	0	0.00	0	0.00
避妊に関して	4	6.67	1	5.00	2	5.88	0	0.00	1	33.33
性病に関して	1	1.67	1	5.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>11</b>	<b>18.33</b>	<b>4</b>	<b>20.00</b>	<b>6</b>	<b>17.65</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>1</b>	<b>33.33</b>
<b>自身の性・身体に関して</b>										
身体に自信がない	7	11.67	4	20.00	3	8.82	0	0.00	0	0.00
性的指向に関して	7	11.67	1	5.00	5	14.71	0	0.00	1	33.33
性自認に関して	4	6.67	2	10.00	2	5.88	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>30.00</b>	<b>7</b>	<b>35.00</b>	<b>10</b>	<b>29.41</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>1</b>	<b>33.33</b>
<b>その他</b>										
興味がない、生きづらい、結婚できるのか	7	11.67	2	10.00	5	14.71	0	0.00	0	0.00
相談できない、誰に相談すべきか	4	6.67	1	5.00	2	5.88	0	0.00	1	33.33
月経に関して	3	5.00	0	0.00	3	8.82	0	0.00	0	0.00
恋愛に関して	3	5.00	2	10.00	1	2.94	0	0.00	0	0.00
自慰に関して	1	1.67	0	0.00	1	2.94	0	0.00	0	0.00
<b>小計</b>	<b>18</b>	<b>30.00</b>	<b>5</b>	<b>25.00</b>	<b>12</b>	<b>35.29</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>	<b>1</b>	<b>33.33</b>
<b>無効回答</b>										
不明	2		0		1		1		0	
特になし	81		27		38		8		8	
答えたくない	2		2		0		0		0	
(n = 145)										

## 6. 考察

### 6-1 仮説の検証

#### 6-1-1 仮説 1 の検証

仮説 1-1 の「女性は男性よりも、恋人と性交をしたくない人が多い」について検証する。本研究の結果では、現在恋人がいない人において、男性は女性よりも、仮に恋人がいた場合恋人と性交したいと思わない人が多かった。しかし、現在恋人がいる人においては、性交を



している人を希望有に含めても含めなくても、性交希望と性別の有意差はみられなかった。したがって、仮説 1-1 は一部支持された。

仮説 1-1 が一部支持された要因として、恋人がいない女性は男性より、性交に恐怖感を抱いている人が多いことが挙げられる。恋人と性交をしたくない理由の自由記述で「怖いから」と答えた人は男性が 0 名であるのに対し、女性は 8 名(24.24%)であり、うち 6 名は恋人がいない人であった。日本性教育協会 (2019) は、性に対するイメージの悪化が女子において顕著であると指摘している。つまり、現在恋人がいない状況で漠然と恋人を想像し、性交をするということに視線を向けた際に、イメージの悪さが女子に多く影響を与えたと示唆される。

また、仮説 1-1 が一部支持されなかった要因として、現在恋人がいる人は、男女ともに恋人との性交が当たり前で、愛情表現の 1 つとして大切に思っていることが挙げられる。実際、恋人がいる人のうち、男性では 91.18%、女性では 87.32%とほとんどの人が、性交をしているか性交を希望している。したくない人が非常に少数であり、恋人がいる人の中では当たりの行為と言っても過言ではない。さらに、恋人と性交したい、または性交する理由の自由記述には、恋人との性交を愛情表現と捉える意見が多くみられた。したがって、現在恋人がいる人は男女ともに、恋人と性交をすることの懸念を抱きにくく、その良さを想像しやすかったのではないかと考えられる。

仮説 1-2 の「男性は女性よりも、恋人以外で性交相手がいる人が多い」について検証する。本研究の結果では、恋人以外での性交相手の有無と性別に有意差はみられなかった。したがって、仮説 1-2 は支持されなかった。

仮説 1-2 が支持されなかった要因として、サンプル数が少なかったことが挙げられる。恋人以外に性交相手がいる人は、全体でも 341 名中 17 名(4.99%)しかおらず、男女で偏りにくかったことが考えられる。また、仮に性交したいと思っても、すぐに自分一人で行うことではないため実行に移せないことが、この数の少なさに起因しているのではないかと考えられる。

仮説 1-3 の「男性は女性よりも、恋人でない人と性交をしたい人が多い」について検証する。本研究の結果では、実際に恋人以外での性交相手がいる人を希望有で含めた場合も含めなかった場合も、男性は女性よりも、恋人でない人と性交したい人が多かった。したがって、仮説 1-3 は支持された。

仮説 1-3 が支持された要因として、男性は女性よりもリスクが少ないことが挙げられる。性交をすることで、性病に関しては男女ともに危険が伴うが、男性にとって妊娠の物理的な損失はほとんど無い。恋人以外の相手と性交したい、または性交している理由の自由記述からも分かるように、男性は女性よりも性欲に関する理由が多く、リスクを比較的気にせず、人間の本能に従っているのではないかと推察される。さらに、仮説 1-2 が支持されず、仮説 1-3 が支持された要因として、あくまで仮の話であることが挙げられる。実際に恋人以外の性交相手がいることと、想像で恋人以外でない人と性交したいと思っているのでは、肉体的・精神的・世間的なリスクが全く異なる。そのため、机上の空論である仮説 1-3 は支持されやすかったのではないかと考えられる。

### 6-1-2 仮説2の検証

仮説2の「今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人は、今は知識程度だが性交する意思がある人よりも避妊頻度が低い」について検証する。本研究の結果では、性交相手有群は性交希望群よりも避妊頻度が低い人が多かった。したがって、仮説2は支持された。

仮説2が支持された要因として、現実と理想の違いが挙げられる。性交相手有群と性交希望群は全く別の人同士であるが、対応させて考えた場合、性交相手有群は現実、性交希望群は理想と捉えることができる。山口ら(2007)は、大学生では、避妊が必要だと理解していても実際に避妊行動がとれる者ととれない者がいると述べている。避妊の必要性を理解しているのは両群とも変わらないが、現実でどうしているかを意見にした性交相手有群は、その理想をそのまま意見にした性交希望群とギャップができることは十分に考えられる。

### 6-1-3 仮説3の検証

仮説3-1の「社会人は学生よりも、性交をしたくないときに性交相手に伝えられる」について検証する。本研究の結果では、性交希望群においては所属間で伝えられるかに有意差がみられなかったが、性交相手有群において社会人は学生よりも性交したくないとき性交相手に伝えられる傾向があった。したがって、仮説3-1はおおよそ支持された。

仮説3-1がおおよそ支持された要因として、学生よりも社会人のほうが、性交に対して性欲を満たすことを重視していないことが挙げられる。恋人と性交をしたい理由に関する自由記述を見ると、性欲系の意見が学生では2割程度であるのに対し、社会人では1割弱と非常に少ない。つまり、社会人は性欲を満たすために性交をしている人が少なく、理性を保つことができるため、自分の意思もしっかり伝えられるのではないかと推察される。

仮説3-2の「女性は男性よりも、性交をしたくないときに性交相手に伝えられない」について検証する。本研究の結果では、性交相手有群・性交希望群の両群において、性別間で伝えられるかに有意差はみられなかった。したがって、仮説3-2は支持されなかった。

仮説3-2が支持されなかった要因として、男性にも相手に気を遣って伝えられない人がいることが挙げられる。平均が3.20から3.48までで収まっているため、基本的に多くの人が相手に伝えられると回答している。一方、一部の男性の伝えられない理由を見ると、「傷つけないから」「相手の気持ちを優先するから」などの、相手を受け入れてしまうという意見がある。男尊女卑の思想は現代の若者にはほとんどなく、女性だけでなく男女ともに、性交をしたくないときに伝えることが難しい人がいることが明らかになった。

仮説3-3の「避妊をいつもしている人は、避妊頻度が低い人よりも、性交をしたくないときに性交相手に伝えられる」について検証する。本研究の結果では、性交希望群においては避妊頻度で伝えられるかに有意差がみられなかった。しかし、性交相手有群において、避妊をいつもしている人は避妊頻度が低い人よりも、性交したくないとき性交相手に伝えられる傾向があった。したがって、仮説3-3は一部支持された。

仮説3-3が一部支持された要因として、性交相手有群の避妊をいつもしている人は、性交

相手と対等なコミュニケーションができる関係であったことが挙げられる。避妊をする人には少なからず、相手を尊重し自分の身も守る意思があり、その関係性は対等であると考えられる。一方、避妊頻度が低い人は、望まない妊娠のリスクを負ってでも性交をするという観点から、自分と相手は、リスクを顧みない性欲解消のための性交をする関係に成り下がっていると考えられるため、性交をしたくないと伝えづらくなるだろう。したがって、自分が性交をしたくないときも自分の意思を大切にし、それを相手に話せる信頼関係があったのではないかと推測される。

#### 6-1-4 仮説4の検証

仮説4-1の「避妊頻度が低い人は、避妊をいつもしている人よりも、膈外射精に関する知識が間違っている・分からない人が多い」について検証する。本研究の結果では、性交相手有群と性交希望群ともに、避妊頻度で膈外射精に関する知識問題の回答の正誤に有意差はみられなかった。したがって、仮説4-1は支持されなかった。

仮説4-1が支持されなかった要因として、性交相手有群と性交希望群で1点ずつ挙げられる。まず、性交相手有群においては、避妊頻度に関わらず、ほとんどの人が膈外射精法は間違った避妊法だと認識していることが挙げられる。時々避妊の人のうち、12名(66.67%)が膈外射精法を選択していたが、確実な避妊法として行っているわけではないと考えられる。次に、性交希望群においては、「避妊をする」と思っているにもかかわらず膈外射精に対して正しい知識を持っている人が少ないことが挙げられる。避妊頻度に関わらず、性交希望群の不正解の割合は2割超えであり、性交相手有群と比較すると低い正答率である。言い換えると、避妊の知識がある人が、いつも避妊をするわけではないということが示された。

仮説4-2の「社会人は学生よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、所属で性知識問題の合計得点に有意差はみられなかった。したがって、仮説4-2は支持されなかった。

仮説4-2が支持されなかった要因として、若者が性の知識について学ぶ機会は高校までであることが挙げられる。現在、大学などの学校や職場で若者に性の知識を教えてくれる機会はほとんど無い。高校を卒業すると、その時点で性教育の履修は終了し、その後は自らが学ぼうとしないと情報が入ってこない。そのため、所属による違いはみられなかったと考えられる。

仮説4-3の「男性は女性よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、男性は女性よりも、性知識問題の合計得点が高い傾向がみられた。したがって、仮説4-3はおおよそ支持された。

仮説4-3がおおよそ支持された要因として、2点が挙げられる。第1に、男性よりも女性が当事者意識をもちやすい問題があったからである。例えば学生において、不妊症や女性生理の問題は、妊娠が可能な身体をもつ女性のほうが男性よりも正答率が高かった。第2に、女性はアダルト動画で避妊の知識を得ている人が少ないからである。避妊の知識源として「アダルト動画(DVDやネットなど)」を選択した人は、学生男性が16名(16.67%)、学生女性が10名(5.18%)、社会人男性が6名(28.57%)、社会人女性が1名(33.33%)であった。ア

ダルト動画はエンタメとして性行為を行うため、現実離れした描写が多くある。そのため、相対的に男性のほうが間違っただけの情報を取り入れる可能性が高いと言える。

仮説 4-4 の「性交経験がある人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、性交経験がある人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高かった。したがって、仮説 4-4 は支持された。

仮説 4-4 が支持された要因として、2 点が挙げられる。第 1 に、性交経験を経て身につけられた知識があったと考えられるからである。日常的に性に関することは口にしないからこそ、性交経験で初めて知ることもあり、そこから知識の必要性を感じたとも推測できる。第 2 に、性交経験のない人は、相対的に性交に対してマイナスなイメージをもっているからである。セックス（性交）のイメージを自由記述で尋ねたところ、性交経験ありの人はマイナス面からのイメージが 38 個(32.20%)であったのに対し、性交経験なしの人は 66 個(46.81%)であった。特に、「人に話せない・タブー」「気持ち悪い」などのイメージがあると、性交に限らず性に関する知識にも嫌悪感をもつ可能性があり、積極的に学ぼうとは思わないだろうと推測できる。

仮説 4-5 の「恋人がいる人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、恋人がいる人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高かった。したがって、仮説 4-5 は支持された。

仮説 4-5 が支持された要因として、恋人がいる人にとって性の問題は自身と結びつきが強いことが挙げられる。現在恋人がいる人はいない人よりも、性に関して非常にリアリティがあると考えられる。さらに、性に関する話を恋人ともできるため、異性の恋人であれば異性の身体についての知識も得やすくなる。そのため、恋人がいる人は、より性の知識の必要性を実感し、それを得ようとしたのではないだろうか。

仮説 4-6 の「恋人以外の性交相手がいる人はいない人よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、恋人以外の性交相手の有無で性知識問題の合計得点に有意差がみられなかった。したがって、仮説 4-6 は支持されなかった。

仮説 4-6 が支持されなかった要因として、仮説 4-5 と同様に、性に関する内容が自身にとってリアリティがあったことが挙げられる。そのため、恋人以外の相手と性交している人が、性に対して不真面目であるとは言えない。むしろ現在性交相手がいるという意味では、今後さらに知識を身につけられる可能性があるだろう。

仮説 4-7 の「避妊の知識を学校（先生、授業や教科書）で得ている人は得ていない人よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、避妊の知識を学校で得ているかどうかで、性知識問題の合計得点に有意差がみられなかった。したがって、仮説 4-7 は支持されなかった。

仮説 4-7 が支持されなかった要因として、学校での性教育が役に立たないものであることが挙げられる。日本性教育協会（2019）によると、「今までの学校の性教育で教わったことがら、自分にとって役に立ったか」という問いで、高校生よりも大学生のほうが否定的な評価が高く、全体の半数に達しているという。さらに、大学生が初めて性交をした年齢の最頻値は男性が 18 歳、女性は 19 歳で、ちょうど大学に進学するタイミングである。このように、多くの学生がよりリアルに性教育の内容を実感できる歳になって、役に立たないと感じている。この背景があって、学校の性教育と性知識は有意差がみられず、支持されなかった

のではないか。

仮説 4-8 の「今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人は、今は知識程度だが性交する意思がある人と今は性交をする意思がない人よりも、性知識問題の合計得点が高い」について検証する。本研究の結果では、性交相手有群は性交希望群と性交不要群よりも、性知識問題の合計得点が高かった。したがって、仮説 4-8 は支持された。

仮説 4-8 が支持された要因として、仮説 4-5 と同様に、現在性交相手がいることが、性知識問題の合計得点に大きく意味をもっていたことが挙げられる。

加えて、性交希望群と性交不要群で有意差がみられなかった要因として、両群とも性の知識の無さに対して危機感をもっていない、もっていても行動をしていないことが挙げられる。特に性交希望群は、今後性交する意思があり、性交や避妊についての不安内容に関する自由記述には知識があまりないことや避妊法が正しいかを不安に思っていることが示されている。それにも関わらず、性交相手有群と同程度の知識がないのは非常に問題である。

#### 6-1-5 仮説 5 の検証

仮説 5 の「性交経験がない人はある人よりも、避妊の知識が必要だと思っていない」について検証する。本研究の結果では、性交経験の有無で避妊が必要だと思うかに有意差がみられなかった。したがって、仮説 5 は支持されなかった。

仮説 5 が支持された要因として、性交経験の有無に関わらず、避妊に関しては多くの人が必要性を感じていることが挙げられる。本研究で「避妊の知識が必要だと思わない」と回答した人が非常に少なく、有意差が確認できなかった。避妊の知識がなぜ必要だと思うのか自由記述で尋ねたところ、学生女性は「人として当たり前のことだと思うから」、学生男性は「こういった知識は持っておいて困らないから」など、知識は持っておいたほうが良いという意見が多く見受けられた。つまり、性交はしないうちでも、ほぼ全員が自分にとって避妊の知識が必要だとなんとなく思っていると言える。

#### 6-1-6 仮説 6 の検証

仮説 6-1 の「避妊頻度が低い人は避妊をいつもしている人よりも、性交と避妊への不安がある人が多い」について検証する。本研究の結果では、性交相手有群において、避妊頻度が低い人は避妊をいつもしている人よりも、性交と避妊への不安がある人が少なかった。さらに、性交希望群において、避妊頻度で性交と避妊への不安の有無に有意差はみられなかった。したがって、仮説 6-1 は支持されなかった。

仮説 6-1 が支持されなかった要因として、性交相手有群において、避妊頻度が低い人は性交をすることによる妊娠の可能性を深く考えていないことが挙げられる。避妊をしない理由には、「多分妊娠しないと思うから」「しなくても大丈夫だと思うから」が合わせて 7 名 (36.84%) と最も多く、避妊頻度が低い人の危機感が薄いことが見受けられる。避妊を行うべきなのが大前提であるが、本当に不安に思わなければいけない人が不安を感じないことも、

非常に問題であると言える。

仮説 6-2 の「今まさに避妊に注意しなければならない状況にある人は、今は知識程度だが性交する意思がある人と今は性交をする意思がない人よりも、不安解消法が多い」について検証する。本研究の結果では、性交の希望状況で不安解消法の数に有意差はみられなかった。したがって、仮説 6-2 は支持されなかった。

仮説 6-2 が支持されなかった要因として、2 点が挙げられる。第 1 に、不安を解消するための情報や手段は誰でも手に入れやすいからである。第 2 に、性交や避妊に関しての不安はプライベートな内容のため、誰にでも相談できることではないからである。したがって、現在性交をしている人が、していない人と比べて不安解消法が多くあるわけではないと言える。

仮説 6-3 の「不安を解消するのは、誰かに相談するよりも 1 人で解消する方が多い」について検証する。本研究の結果では、性交相手有群を除いた、性交希望群と性交不要群において、不安を解消するのは誰かに相談するよりも 1 人で解消する方が多かった。したがって、仮説 6-3 はおおよそ支持された。

仮説 6-3 がおおよそ支持された要因として、性交相手群と比較すると、性交希望群と性交不要群の意見には、誰に相談すればいいのか分からないような内容が多いことが挙げられる。学生男性で「生涯童貞なのではないか。性行為が出来たとして、相手を満足させられるのかなど」、学生女子で「インターネットを隈なく探しても、正しい知識及び流れに関する情報は得られないから。自分だけが情報弱者なのかと疑いたくなる。」といった経験度や知識への不安など、プライベートな内容かつ人に聞きづらいこともある。加えて、性交不要群の人は「特に何もしていない」が 15 名(42.86%)と、非常に多かったことも要因である。

一方、仮説 6-3 が一部支持されなかった要因として、性交相手有群において、恋人に相談したり病院に行ったりすることで、不安解消に繋がる内容が多かったことが挙げられる。性交相手有群では避妊が確実にできているかどうかを不安に思う人が多く、1 人で解消するよりも、性交相手や専門家に相談したほうが良いと考えたのではないかと推測できる。

#### 6-1-7 仮説 7 の検証

仮説 7 の「性交のイメージには、プラス面からの意見より、『話しにくい』などのマイナス面からの意見が多い」について検証する。本研究の結果では、全体で見ると、相対的にマイナス面からの意見よりも、プラス面からの意見が多かった。したがって、仮説 7 は支持されなかった。

仮説 7 が支持されなかった要因として、遺伝子的に人間の本能として良い・必要な行為として認識されていることが挙げられる。また、性交に関して不安があったとしても、してみたいという気持ちや、していないとまずいという焦りが勝り、必然的に性交にプラスのイメージを付与していると考えられる。しかし、性別ごとに分析すると、女性はプラス面とマイナス面の数が拮抗している。そのため、一概にプラス面からの意見が多かったとは言い切れない。

## 6-1-8 仮説 8 の検証

仮説 8-1「避妊の捉え方は、性交の経験がない人にとって未知である」について検証する。本研究の結果では、性交経験がない人で「自分の持っている知識が正しいか分からない」といった意見は若干あったが、避妊法などについて何も分からないといったような意見は見受けられなかった。したがって、仮説 8-1 は支持されなかった。

仮説 8-1 が支持されなかった要因として、ほぼ全員、避妊の大切さは理解しているということが挙げられる。性交経験がない人でも、避妊は必要なことであり、すべきことであるという意見が非常に多かった。さらに、避妊の知識をどこから得ているかで「特になし」と回答した人も、避妊の捉え方では、学生男性で「やらなくちゃだめ」、学生女性で「相手の人生を変えてしまうかもしれないからきちんと話し合い対策すべきだな」と感じている」など、避妊についてほかの人と同じように捉えていた。しかし、避妊法が分からないことに関しては、記述しなかっただけということも考えられるため、一概に避妊について何も分からない若者がいないとは言い切れない。

仮説 8-2「恋人でなくても性交をしたい人はしたくない人よりも、避妊に関して軽く捉えている」について検証する。本研究の結果では、全体において避妊に関して軽く捉えている意見の人はほとんどいなかった。したがって、仮説 8-2 はおおむね支持されなかった。

仮説 8-2 がおおむね支持されなかった要因として、3 点が挙げられる。第 1 に、質問の文章に「自分自身は」の文言を目立つ字で記載しなかったことが挙げられる。一般的に避妊は大切だと認識しているが、自分自身のこととなると手間がかかることやムードの中断・快感の半減などがあるため、あまりしたくないと思っている人がいるかもしれない。これを調査対象者に間違いなく区別してもらうためにも、目立つ字で記載すべきであった。第 2 に、表面上では避妊をしないことのリスクを知っているということがあげられる。人づてやネットで避妊をしない性交のリスクに関する情報は入ってくるため、「避妊＝必ずすべきこと、したほうが身のため」というイメージは、若者の頭の中にあるのではないかと推測できる。第 3 に、恋人以外の相手と性交をしたい人としたくない人では、避妊の捉え方が変わらないからである。つまり、恋人以外の相手と性交したい人が性に自由奔放で、避妊をおざなりにしているのではないと考えることができる。

## 6-2 先行研究との比較による本研究の特徴

### 6-2-1 日本性教育協会（2019）との比較

日本性教育協会（2019）が 2017 年に行った「第 8 回 青少年の性行動全国調査」との比較を行う。この調査は中学生・高校生・大学生を対象としている一方、本研究では大学生などの学生・社会人も対象にしているため、年齢の分布に違いがある。

日本性教育協会（2019）と比較をした上での、本研究の特徴は 4 点ある。

第 1 に、恋愛対象となる性の分布が大きく異なったことである。日本性教育協会（2019）の大学生女子の恋愛対象は異性が 88.7%、同性が 0.2%、男性・女性どちらもが 5.9%であっ

たが、本研究の学生女性では異性が 66.49%、同性が 5.15%、男性・女性どちらもが 20.62%であった。また、日本性教育協会（2019）の大学生男子の恋愛対象で同性が 0.9%であったのに対し、本研究の学生男性では 4.17%であった。

本研究は、主に大正大学の授業と筆者の知人に調査依頼をしており、恋愛対象のバイアスがある集団に依頼をしたわけではない。分布が大きく異なった要因としては、6年前よりも社会的にセクシュアルマイノリティーへの理解が進み、公言しやすくなったことや、ジェンダーに関して学ぶ機会が多い大学生は、恋愛対象について深く考える機会があることなどが考えられる。

第2に、性知識の正誤問題の正答率が全体的に高かったことである。その中でも、ピル・不妊症・自覚症状の問題は正答率が特に高かった。日本性教育協会（2019）の大学生のデータと本研究の学生のデータを比較し、表 47 にまとめた。

表 47 性知識の正誤問題の正答率の変化

（2017 年は日本性教育協会、2023 年は本研究より引用）

性知識の正誤問題	男性		女性	
	2017年	2023年	2017年	2023年
ピル	39.90	67.71	41.80	57.73
不妊症	48.20	61.46	53.30	75.77
自覚症状	59.60	75.00	67.10	85.57

(%)

本研究において、性知識の正誤問題の正答率が高かった要因は、ピル、不妊症・自覚症状でそれぞれ挙げられる。まずピルの正誤問題において、第3章で述べたように近年急激に身近な存在になっていることが考えられる。次に、不妊症・自覚症状の性感染症に関する正誤問題において、近年若者の梅毒の感染者が急増したことが挙げられる（厚生労働省, 2012）。それに伴い、大学などが注意喚起を呼びかけることで若者も危機感を感じるようになったと推測できる。加えて、国立社会保障人工問題研究所（2021）が示しているように、出会い目的の SNS やマッチングアプリの台頭によって、相手のバックグラウンドをあまり知らない状態での性交がしやすくなったため、より感染症の情報に敏感になったとも考えられる。

第3に、ピル（経口避妊薬）の使用率が高かったことである。日本性教育協会（2019）でのピル（経口避妊薬）の使用率は、大学生の男子で 3.4%、女子で 7.6%であったのに対し、本研究では性交相手有群のうち、学生の男性で 33.33%、女性で 26.53%となった。

しかし、日本性教育協会（2019）と本研究のピル（経口避妊薬）の使用率はあくまで自己申告制であり、信頼性に疑問があるのは事実である。そのため、実際のピルの売上をみてみると、富士製薬工業株式会社（2022）の引用により、ピルの売上シート数の年次推移を作成した（図 3）。経口避妊薬の売上シート数は、2019 年が 509 万 6 千シート、2022 年が 681 万 1 千シートと大きな変化はなかった（富士製薬工業株式会社, 2022）。一方、保険適用で月経困難症などの薬として用いられる LEP という低用量ピル（経口避妊薬と同様の避妊効果あり）の売上シート数は、2019 年が 497 万 6 千シート、2022 年が 936 万 2 千シートと



増加していた。したがって、ピルを治療目的でも使用する人が増えていることが示唆された。本研究では、「ピル（経口避妊薬）」という表記で示したため、LEPを「ピル（経口避妊薬）」と捉えて回答した人がいることも推察される。

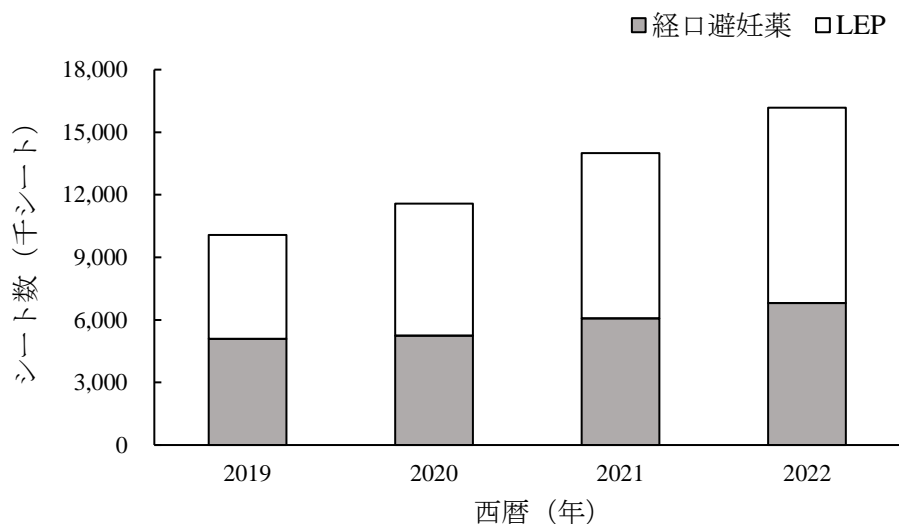


図3 ピルの売上シート数の年次推移（富士製薬工業株式会社の引用により作成）

使用率が高くなった要因として、第3章で述べたようなピルの変化があったこと、また、本研究では避妊方法を複数選択している人が多かったため、様々な避妊方法に興味関心があったことが考えられる。

第4に、避妊の知識をどこから得ているかに関して、「漫画/コミックス」・「インターネットやアプリ・SNSなど」を選ぶ割合が高かったことである。日本性教育協会（2019）の大学生のデータと本研究の学生のデータを比較し、表48にまとめた。

表48 避妊の知識源の割合の変化

（2017年は日本性教育協会、2023年は本研究より引用）

避妊の知識源	男性		女性	
	2017年	2023年	2017年	2023年
漫画/コミックス	8.30	16.67	12.00	25.91
インターネットやアプリ・SNSなど	40.30	65.63	33.80	66.84

(%)

選択した割合が高かった要因として、「漫画/コミックス」と「インターネットやアプリ・SNSなど」で1点ずつ挙げられる。まず、漫画/コミックスの要因として、自慰行為のアダルトマンガの使用率が高くなったことが挙げられる。TENGAヘルスケア公式サイト（2017）によると、男性で普段マスターベーション時にアダルトマンガを使用しているのは、世代別では10代が最も多く、年代が上がるにつれ使用率は下がることを示している。若い年代は、その上の年代よりもアダルトマンガをより使用しているということになるため、この傾向が女性も同様と捉えれば、必然的に本研究の若者はアダルトマンガから避妊の知識を得る

機会が多くなったと推測できる。次に、インターネットやアプリ・SNSなどの要因として、SNSを見る機会が増えたことが考えられる。特に、ショート動画を見ることができる「TikTok」は2018年のユーキャン新語・流行語大賞にノミネートされ、2023年現在も、タイムパフォーマンスを重視するZ世代の若者に非常に人気である（自由国民社, 2023）。つまり、2017年よりも、避妊の内容に限らず、インターネットやアプリ・SNSなどによりふれるようになったのではないか。

## 6-2-2 国立社会保障・人口問題研究所（2021）との比較

国立社会保障・人口問題研究所（2021）が行った「第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」との比較を行う。

この研究と比較した上での本研究の特徴は、恋愛に積極的な人が多いことである。国立社会保障・人口問題研究所（2021）での18～19歳において、交際相手をもたないのは7割であり、そのうち異性との交際を望んでいるのは男性で31.1%、女性で24.5%であった。平均年齢19.88歳( $SD = 1.49$ )の本研究の学生を比較対象にした場合、男女ともに交際相手がいないのは7割程度であるが、恋人と付き合いたい人は男性で58.33%、女性で44.33%と、本研究のほうが先行研究よりも、恋人と付き合いたい人が多かった。

その傾向がみられた要因として、2点が挙げられる。第1に、「異性との交際」から「恋人と付き合う」というように、本研究は相手の性別の制限をなくしているため、その分交際相手の範囲が広がったことが考えられる。第2に、調査を依頼した人に「若者の性の意識と現状について」というテーマで調査を行うことを伝えていたため、性と関連する恋愛に比較的兴趣や親近感のある人が回答してくれたのではないかという考え方もある。

## 6-3 自由記述に関する検討

### 6-3-1 恋人との性交希望の理由に関する検討

恋人と性交したい、または性交する理由・性交したいと思わない理由に関して検討する。

まず、恋人と性交したい、または性交する理由において、「好きな人とならしたいから」「愛情表現の1つだから」などの愛情系の意見がどの層においても最も多く、次に「性欲があるから」などの性欲系の意見も少なからずあった。つまり、男女・学生・社会人ともに、恋人と性交するときを求めるものは同じと考えることができる。さらに、愛情系として、学生男性は「したいというか、好きな人としなないことが考えられない。なぜかといわれると、、、なぜだろ?」と述べており、このことから、もはや好きな人との性交は当たり前であるという考えが汲み取れる。また特徴として、基本的に男女で分布の差はあまりないが、「相手が求めるから」という意見は女性にしかなかったことが挙げられる。恋人と性交する理由として、社会人女性は「相手が求めてくるため。相手の愛情表現だと思っている。」と述べており、1歩引いた目で恋人との性交を捉えていることがみてとれる。

次に、恋人と性交したいと思わない理由においては、性交に対して消極的な意見や妊娠や性感染症などのリスクを恐れる考えが多くみられた。また特徴として、「怖いから」という意見が学生女性にしかなかったことが挙げられる。日本性教育協会（2019）は、性に対するイメージの悪化は女子において顕著であると指摘しており、その傾向がみられたと推察される。

さらに、恋人との性交希望の理由を見ていくと、希望の有無に限らず、性交に対する個々のイメージに大きな差異があることが分かった。まず、性交をしたい理由として、社会人男性は「経験がないことがコンプレックスになっているから」と述べており、性交したいというより、していないことが悪いことという印象をもっていることがみてとれた。次に、性交をしたいと思わない理由において、学生男性は「そんな汚いこと結婚までしたくない」と婚前交渉に強い嫌悪感を示していた。一方、学生女性は「まだ怖いという気持ちが勝ってしまうから。」と「まだ」という言葉を使用していることから、いずれ怖くなくなるだろうという期待をもっていると考えられることもできる。つまり、恋人との性交希望の有無が、「性交」そのもののプラスイメージ・マイナスイメージとは必ずしも一致しないと言える。

### 6-3-2 恋人以外の相手との性交希望の理由に関する検討

恋人以外の相手と性交をしたい、またはしている理由・性交したいと思わない理由に関して検討する。

まず、恋人以外の相手と性交をしたい、またはしている理由において、男女差がみられ、男性は「性欲を満たすため」などの性欲系の意見がほかの項目と比べて非常に多かったが、女性は性欲系のほかに、「色んな経験をしたい・試したい」などの興味系、「承認欲求・幸福感が満たされる」などの精神的な意見が多くみられた。つまり、女性は男性よりも、恋人以外の性交相手に求めるものが多いと推測できる。また少数意見として、学生女性①は「その場のノリと勢いでしたいと思ったり、雰囲気流されてしたいと思ったりしてしまうから。」、学生女性②は「付き合えるとは限らないからそういう関係になってしまう」と述べていた。この文章から、恋人でない人と性交をして後悔している感情が読み取れる。加えて、興味系の中の「恋人でなくてもいいから」を述べた人の例を、表 49 に示した。性交を恋人とするものと捉えている上で恋人に限らないとしている人もいれば、性交は誰としてもいいと捉えている人もおり、考え方の多様性がみられた。

表 49 恋人以外性交希望あり理由の「恋人でなくてもいいから」の自由記述（原文ママ）

所属	性別	内容
学生	男性	付き合っていないなくても何か役に立つならしたい
学生	男性	“恋人だけがセックスの対象である”とは決して思わないから。
学生	女性	今現時点では誰でもいいと思っているから
学生	女性	心と体の相性は別の問題なので、それぞれで満足できる相手がいても良いと思うから
学生	女性	寧ろ恋人でない方が気軽にできるから
学生	女性	セックス自体は好きな人でなくてもできるから。
社会人	男性	特定の相手でなくてもいいと考えるため

次に、恋人以外の相手と性交したいと思わない理由において、多くの人が恋人以外の相手との性交自体に嫌悪感を抱いていることが示された。さらに、学生男性を除いて、性感染症や妊娠で責任を負うことに関するリスクを懸念する回答も多くみられた。学生女性は「私が思いを寄せてもいないし、自分のことを理解もしていない身勝手な人に身を預けたくないから。」と述べており、恋人以外の性交相手を「身勝手な人」と表現していることから、相手を信用していない前提がみてとれる。

さらに、恋人以外の相手との性交希望の理由の中で、恋人がいる前提かいない前提かで、希望有無、その行為の良し悪しが変わる可能性がある記述がいくつかあった。したがって、恋人の有無は、恋人以外の相手との性交の印象に大きな影響を及ぼすことが分かった。

### 6-3-3 恋人と避妊について話した内容に関する検討

恋人と避妊について話した内容に関して検討する。

話した内容において、コンドームに関しての話が最も多く、ピルに関しての話をしている人も少なくなかった。6-2 で述べたように、本研究はピル（経口避妊薬）の使用率が非常に高く、その傾向がこの話題でもみてとれた。

さらに、具体的な例を見ていく。まず、自身の経験を経て、避妊の必要性を感じて相手と話した例として、学生女性①は「(個人情報保護により非公開)」と述べていた。加えて、学生女性②は「(個人情報保護により非公開)」と述べており、相手の男性が想像か実体験かは分からないが、彼も避妊実施の意思をはっきり示していた。さらに、避妊しない場合のことを話している人もいた。学生女性③は「(個人情報保護により非公開)」と述べている。学生女性④は、(個人情報保護により非公開)。恋人ではない好きな人との子どもを産むことを容認しており、相手との関係性が確立していない状態で子どもをもつことに抵抗がない点で、筆者が非常に興味深く思った意見であった。

#### 6-3-4 性交をしたくないとき伝えられるかの理由に関する検討

性交したくないとき、それを相手に伝えられる理由・伝えられない理由に関して検討する。

まず、伝えられる理由において、男女ともに、相手との関係性についての意見・自分自身の考え方に関する意見が多くあった。具体的な意見として、絶対に伝える・伝えられるという、ある意味「強気」ともとれる意見がしばしば見受けられた。学生男性は「No のときはNo と言えるから。また、人生において一貫して子供が欲しくないので、相手（女性）がそれこそ危険日とかに誘ってきたとしたら、いくら避妊してても避けたいと思う。」、学生女性①は「断って嫌われても、また別なの探せばいいだけだからなんとも思わない。」と述べており、したくないことを伝えるにはそれくらいの心持ちが必要だと、筆者は考えさせられた。さらに、「どちらかといえば伝えられる」と回答した人の中で、学生女性②は「話しやすい関係性だから伝えられる。ただ月経以外のしたくない理由は伝えにくい。」、社会人女性は「相手の気分を損ねないか気になる一方で、伝えられない、が続けばいずれ終わりが来るから。」など、伝えられないときの懸念点が述べられていた。どんなときでも自分の意思が伝えられるわけではないことや、言えない関係ならそれまでだと割り切っている様子が見受けられた。

次に、伝えられない理由において、相手のためを思う意見が多くあり、「流されそうだから」「断るのが苦手」などの自分自身に関わる理由もみられた。「相手のため」の具体例としては、学生男性で「遠回しに相手のことが好きじゃないと言っているようで、傷つけたくないから」、社会人男性で「相手の気持ちを拒否することがその人そのものを拒否していると勘違いされるのではないかと自身が勘ぐるため。」、学生女性で「相手が悲しい顔をするから」などの意見があった。自分のことよりも相手の「性交をしたい」という気持ちを優先するという点で、自己犠牲の思いやりであり、性交をしたくないことを伝えられない相手とは対等な関係ではないことがうかがえた。

さらに、過去の経験を記述してくれた人もいた。学生女性は「(個人情報保護により非公開)」と述べており、拒んでも結局意図が伝わらないリアルな苦しさを読み取ることができた。

#### 6-3-5 避妊の知識が必要だと思うかの理由に関する検討

性交不要群にとって、避妊の知識が必要だと思う理由・必要だと思わない理由に関して検討する。

仮説 5 が支持されなかった要因で述べたように、性交をしないつもり性交不要群でもほとんどの人が避妊に関してなんとなく必要だと思っていることが分かった。自由記述では、主に自分のために知っておいたほうがいいという意見が多かった。少数意見として、学生女性は「女性性だから。私の意思と関係なく妊娠のリスクが降りかかることは有り得る。」と述べており、自分が女性だからこそリスクを回避しようとしている考えが示されていた。また、この自由記述に対し、長文で回答してくれた人がいた。そのうちの1人として、社会人男性は「(個人情報保護により非公開)」と述べており、自身の至らなさを重く受け止めて

いることが分かった。

一方、必要だと思わない理由として、学生女性で「今のところ性行為に興味がなく、する気がないから」など、性交不要群であれば道理の通った理由であった。

### 6-3-6 性交や避妊の不安内容に関する検討

性交や避妊に対して不安に思った内容に関して、検討する。全体としては、「避妊方法が確実であるか・正しい方法か」といった避妊の確実性に関わる不安が多く、性交希望群と性交不要群は、「経験がない、少ないこと」といった性交の経験度に関わる不安が多かった。

不安内容の具体例として、2点を取り上げる。第1に、社会人女性の「コンドームでの避妊は、男性に委ねられていて、失敗したとしても気づかないまたは自己申告しない恐れがあること」という内容である。コンドーム自体の避妊成功率が100%ではないことに加え、相手の男性への信頼を欠いた考え方であったため、相手との関係性は安心して性交をする上で非常に大切だと示された。第2に、学生女性の「(個人情報保護により非公開)」という内容である。妊娠検査薬を使うほど不安に思い、嫌気がさしたからピルを購入という流れが、筆者は非常にリアルに感じた。女性にとって妊娠の不安はかなり大きく、まだ日本ではコンドームのみの避妊方法が主流であることの危機感を感じるべきだと読み取れた。

また、避妊頻度が低い人が性交や避妊について不安に思った内容を、表50に示した。仮説6-1が支持されなかったように、性交相手有群において避妊頻度が低い人は避妊をいつもしている人よりも性交や避妊への不安がある人が少なかった。しかし、不安がある人のうち、避妊について不安に思った人は少なからずおり、実感を得てしていても、避妊をいつもするという方向に傾くのは難しいということが示された。

表 50 性交相手有群・避妊頻度が低い人の性交や避妊の不安内容の自由記述 (原文ママ)

所属	性別	内容
学生	男性	毎日ピルを飲んでいても妊娠してしまうかも知れない
学生	男性	事故があった時は焦ります。
学生	男性	確実な情報がわからないから
学生	女性	性病にかかるのではないかと不安になる
学生	女性	生理が遅れた時に本当に避妊できていたのか
学生	女性	生理が遅れる、コンドームでも避妊率が100%ではない。
学生	女性	コンドームが破れた時、生理が2週間遅れたとき
学生	女性	もしゴムをしなければ、中に出さなくても妊娠してしまうのか。 ピルを飲めば妊娠を防げるのか。

### 6-3-7 セックス (性交) のイメージに関する検討

調査対象者自身の、セックス (性交) のイメージに関して検討する。全体としては、仮説7の検証でも示したように、相対的にマイナス面からの意見よりも、プラス面からの意見が

多かった。加えて、誰と性交はするべきかについて回答している人が何人かおり、学生女性が「大人になってからするのは問題ないが、中学や高校生のうちは知識も浅いため危険。」と述べているように、大人がするものだというイメージをもっている人も少なくなかった。

また、セックス（性交）のイメージの特筆する意見として、2点取り上げる。

第1に、性のタブー視に関する意見である。学生男性の「暗黙の了解みたいに社会の表に出てこない」、学生女性の「漫画などにおいては愛する人への特別な行為というイメージ 現実としては子どもを作るための行為というイメージ、ただ公共の場では話題にするのに控える行為」という回答があった。性交のタブー視は、はどめ規定のある日本の性教育とも強く結びついている。もともと、人間の本能として、性交（繁殖行動）は無防備で敵に襲われる危険があるため、大っぴらにすることは恥ずかしいものとされてきていることだと言われている。しかし、暗黙の了解の空気があるために正しい知識を得られず、危機的状況に陥る人が大勢いるため、このイメージは払拭するべきものである。

第2に、性交に対して、周りからの影響で悪いイメージをもっている人の意見である。社会人女性①の「(個人情報保護により非公開)」、社会人女性②の「楽しめる人間が羨ましい。また、女性側にかかる負担、リスクが大きすぎる(平等性がない) ゆえに、男女間で意識の差が凄まじく、軽く論じる男性が多いことにとっても憤っている。」という回答があった。社会人女性①の意見からは、自分の身近にいた大人の影響を強く受けていることが見受けられ、社会人女性②の意見からは、「軽く論じる男性が多い」ことから、性交に対して悪いイメージがついていると推測できる。性交を肯定的に捉えるには、学校で行う性教育だけではなく、性交に対する周りの態度も大きく影響すると考えられる。

### 6-3-8 避妊の捉え方に関する検討

調査対象者自身の、避妊の捉え方に関して検討する。仮説8でも述べたように、避妊に関して何も分からない人や軽く捉えている人はほとんどいなかった。

具体的な避妊の捉え方の例として、3点を取り上げる。

第1に、学生男性の「生殖よりも愛情表現に傾いたときの行為」という回答である。性交と同じように相手に愛情を向けるための行為として捉えている人もいた。

第2に、学生女性①の「男性も女性も避妊するべきだと思う。また、ピルを飲んでいるからゴムをする必要はないという考えは間違っているし、無責任だとも思う。」という回答である。この自由記述回答において、避妊は誰がするべきかに関して回答した人が何名かいた。学生女性はそのうちの1人であり、内閣府(2005)で日本には男性が主体的に避妊を行うべきという考えがあったとされていたが、また異なった意見が見受けられた。

第3に、学生女性②の「(個人情報保護により非公開)」という回答である。長文で、日本の性教育やアフターピルの問題も盛り込んでおり、非常に関心が高いと思われる。また、自由記述において「意識や知識が必要・広めるべき・学ぶべき」について回答した人は20名(6.73%)もあり、学生女性②に限らず、若者の中で問題意識をもっている人が少なくないことが分かった。

### 6-3-9 性の悩みの内容に関する検討

性の悩みの内容に関して検討する。有効回答は60名であったが、自身の性に関するプライベートな内容を、かなり細かく記述してくれる人が多かった。

ここでは自身の性自認・性的指向に関する悩みの具体例を、表51に示した。まず性自認に関して、本研究では身体の性別が男性で性自認が女性、または身体の性別が女性で性自認が男性のいわゆるトランジェンダーの人はデータ上にはいなかった。しかし「その他」と回答した人が3,4%はおり、この自由記述を見ると、自身の心と体が一致していないことに違和感を覚えている人は少なからずいることが分かった。次に性的指向に関して、自身の悩みを相談できない、打ち明けられないなどの意見がしばしば見受けられた。朝日新聞(2023b)は性の多様性を意識した小学校の保健教科書を作成する社が目立ったと述べており、性的指向に関する理解は以前よりも進んだと言えるが、当事者の視点からはオープンになっているとは言い難い状況であることが分かった。

表51 自身の性自認・性的指向に関する悩みの自由記述

所属	性別	内容
<b>性自認に関して</b>		
学生	男性	時々女性への憧れが強まり、男性として生きている自分に微少な違和感を抱くことがある。
学生	男性	可愛くなりたいけど骨格がたくますぎて理想のかわいさには絶対に届かないこと 体は女性がよかった
学生	女性	肉体の性を変えるまでは望まないが、男女どちらともない意識で暮らしたいと思う
学生	女性	自分が男らしいことに惹かれる傾向があるが、女らしいことも興味があること。(中略) 誰にも好かれないのではないかと思って、おそらく望まれているのではないかということを試行錯誤してしまう。
<b>性的指向に関して</b>		
学生	男性	自分は果たして結婚できるのか、異性に対して恋愛感情を抱けるかという不安。
学生	女性	同性愛者であることをカミングアウトすることに抵抗を感じない時代が来るのかな、と度々考えた。
学生	女性	(個人情報保護により非公開)
学生	女性	自分の性的指向について理解してくれる人はいないのではないか
学生	女性	誰かを意識する時に「人として好き」なのか「恋愛対象として好き」なのか考えてしまう事があります。
学生	女性	性的志向がわからなくなっている
社会人	女性	アセクシュアルかもしれないが、気軽に相談できる相手がいらない。性的指向がある相手とお付き合いすることに抵抗を感じる。

さらに興味深い意見として、学生女性は「(個人情報保護により非公開)」と述べていた。取り上げている「CHOICE」というのは性教育 YouTuber のシオリーヌ(大貫 詩織)が書いた本であり、子どもや親向けに性に関する様々な話題を分かりやすく説明している(シオリーヌ(大貫 詩織), 2020)。このように、親世代でも子どもに性に関する知識を教えようとしない人もおり、その代わりとして本が知識源として用いられることもあるということが



分かった。

## 6-4 その他の特徴的な点

### 6-4-1 性知識の正誤問題に関する検討

性知識の正誤問題からみる本研究の特徴的な点について、2点を取り上げる。

第1に、ピルの正誤問題において、学生は男性のほうが女性よりも正答率が高いことが挙げられる。ピルは主に女性側が行う避妊法であり、社会人では女性のほうが男性よりも正答率が高いことも鑑みると、非常に違和感のある結果になった。要因として、男女によるピルに対する認識の違いがあることが考えられる。ピル(経口避妊薬)は避妊目的だけでなく、生理不順や月経痛といった女性特有の病気・症状の治療を目的としても使用することがある。女性では後者の印象が大きく、避妊法としての役割を十分に理解していない人が多いのではないかと考えられる。一方男性では、前者の「ピルは避妊ができるもの」というイメージで捉えている人が多く、そのほかの役割の理解が十分でないからこそ、この問題の正答率が高くなったとも想定できる。

第2に、膣外射精の正誤問題において、学生の正答率が低いことが挙げられる。本研究の膣外射精正誤問題の正答率は、学生男性が75.00%、学生女性が74.74%であった。「膣外射精(外出し)は、確実な避妊方法である」という、間違えて覚えていたら望まない妊娠に直結する問題を答えられなかった人が2割強いるという事実は、重く受け止めなければならない。

### 6-4-2 避妊方法に関する検討

避妊方法からみる本研究の特徴的な点として、性交相手有群の時々避妊において、膣外射精法を選択した人が12名(66.67%)もいたことが挙げられる。母数が少ない中ではあるが、常時避妊の人で膣外射精法を選択した人が8.11%であったことを考慮すると非常に多いと言える。この12名はほかの避妊方法(コンドーム、ピルなど)も選択しているため、実際の性交で膣外射精法だけを使用しているとは言えない。さらに仮説4-1が支持されなかったため、確実な避妊法だと思って膣外射精法を行っているわけではない。そのため、現時点では要因を推察することは難しい。

### 6-4-3 避妊しない理由に関する検討

避妊しない理由からみる本研究の特徴的な点について、2点を取り上げる。

第1に、「面倒くさいから」「避妊を言い出せないから」と答えた人が、性交希望群では両方とも0.00%であったのに対し、性交相手有群では前者が21.05%、後者が10.53%と、増え

ていたことが挙げられる。ここから言えることは、性交希望群にとって、実際の性交では想定していなかった状況になる可能性があるということである。性交相手がいない人は、自分が性交を今後する際に、妊娠の可能性を考えずに避妊をおざなりにしたり、相手との関係が対等でなかったりといったことを、あまり想定していないのではないか。第5章の6-1-2でも述べたように、現実と理想の違いは避妊をしない理由にも関わってきていると言える。

第2に、学生女性1名が「妊娠しても中絶すればよいと思うから」と回答したことが挙げられる。第4章で述べたように、望まない妊娠をした際、中絶を人生における大切な選択だとすることは大事であるが、それ以前に、中絶はかなりの身体的・経済的・精神的な負担をかける。そのため、中絶すればよいという考えはあまりにも残酷であり、それを当事者になりうる女性が選択していることは、非常に問題である。

## 第6章 総合考察

### 1. 総合考察

#### 1-1 若者の性交と避妊に関する意識と実態

本研究の結果から、以下の4点の特徴がみられた。

第1に、避妊に対する認識と行動にギャップがあることが挙げられる。まず、本研究の結果から、性交をするかしないかに限らず、ほとんどの人が避妊の知識は必要で、性交をする上で非常に重要なことだと認識していることが分かった。中には、自身に知識がないことや、性教育が進んでいないことに問題意識をもっている人もいた。しかし実際は、避妊に関して間違った知識をもっている人、妊娠の可能性を軽んじて避妊をしない人、さらには避妊をしていないのに不安を感じない人もおり、確実な避妊行動を行っているとは言い難い状況であった。自分や周りの人生に関わる内容であるにも関わらず、「頭では分かっているけれど、行動に移せない」という人が少なくなかった。

第2に、性交経験の有無や性交状況で、知識や行動に差がみられることが挙げられる。まず、性交経験がある人や性交相手・恋人がいる人のほうが、そうでない人よりも性に関する知識があった。言い方を変えると、性に関してはリアリティがないと知識が得にくいということが明らかになった。しかし、現在性交相手がない人が想定している避妊頻度よりも、性交相手がいる人の実際の避妊頻度のほうが低いなど、理想と現実には差があることも分かった。当事者意識をもつことが性教育には必要であり、実際に当事者になるとまた別の問題も出てくることが示された。

第3に、性交に対するイメージは様々であることが挙げられる。近年では性行動の不活発化がみられているが、性交自体はプラス面にもマイナス面にも捉えていることが分かった。さらに、恋人以外の相手と性交したいと思う人もおり、その理由や性に関する知識などの点から、その人たちは不真面目で性に奔放であると一概には言い切れないことが明らかになった。性に関して日本ではタブー視されているからこそ、一律に全員が同じイメージをもっているのではなく、自身の考えや周りの環境がその視点に大きな影響をもたらすと言える。

第4に、ピルに関して大きな変化がみられたことが挙げられる。本研究の若者のピルの使用率は約3割となり、性交相手とピルについて話す人もいた。性交にあたってのリスクが男性より女性のほうが大きいことには変わりはないが、ピルの普及は男女ともに自分の身を守って責任をもつことができるようになる兆しの現れである。その点では近年の良い傾向であると言える。

#### 1-2 若者への性教育のあり方の検討

性教育に関して、大前提として、なるべく早く、具体的には小学生くらいの頃からの学校教育や家庭での教育を行うことが望ましい。小さい頃から教育を行えば、実際に性行動を行う前から正しい知識が身についた状態になり、避妊が当たり前という共通認識ができるか

らである。学校での性教育においては、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」で求められている「包括的性教育」を基盤にすることが有効だとされている（プラン・ユースグループ, 2021）。家庭教育においては、子どもの性にまつわる考えや行動に影響を及ぼすのは、親の性的態度・家庭環境・親子関係であるため、性教育を行う前に親が自らと家庭の環境を見直すことが必要であるという（森本ら, 2019）。しかし、以上の内容は大人になった若者に対しては既に遅く、実施することができないため、また別の形で「若者のための性教育」を行う必要がある。

本研究の調査で得られたことを踏まえた上で考えられる、若者への有効な性教育のあり方は「できる限りリアルに、具体的に伝えること」である。本研究では、「避妊はしなくちゃいけないこと」という意識はあるものの、実際に行動に移すことができず、当事者意識がないと知識も得られないということが明らかになった。また、日本性教育協会（2019）によると、高校生よりも大学生のほうが今まで学校教育で教わったことがらが役に立たないと思っている人が多いことが示されている。日本財団（2021）は、全国の17～19歳の男女に、学校の性教育についてどう感じたか調査したところ、「抽象度が高いと思う」という人が65.6%と非常に多いことが示された。第5章の6-1-4で述べたように、性交を初めて経験する人が多いのは大学進学の際の18～19歳のタイミングであり、その時期に知識を現実の行動に生かせる性教育をすることが必要である（日本性教育協会, 2019）。

具体的な性教育の方法として挙げられるのは、主に2点ある。

第1に、性に関するショートドラマをSNSで流すことである。TikTokやInstagramなどのSNSは現代の若者がよく利用し、属性や性交状況に関わらず多くの人が目にする媒体である。若者向けには、動画を短くすることで最後まで見てもらい、目に留まるような内容にする必要がある。また、「パートナーとの性交を断る言い方」や「実際に妊娠してしまった人の辛さ」などを実際にありそうなシチュエーションのショートドラマで教えることで、自分ももしかしたらこうなるかもしれないと、当事者意識をもたせることができると考えられる。

第2に、ポスターで呼びかけることである。主に、若者が多い大学などの施設で貼りだす形になるだろう。性に関する内容を見かける場があることで、若者全員が少しでも性教育は身近な存在であることと認識でき、自ら学ぶ人も増えるのではないだろうか。

では、若者に対して具体的に教える内容を、順に4点挙げる。

第1に、「セックスはネットで見るとは別物で、相手への愛情表現の意味も含まれる」と伝えることである。今の日本では、性交は具体的にどのようなものなのかを、はじめ規定によって子どもたちには教えられない。そのため、子どもたちは各自ネットや人づてで、エンタメとしてのセックスを知るため、避妊に対しても詳しく知らないままになってしまう（日本性教育協会, 2019）。性欲に支配されすぎず、愛をもって自分と相手のために避妊はするのが当たり前だと示すには、まずセックスのイメージをエンタメから切り離さなければならないと考えた。例えば、アダルト動画や漫画の世界でコンドームをつけるシーンがないのはファンタジーだからであり、リアルではつけないと危険であるということを伝えるべきである。さらに、「避妊に協力してくれない人は、自分を愛していないし、守ってくれない人だから離れていい」ということも、加えて伝えたらよいだろう。

第2に、性交は誰でもする可能性があることを具体的に伝えることである。なんとなく避

妊が当たり前なのだと分かっても、現在は恋人がいない・性交するつもりがないなどの当事者意識がない人には、具体的な避妊法や不安などの対処法は頭に入らない可能性がある。そのため、性犯罪に実際巻き込まれそうになった人や、犯罪でなくても性交に対して不安になった人の例などを挙げ、リアルに自分の身に起こるかもしれないということを念頭に置いてもらう必要がある。その状態で内容に入っていたほうが、意味のある教育になるだろう。

第3に、避妊をしないと具体的にどうなるかを伝えることである。学校での性教育は避妊方法とその必要性を表面的に教えた状態であったため、本研究では、なんとなく頭では分かっているが「そこまでしなくても大丈夫だろう」と危機感がない故、行動に移さなかった人もいることが分かった。そのため、避妊をしなかった場合の危険性を教えることも必要だと考える。まず、確実な避妊方法ではない場合の避妊成功率を示す。例えば、膣外射精法は81%であることなど、仮に成功してもそれは運がよかっただけであり、本当に危険な行為をしているということを分からせなければならない。次に、避妊は男性のためでも、女性のためでもあることを示す。望まない妊娠しても男性のお腹に子どもができるわけではないため、男性は女性よりもリスクを軽く捉えている。しかし、仮に相手の女性との連絡を絶っても、この情報化社会で逃げ切ることはほぼ不可能であり、自身の世間体にも関わる。加えて、責任から逃れたことを一生後悔して生きることもなるため、男性にもリスクはあることを伝えるべきである。次に、中絶を実際にした人の声を伝える。最悪の事態では人生において大切な選択になることは伝えた上で、中絶はどんな感情でどんな負担があるのかということをも具体的に伝えることが必要であると同時に、学校の性教育は中絶について習う機会はほとんどないため、新鮮に感じるのではないだろうか。「では中絶を防ぐためにどうすればいいのか」という流れで、正しい避妊方法を教えれば効果的だろう。

第4に、「セックスをする相手への思いやり・その相手との対等な関係とは何か」を伝えることである。本研究において、性交自体に恐怖を感じる人、性交自体があまり好きではない人がいること、性交したくないときに、相手のことを思って伝えられない人がいることが明らかになった。性交をしたくない人がいるのは当然であり、仮にいつもはしたいと思っている人でも、性交をしたくないタイミングも少なからずある。そのようなときに、相手にしっかり自分の意思を伝えられることが、避妊をするハードルを下げる要因になりうると考える。再現ドラマのようにその場の状況を描き、断ることが相手自身を否定することにはならないことや自分の意思ははっきりし、その上で相手も尊重することが大事だと伝えると良いだろう。また、仮に避妊に失敗してしまった場合も、嘘なく相手に伝えることが真の思いやりであることも加えて伝えるべきである。

以上が、筆者が調査を踏まえて考えた、若者への性教育のあり方である。本研究では、確実な避妊をすること・望まない妊娠を防ぐことに焦点を当てた教育を考案した。今野(2003)によると、日本においては中絶に限らず「予定外の妊娠によって生まれた子ども」も多いという。人生の最初から歓迎されることなく生まれたこのような子どもは、自己肯定感が低くなることも考えられ、最悪、親からの虐待などにも繋がりやすい。確実な避妊をすることは、人間のより良い生き方と社会のためにも重要な行動になっているのである。

また避妊のほかにも、性に関して伝えなければいけない内容は多くある。実際、若者は性に関する悩みを抱えており、中には相談できずに不安になっている人もいる。現代の日本では子どもの頃からの性教育が十分でないという点から、若者向けの教育に目を向けること

も必要であり、苦しむ人が少しでも減るよう、本当に意味のある性教育を実施するべきであると強く訴える。

## 2. 今後の課題と展望

本研究の課題として、以下の2点が挙げられる。

第1に、恋人以外の相手との性交希望に関して、そのときに恋人がいるかいないかの前提で希望の有無が変化することを念頭に置かなかったことである。恋人以外の相手との性交に関しては先行研究が少なく、独自の質問項目として作成した。回答には「恋人がいない場合に限り」や「付き合っている相手を裏切る」といった意見が多く、恋人の有無の前提を設定しなかったため、ばらばらの条件での回答になってしまった。恋人がいる場合といない場合というように、条件を分けて質問をするべきであった。

第2に、調査対象者の属性に偏りがあったことである。本研究では341名中、学生男性96名(28.15%)、学生女性194名(56.89%)、社会人男性(6.16%)、社会人女性30名(8.80%)と、学生が多く、特に女性が半分以上も占めていた。主にこの4つの属性で分析を行うことが多かったが、特に社会人は母数が少なく、一般的な全体像として捉えてもいいとは言い切れないデータとなってしまった。

本研究の今後の展望として、以下の3点が挙げられる。

第1に、現在、性交をしている若者へのインタビュー調査をすることである。本研究では自由記述を多めにした質問紙調査を行ったが、文面だけではニュアンスを汲み取ることが難しい意見がいくつかあった。また、性交をしている人は避妊をどのように捉えていて、実際パートナーとどのような流れで避妊を行うことになったのか、反対に避妊を行わないことになったのかを聞き、よりリアルな現状を明らかにしたい。

第2に、性交のイメージ・避妊の捉え方に関して、選択回答式にして質問紙調査をすることである。本研究ではこの2点は完全に自由記述式としたため、表面的に感じていることを書いてもらうことはできたが、その場では思いつかなかったが実は感じていることに関して詳しく知ることはできなかった。そのため、本研究で得られたデータを参考に選択肢を作成し、積極的・消極的の両面から若者の思うイメージを捉えたい。

第3に、現代の若者の親世代に性交や避妊に関する質問紙調査をすることである。性に対するイメージは周りの環境が関わっており、特に親は子どもの頃から深い接点をもっている。本研究は若者を対象に行ったが、次は親世代を対象に、性に対してどのように捉えており、どれほど子どもに伝えているのかを調査し、それを踏まえて親向けの性教育のあり方を考えたい。

## 3. 結論

現在、日本の性教育ははじめて規定により教えられることが制限され、子どもの頃に実用的な知識を得にくい状況にある。この性教育の遅れは世界全体で捉えるとより明確で、日本の

大学生で避妊を時々・いつもしていない人は全体の約 4 分の 1 であり、十分な教育が得られなかった結果が出ていると言える（日本性教育協会, 2019）。

本研究では、現代の若者の性交と避妊に対する意識と行動の実態を明らかにすべく、自由記述中心の質問紙調査を実施した。また、その結果・考察から、若者の望まない妊娠を防ぐため、若者へどのような教育をしたらよいかを考案した。

本研究の結果から得られた考察としては、避妊の必要性は分かっているながらも行動に移すことができていない人がいることなど、若者の避妊に対する認識と行動にギャップがあることが挙げられた。また、性に関してはリアリティがないと知識が得にくいことなど、性交経験の有無や性交状況で知識や行動に差があることも明らかになった。

これらを踏まえて、若者に向けた性教育のあり方を「できる限りリアルに、具体的に伝えること」を軸に、詳しく検討した。まず性教育の方法においては、性に関するショートドラマを SNS で流して「自分もこうなるかも」というような当事者意識をもたせたり、ポスターを用いて性教育を身近な存在になるようにしたりすることを考案した。さらに、内容においては、セックスはエロとは別物であること、誰にでも性交をする可能性があること、避妊しなかった場合どうなるかなどを順に伝えることが必要だと考えた。さらに、自身と性交する相手との対等な関係性も大切だと伝えることも効果的だろう。

本研究は性交と避妊に注目したが、それらに限らず性に関して悩んだり苦しんだりする若者を少しでも減らすため、知識だけで終わらない、行動に繋がっていける性教育が早急に求められている。

## おわりに

まず、本研究をするにあたって回答して下さった皆様、回答を検討して下さった皆様、本当にありがとうございました。「心理学の基礎」のテスト終わりに回答してくれた1年生の方々、人間科学科の職員さん、18~29歳で私のLINE友だちになっている279名の皆様、部活・サークル・アルバイトのLINEグループの皆様、私の知人の知人の皆様、あまりにも答えにくい内容で、突然なんだこいつ…と思われた方もいると思いますが、沢山の方にご協力いただけたこと、本当に感謝しています。改めて、プライバシーは必ず守ることをお約束します。また、多くのアドバイスをくださった薬剤師の田野尻先生、私の研究を支えてくださった方々、私のパソコンが壊れた時に貸してくれた方々、そして長谷川先生、本当にありがとうございました。お陰で卒業できます！多分！

まさか自分が、卒論でセックスに関する研究テーマを選ぶなんて、思ってもみなかったです。実際、複数人から「長田がこの研究をするのが意外…」と言われました。

最初は、正直このテーマを選ぶことに抵抗がありました。周りは引かないだろうか、変な目で見ないだろうか、私に嫌悪感を抱く人もいるだろうと思いました。

でも本当に興味のあることだったので、卒論のテーマが決まってからはどんなに追い込まれてもずっと楽しかったです。研究を進める中で、確実な避妊を行わないことの代償は大きすぎることを知り、未来ある若者の人生を狂わせてほしくない、悲しい思いをさせたくないと思いました。現状、避妊をしない人は少なくないし、不安に思ったことがある人も沢山いることが分かりました。改めて子どもの頃からの性教育の大切さに気づき、学校教育では間に合わなかった若者にも新しい形で性教育を行う必要性を示せたと思います。かなうならば、この卒論を文部科学省のお偉いさんやインフルエンサーの方に読んでもらって、今後の性教育に繋げてほしいです…！！

また、卒論を口実に、先輩・友人・後輩・家族・親戚など色々な方の性に関する意見を聞きました。童貞の方のYouTubeチャンネルの動画を何本も見ました。先行研究を探していたらアダルトサイトに繋がったこともあります。もちろん、質問紙調査の結果から得られたことも大きく、発見の連続で、全てが良い思い出です。性に関してこんなに周りを巻き込んで深く考えることは、もう一生ないと思います。勇気を出して、やってよかったです。

今回、341名分の回答を分析し、大量の自由記述も全部読んで、本当に内容が濃くなりました。トータル5.5万字は超えています。充実した大正大学生生活の締めとして、この卒業論文ができたことに大満足です。宝物にします。関わってくださった全ての皆様、ありがとうございました。



## 引用文献

- 朝日新聞 (2001). セックスをどこまで教える? 学校「性教育元年」から10年の実態 11月5日週刊アエラ
- 朝日新聞 (2023a). 「性交」を教えられる環境を 障壁となる「はどめ規定」 1月30日週刊アエラ
- 朝日新聞 (2023b). デジタルやジェンダー、広く深く 来春からの小学校教科書、検定結果 3月29日朝刊
- 朝日新聞デジタル (2020). 中絶の実態 「胎児に申し訳ない」 受ける女性の思い <<https://www.asahi.com/articles/ASN5G4TGNN5BUBQU001.html>> (2023年11月13日閲覧)
- 富士製薬工業株式会社 (2022). 2022年9月期決算説明会 <[https://www.fujipharma.jp/\\_upload/59d7ff95ac649ca78fe60324b0f8f85fead2a19d.pdf](https://www.fujipharma.jp/_upload/59d7ff95ac649ca78fe60324b0f8f85fead2a19d.pdf)> (2023年12月4日閲覧)
- 針原 素子 (2018). 「性に対する否定的イメージの増加とその背景」 林 雄亮 (編) 青少年の性行動はどう変わってきたか—全国調査にみる40年間 ミネルヴァ書房 pp.104-132.
- 橋本 紀子・池谷 壽夫・田代 美江子 (2018). 教科書に見る世界の性教育 かもがわ出版
- 林 謙治 (1986). 性教育の歴史と将来の展望 学校保健研究, 28, 52-56.
- HealthDay (2007). 中絶件数が世界的に減少 (2007.11.19 掲載) <<https://healthdayjapan.com/2007/11/20/970/>> (2023年11月13日閲覧)
- 今野 洋子 (2003). 大学生の避妊に対する意識・行動に関する報告—A 大学の学生を対象とした研究報告— 日本福祉研究, 6, 101-116.
- 自由国民社 (2023). 「現代用語の基礎知識」選 ユーキャン 新語・流行語大賞 第35回 2018年 受賞語 <<https://www.jiyu.co.jp/singo/index.php?eid=00035>> (2023年11月19日閲覧)
- 吉祥女子中学・高等学校 (2018). NHK「ハートネット TV」の取材がありました <<https://www.kichijo-joshi.jp/nhk/%e3%80%8c%e3%83%8f%e3%83%bc%e3%83%88%e3%83%8d%e3%83%83%88tv%e3%80%8d%e3%81%ae%e5%8f%96%e6%9d%90%e3%81%8c%e3%81%82%e3%82%8a%e3%81%be%e3%81%97%e3%81%9f/>> (2023年11月9日閲覧)
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2021). 第16回出生動向基本調査 (結婚と出産に関する全国調査) <[https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/doukou16\\_gaiyo.asp](https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/doukou16_gaiyo.asp)> (2023年11月1日閲覧)
- 高坂 康雅 (2013). 青年期における“恋人を欲しいと思わない”理由と自我発達との関連 発達心理学研究, 24, 284-294.
- 厚生労働省 (2012). 性感染症 <[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html)> (2023年11月18日閲覧)
- 厚生労働省 (2021). 令和2年度の人工妊娠中絶数の状況について <[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_18838.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18838.html)> (2023年5月24日閲覧)
- 厚生労働省エイズ動向委員会 (2022). 令和4(2022)年エイズ発生動向 一概要— <<https://api-net.jfap.or.jp/status/japan/data/2022/nenpo/r04gaiyo.pdf>> (2023年10月30日閲覧)
- 毎日新聞 (2023). 緊急避妊薬：緊急避妊薬、試験販売 今夏、一部薬局で 厚労省会議了承 6月27日東京朝刊

- メデリ株式会社 (2022). メデリ株式会社公式ホームページ <<https://www.mederi.jp/company/>> (2023年11月11日閲覧)
- 文部科学省 (2017). 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編 pp.206-228
- 文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 保健体育編 体育編 pp.197-216
- 森本 眞寿代・前原 宏美・佐藤 繭子 (2019). わが国の過程で親が行う性教育に関する研究の動向—看護関連の文献のエビデンスレベル— 日本看護研究学会雑誌, 42, 231-240.
- 内閣府 (2005). 平成17年度 少子化社会に関する国際意識調査 <[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa17/kokusai/pdf/k\\_6.pdf](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa17/kokusai/pdf/k_6.pdf)> (2023年4月11日閲覧)
- 内閣府 (2019). 令和元年度版 子供・若者白書 特集1 日本の若者意識の現状—国際比較からみえてくるもの— <[https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01honpen/s0\\_1.html](https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01honpen/s0_1.html)> (2023年9月13日閲覧)
- NHK (2018). 世界をヒントに考える これからの性教育① ヨーロッパ編 <<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/51/>> (2023年11月10日閲覧)
- NHK (2021). 「Z世代は何を求めどこへ行くのか」(視点・論点) <<https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/450286.html>> (2023年10月31日閲覧)
- NHK (2022). 「合計特殊出生率」去年は1.30 6年連続で前年を下回る <<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220603/k10013655791000.html>> (2023年5月24日閲覧)
- 日本家族計画協会 (2017). 男女の生活と意識に関する調査報告書 日本家族計画協会
- 日本性教育協会 (2019). 「若者の性」白書 一第8回 青少年の性行動全国調査報告— 小学館
- 日本 WHO 協会 (2023). 家族計画・避妊方法 <[https://japan-who.or.jp/factsheets/factsheets\\_type/family-planning-contraception/](https://japan-who.or.jp/factsheets/factsheets_type/family-planning-contraception/)> (2023年11月11日閲覧)
- 日本財団 (2021). 18歳意識調査「第39回 —性行為—」要約版 <[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/07/new\\_pr\\_20210728\\_1.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/07/new_pr_20210728_1.pdf)> (2023年11月23日閲覧)
- 西岡 笑子 (2018). わが国の性教育の歴史の変遷とリプロダクティブヘルス/ライツ 日本衛生学会, 73, 178-184.
- 野崎 泰伸 (2012). 中絶の規範理論のために 胎児の権利と女性の権利との対立を超えて 現代生命哲学研究, 1, 11-24.
- プラン・ユースグループ (2021). ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書 —包括的性教育を目指して— <[https://www.plan-international.jp/youth/pdf/0630\\_Youth\\_Report\\_01.pdf](https://www.plan-international.jp/youth/pdf/0630_Youth_Report_01.pdf)> (2023年11月17日閲覧)
- 関口 久志 (2021). 性の"幸せ"ガイド : 若者たちのリアルストーリー = Happiness guide of sexuality エイデル研究所
- シオリーヌ (大貫 詩織) (2020). CHOICE 自分で選ぶための「性」の知識 イースト・プレス
- 反橋 一憲 (2018). 「恥ずかしさ」に着目した性教育の課題—保健体育科教員へのインタビューデータを用いた探索的考察— 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊, 26, 81-91.
- TENGA ヘルスケア公式サイト (2017). オナニー国勢調査 全国男性自慰行為調査

<<https://tengahealthcare.com/special/report/>> (2023年11月19日閲覧)

上田 基 (2008). 命のたいせつさを学ぶ性教育 ミネルヴァ書房

山口 孝子・小笠原 昭彦・堀田 法子 (2007). 大学生の避妊に対する態度と行動とのずれに関する検討 小児保健研究, 66, 83-91.

安田 裕子・荒川 歩・高田 沙織・木戸 彩恵・サトウ タツヤ (2008). 未婚の若年女性の中絶経験—現実的制約と関係性の中で変化する, 多様な径路に着目して— 質的心理学研究, 7, 181-203.

読売新聞 (2022). 家庭の性暴力 声出せぬ子ども 加害の祖父に実刑判決 意思表示導く教育必要 11月17日東京朝刊

## 若者の性の意識と現状について

この度、「若者の性の意識と現状について」というテーマで研究を行うことになりました。そこで、研究に必要なデータを収集するために、18～29歳の若者（高校生・既婚者を除く）を対象にWEB上での質問紙調査を実施しています。

回答では個人が特定される情報を収集しないため、匿名性が保たれます。調査内容については秘密を厳守いたしますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。ご回答いただいたデータは、卒業論文の執筆など、研究活動のみに使用するため、プライバシーは必ず守られることをお約束いたします。

お忙しいと存じますが、以上の調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

大正大学 心理社会学部 人間科学科 長谷川ゼミナール 4年  
長田 のぞみ

### セクション 1

回答していただく前に

- この調査では、あなたの考え方、現在の状況などについてお伺いします。非常にプライベートな内容（性交や避妊の現状など）をお聞きするため、答えたくないと感じた場合は回答をやめて構いません。
- 回答に正しい答え・間違った答え・良い答え・悪い答えは一切ありません。思ったままのことをお答えください。
- 同一人物の重複回答がないか、調査者が確認するために、「個人識別番号」として、4ケタの数字を入力していただきます。記憶できる数字にしてください。「7777」「1111」「1234」など、単純な数字の羅列は避けていただきますよう、お願いいたします。
- 本研究では**18～29歳の若者（高校生・既婚者を除く）**を対象に調査を実施します。
- 質問の中には、**赤字**で書いてある文章がございます。その文章は特にしっかりと読みいただいた上でご回答ください。

1. あなたは、現在結婚していますか。 \*

- 未婚
- 結婚している（事実婚を含む）
- 離婚・または死別し、現在は独身（事実婚解消を含む）

2. あなたは高校生ですか。 \*

- はい
- いいえ

3. あなたは18～29歳ですか。 \*

- はい
- いいえ

4. あなたの年齢を記入してください。 \*

18 から 29 の間の数値を指定する必要があります

5. あなたが居住している都道府県を記入してください。\* ...

回答を入力してください

---

6. あなたの所属を選択してください。\* ...

- 大学
- 短期大学
- 専門学校
- 大学院
- 会社員（正社員）
- 会社員（派遣・契約社員）
- 公務員
- 自営業
- パート・アルバイト
- 無職
- その他  
\_\_\_\_\_

7. 大学の種類を選択してください。\* ...

- 大正大学
- 大正大学以外の私立大学
- 国公立大学
- その他  
\_\_\_\_\_

8. 大学での学年を選択してください。\* ...

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年
- その他  
\_\_\_\_\_

9. 短期大学での学年を選択してください。 \* ...

- 1年
- 2年
- 3年
- その他  
\_\_\_\_\_

10. 専門学校での学年を選択してください。 \* ...

- 1年
- 2年
- その他  
\_\_\_\_\_

11. 大学院での学年を選択してください。 \* ...

- 修士課程1年
- 修士課程2年
- 博士課程1年
- 博士課程2年
- 博士課程3年
- その他  
\_\_\_\_\_

12. 次に、あなたの個人識別番号となるものを入力してください(※4ケタ半角入力：「個人識別番号」の意味は、説明欄の「回答していただく前に」の3に記載しています)。

**※システムの関係上、3桁の扱いになってしまうため、数字の1桁目に0を入れないようにしてください(0118など)。** \*

1000 から 9999 の間の数値を指定する必要があります

セクション 2 ...

## 1. 性に関する知識について

性に関する知識についてうかがいます。次の内容は正しいと思いますか、間違っていると思いますか。当てはまるものを1つ選択してください(回答ができない際は、「分からない」「文章の意味が分からない」から当てはまるものを選択してください)。

13. 膣外射精(外出し)は、確実な避妊の方法である \* ...

- 正しい
- 間違っている
- 分からない
- 文章の意味が分からない

14. 排卵は、いつも月経中に起こる \* ...
- 正しい
  - 間違っている
  - 分からない
  - 文章の意味が分からない
15. 精液が溜まりすぎると、身体に悪い影響がある \* ...
- 正しい
  - 間違っている
  - 分からない
  - 文章の意味が分からない
16. クラミジアや淋病などの性感染症を治療しないと、不妊症になる（赤ちゃんができなくなる）ことがある \* ...
- 正しい
  - 間違っている
  - 分からない
  - 文章の意味が分からない
17. 日本ではこの10年間、新たにHIVに感染する人とエイズ患者は減少し続けている \* ...
- 正しい
  - 間違っている
  - 分からない
  - 文章の意味が分からない
18. ピル（経口避妊薬）の避妊成功率はきわめて高い \* ...
- 正しい
  - 間違っている
  - 分からない
  - 文章の意味が分からない
19. 性感染症にかかると、必ず自覚症状が出る \* ...
- 正しい
  - 間違っている
  - 分からない
  - 文章の意味が分からない

## セクション

20. **避妊の知識**をどこから得ていますか。あてはまるもの全てを選択してください。\*

...

- 親
- きょうだい
- 友人や先輩・後輩
- 恋人
- 学校（先生、授業や教科書）
- 漫画/コミックス
- 一般雑誌
- ポルノ雑誌（H雑誌）
- アダルト動画（DVDやネットなど）
- インターネットやアプリ・SNSなど
- 特にない
- その他  
\_\_\_\_\_

## 2. あなた自身について

21. あなたの**身体の性別**を教えてください。\*

...

- 男性
- 女性
- その他  
\_\_\_\_\_

22. あなたの**性自認（自分がどの性だと思っているか）**を教えてください。\*

...

- 男性
- 女性
- その他  
\_\_\_\_\_

23. あなたの**恋愛の対象**は、次のうちどれにあてはまると思いますか。\*

...

- 男性
- 女性
- 男性・女性どちらも
- その他  
\_\_\_\_\_



24. あなたは、今までにセックス（性交）の経験がありますか。\* ...
- ある
- ない
- 答えたくない
25. あなたは、現在付き合っている恋人がいますか。\* ...
- いる
- いないので、恋人と付き合いたい
- いないし、恋人と付き合いたくない
26. あなたは、現在その恋人と同棲していますか。\* ...
- 同棲している
- 同棲していない
27. あなたは、その恋人とセックス（性交）をしていますか。\* ...
- している
- していない
28. あなたが、その恋人とセックス（性交）をするのはなぜですか。答えたくない場合は、「答えたくない」と ...  
\*  
ご記入ください。\*
- 回答を入力してください
- 
29. あなたは、その恋人とセックス（性交）をしたいと思いますか。\* ...
- したいと思う
- したいと思わない
30. (直前の質問の回答について) ...  
それはなぜですか。(例：好きな人とならセックスしたいから等)  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\*
- 回答を入力してください
- 
31. (直前の質問の回答について) ...  
それはなぜですか。(例：妊娠の可能性があるから等)  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\*
- 回答を入力してください
- 
32. **仮に、現在あなたに付き合っている恋人がいる場合、**あなたは相手とセックス（性交）をしたいと思いま ...  
\*  
か。\*
- したいと思う
- したいと思わない

33. (直前の質問の回答について) ...  
それはなぜですか。(例:好きな人とならセックスしたいから等)  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\*  
回答を入力してください
34. (直前の質問の回答について) ...  
それはなぜですか。(例:妊娠の可能性があるから等)  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\*  
回答を入力してください
35. あなたは、現在付き合っている恋人以外でセックス(性交)をする相手がいますか。\* ...  
 いる  
 いない
36. あなたは、現在付き合っている恋人以外でセックス(性交)をする相手がいますか。\* ...  
 いる  
 いない
37. あなたは、現在付き合っている恋人でセックス(性交)をする相手がいますか。\* ...  
 いる  
 いない
38. あなたは、現在付き合っている恋人以外でセックス(性交)をする相手がいますか。\* ...  
 いる  
 いない
39. あなたは、現在付き合っている恋人以外でセックス(性交)をする相手がいますか。\* ...  
 いる  
 いない
40. あなたは、現在付き合っている恋人以外でセックス(性交)をする相手がいますか。\* ...  
 いる  
 いない
41. (直前の回答について) あなたが、付き合っている恋人でなくてもその相手とセックス(性交)をするのは ...  
なぜですか。答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\*  
回答を入力してください
42. あなたは、付き合っている恋人でなくても、セックス(性交)をしたいと思いますか。\* ...  
 したいと思う  
 したいと思わない

43. あなたは、付き合っている恋人でなくても、セックス（性交）をしたいと思いますか。 \* ...
- したいと思う
- したいと思わない
44. あなたは、付き合っている恋人でなくても、セックス（性交）をしたいと思いますか。 \* ...
- したいと思う
- したいと思わない
45. あなたは、付き合っている恋人でなくても、セックス（性交）をしたいと思いますか。 \* ...
- したいと思う
- したいと思わない
46. あなたは、付き合っている恋人でなくても、セックス（性交）をしたいと思いますか。 \* ...
- したいと思う
- したいと思わない
47. あなたは、付き合っている恋人でなくても、セックス（性交）をしたいと思いますか。 \* ...
- したいと思う
- したいと思わない
48. (直前の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*
- 回答を入力してください
- 
49. (直前の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*
- 回答を入力してください
- 
50. (直前の質問の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*
- 回答を入力してください
- 
51. (直前の質問の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*
- 回答を入力してください
- 
52. (直前の質問の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*
- 回答を入力してください
- 
53. (直前の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*
- 回答を入力してください
-

54. (直前の回答について) それはなぜですか。 ……  
 答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。  
 \*  
 回答を入力してください
- 
55. (直前の回答について) それはなぜですか。 ……  
 答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。  
 \*  
 回答を入力してください
- 
56. (直前の回答について) それはなぜですか。 ……  
 答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。  
 \*  
 回答を入力してください
- 
57. (直前の回答について) それはなぜですか。 ……  
 答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。  
 \*  
 回答を入力してください
- 
58. (直前の回答について) それはなぜですか。 ……  
 答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。  
 \*  
 回答を入力してください
- 
59. (直前の回答について) それはなぜですか。 ……  
 答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。  
 \*  
 回答を入力してください
- 

セクション 5 ……

### 3. あなたのセックス (性交) ・避妊に関する行動や考え方

60. あなたはセックス (性交) をするとき、避妊を実施していますか。 \* ……
- いつもしている
- 場合による (したりしなかったりする)
- いつもしていない
61. その避妊方法は何ですか。あてはまるもの全てを選択してください。 \* ……
- コンドーム
- ピル (経口避妊薬)
- 月経からの日数を数える (オギノ式)
- 基礎体温を測る
- 膣外射精法 (精液を外に出す)
- 分からない
- その他 \_\_\_\_\_

62. その避妊方法は何ですか。あてはまるもの全てを選択してください。 \* ...

- コンドーム
- ピル（経口避妊薬）
- 月経からの日数を数える（オギノ式）
- 基礎体温を測る
- 膣外射精法（精液を外に出す）
- 分からない
- その他  
\_\_\_\_\_

63. 避妊を実行しない、または場合による（したりしなかったりする）のはなぜですか。あてはまるもの全てを ...  
選択してください。 \*

- 面倒くさいから
- 準備していないことが多いから
- 多分妊娠しないと思うから
- 避妊を言い出せないから
- 相手に断られるから
- 避妊法を知らないから
- 妊娠したら産むつもり・産んでもらうつもりだから
- 妊娠しても中絶すればよいと思うから
- 相手が同性なので避妊の必要がないから
- その他  
\_\_\_\_\_

64. **セックス（性交）をしたくないとき**、それを相手に伝えることができますか。 \* ...

- 伝えられる
- どちらかといえば伝えられる
- どちらかといえば伝えられない
- 伝えられない

65. （直前の回答について）それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*

回答を入力してください  
\_\_\_\_\_

66. **避妊について**、セックス（性交）をする相手と話したことはありますか。 \* ...

- ある
- ない

67. （直前の回答について）それはどのような内容ですか。差し支えなければご記入ください。 ...

回答を入力してください  
\_\_\_\_\_

68. セックス（性交）、または避妊に関することで、不安に思ったことはありますか。\* ...

- ある
- ない

69. (直前の回答について) それほどのような内容ですか。差し支えなければご記入ください。 ...

回答を入力してください

---

70. その時、どのように不安を解消しようとしたか。あてはまるもの全てを選択してください。 ...

- 病院に行く
- 親に相談する
- きょうだいに相談する
- 友人や先輩・後輩に相談する
- 恋人に相談する
- 学校の先生に相談する
- インターネットやアプリ・SNSなどで調べる
- 忘れようとする
- 特に何もしていない
- 覚えていない
- その他  
\_\_\_\_\_

## セクション 6

...

### 3. あなたのセックス（性交）・避妊に関する行動や考え方

71. 今、あなたにセックス（性交）をする相手がいいたとして、セックス（性交）をするとき、避妊を実行しますか。\* ...

- すると思う
- 場合による（したりしなかったりする）と思う
- しないと思う

72. その避妊方法は何ですか。あてはまるもの全てを選択してください。\* ...

- コンドーム
- ビル（経口避妊薬）
- 月経からの日数を数える（オギノ式）
- 基礎体温を測る
- 膣外射精法（精液を外に出す）
- わからない
- その他  
\_\_\_\_\_

73. その避妊方法は何ですか。あてはまるもの全てを選択してください。 \* ...

- コンドーム
- ピル（経口避妊薬）
- 月経からの日数を数える（オギノ式）
- 基礎体温を測る
- 膈外射精法（精液を外に出す）
- わからない
- その他  
\_\_\_\_\_

74. 避妊を実行しないと思う、または場合によると思うのはなぜですか。あてはまるもの全てを選択してください。 \* ...

- 面倒くさいから
- 準備していないことが多いから
- 多分妊娠しないと思うから
- 避妊を言い出せないから
- 相手に断られるから
- 避妊法を知らないから
- 妊娠したら産むつもり・産んでもらうつもりだから
- 妊娠しても中絶すればよいと思うから
- 相手が同性なので避妊の必要がないから
- その他  
\_\_\_\_\_

75. 今、あなたにセックス（性交）をする相手がいたとして、**セックス（性交）をしたくないとき**、それを相手に伝えることができますか。 \* ...

- 伝えられると思う
- どちらかといえば伝えられると思う
- どちらかといえば伝えられないと思う
- 伝えられないと思う

76. （直前の回答について）それはなぜですか。 \* ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。 \*

回答を入力してください  
\_\_\_\_\_

77. セックス（性交）、または避妊に関することで、不安に思ったことはありますか。 \* ...

- ある
- ない

78. （直前の回答について）それはどのような内容ですか。差し支えなければご記入ください。 \* ...

回答を入力してください  
\_\_\_\_\_

79. その時、どのように不安を解消しようとしたか。あてはまるもの全てを選択してください。 ...

- 病院に行く
- 親に相談する
- きょうだいに相談する
- 友人や先輩・後輩に相談する
- 恋人に相談する
- 学校の先生に相談する
- インターネットやアプリ・SNSなどで調べる
- 忘れようとする
- 特に何もしていない
- 覚えていない
- その他  
\_\_\_\_\_

## セクション7

...

### 3. あなたのセックス（性交）・避妊に関する行動や考え方

80. あなたは、自分に避妊の知識が必要だと思いますか。\* ...

- 必要だと思う
- どちらかといえば必要だと思う
- どちらかといえば必要だと思わない
- 必要だと思わない

81. (直前の回答について) それはなぜですか。 ...  
答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\*

回答を入力してください

---

82. セックス（性交）、または避妊に関することで、不安に思ったことはありますか。\* ...

- ある
- ない

83. (直前の回答について) それはどのような内容ですか。差し支えなければご記入ください。 ...

回答を入力してください

---



84. その時、どのように不安を解消しようとしたか。あてはまるもの全てを選択してください。 ...

- 病院に行く
- 親に相談する
- きょうだいに相談する
- 友人や先輩・後輩に相談する
- 恋人に相談する
- 学校の先生に相談する
- インターネットやアプリ・SNSなどで調べる
- 忘れようとする
- 特に何もしていない
- 覚えていない、またはわからない
- その他  
\_\_\_\_\_

セクション 8

...

85. 「セックス（性交）」に対して、あなた自身はどのようなイメージをもっていますか。答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\* ...

回答を入力してください

---

86. 「避妊」に対して、あなた自身はどのように捉えていますか。答えたくない場合は、「答えたくない」とご記入ください。\* ...

回答を入力してください

---

87. 現在、性に関することで悩んでいることはありますか。下の欄に何でも自由に記入してください。 ...

回答を入力してください

---

88. ご意見・ご感想等ありましたら、ご記入ください。 ...

回答を入力してください

---